

ごみ中間処理施設整備事業 環境影響予測評価書案 説明会



平成30年12月
厚木市

【説明会 スクリーン説明資料】

説明内容

- ① 環境影響評価の手続きについて
- ② 事業の目的
- ③ 事業計画の概要
- ④ 公害防止計画
- ⑤ 工事計画
- ⑥ 環境影響評価項目
- ⑦ 現地調査及び予測地点・範囲
- ⑧ 現地調査及び予測・評価結果
- ⑨ 事後調査計画の概要
- ⑩ 今後の予定

① 環境影響評価の手続について

【実施計画書の手続】

- ・ 実施計画書の作成
- ・ 実施計画書の公告・縦覧
- ・ 実施計画書の説明会

実施済み：[実施計画書の手続]
平成28年12月

- ・ 調査・予測・評価の実施

【予測評価書案の手続】

- ・ 予測評価書案の作成
- ・ 予測評価書案の公告・縦覧
- ・ 予測評価書案の説明会
- ・ 意見・見解書の公告・縦覧
- ・ 県公聴会の開催
(・ 知事審査書)
- ・ 予測評価書の作成
- ・ 予測評価書の公告・縦覧

[予測評価書案の手続]
公告日：平成30年11月16日（金）
縦覧及び意見書の提出期間：
平成30年11月16日（金）
～平成31年1月4日（金）

2019年度(平成31年度)予定

事業着手

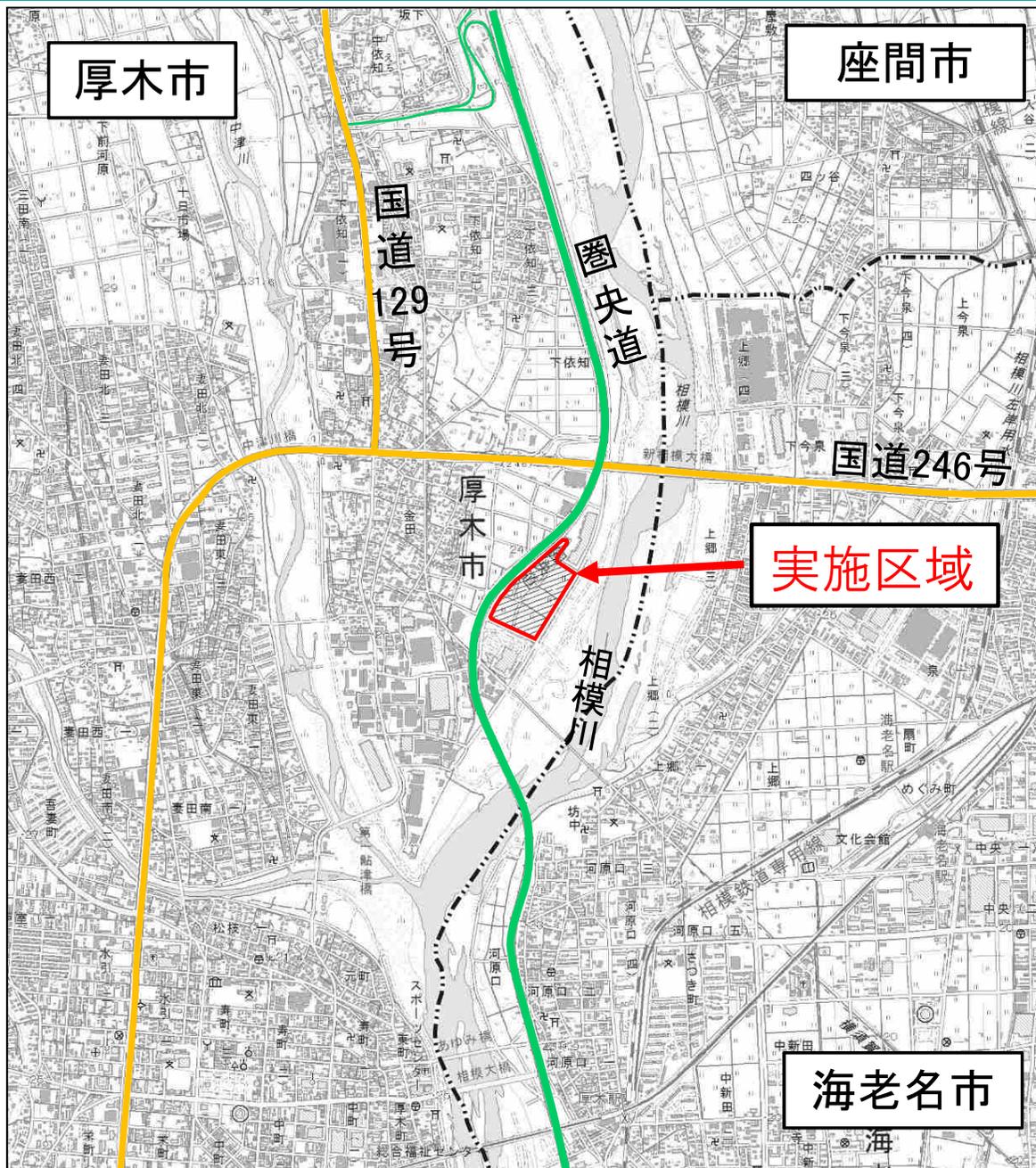
② 対象事業の必要性と目的

厚木市、愛川町及び清川村（以下「構成市町村」という。）の可燃ごみを焼却処理している厚木市環境センターは、昭和62年竣工のため、施設の老朽化が進み、更新が必要な状況となっています。

このため、厚木市では、最新の技術を採用した安全性・安定性を備えた経済的な新たな廃棄物処理施設（ごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設、以下「計画施設」という。）を建設し、ごみの適正処理や循環型社会形成に寄与することを目的として、本事業を実施します。

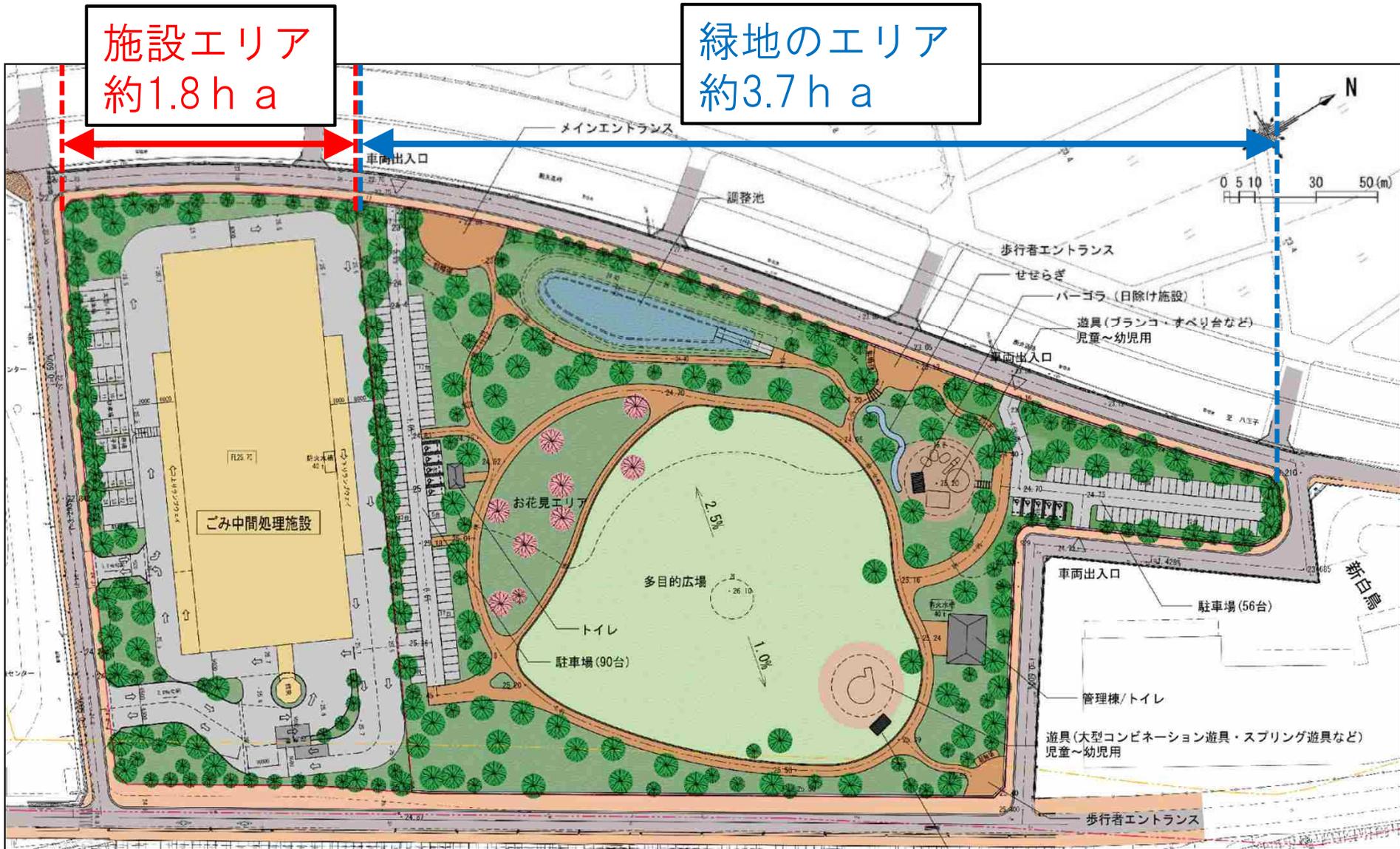
③ 事業計画の概要

● 実施区域の位置



③ 事業計画の概要

● 実施区域 実施区域の面積：約5.5ヘクタール



③ 対象事業の概要

項 目		内 容
ごみ焼却施設	処理能力	273 t / 日(災害廃棄物処理分10%含む) (一般廃棄物年間処理量：66,448 t)
	焼却方式	ストーカ方式
	炉構成	2 炉
	ごみピット容量	約10,050m ³ 以上 (施設規模の7日分、単位容積重量：0.1903 t / m ³)
	煙突の高さ	80m (地元住民等で構成される委員会等において検討し、検討委員会での審議、承認を経て決定)
	発電効率	17%以上
	余熱利用	施設内利用の余剰分は、発電及び余熱利用施設への熱供給を行う。
	主要設備の基本仕様(項目)	(1) 受入供給設備、(2) 燃焼設備、(3) 排ガス冷却設備、(4) 排ガス処理設備、(5) 余熱利用設備、(6) 通風設備、(7) 灰出し設備、(8) 給水設備、(9) 排水処理設備、(10) 受電設備、(11) 計装設備、(12) 雑設備
処理大ごみ施設	処理能力	20 t / 日 (年間処理量：3,791 t)
	主要設備の基本仕様(項目)	(1) 受入供給設備、(2) 破砕設備、(3) 搬送設備、(4) 選別設備、(5) 貯留搬出設備、(6) 集じん設備、(7) 給水設備、(8) 排水処理設備、(9) 電気設備、(10) 計装設備、(11) 雑設備
緑地のエリア		災害時は災害廃棄物一時保管場所、平時は憩いの場として開放
収集車両等		1日当たり最大で約420台、最小で約290台を想定

④ 公害防止計画

基本構想で設定した計画目標値及び近年建設された類似施設のデータを参考とし、環境保全と経済性のバランスを考慮して、自主規制値を設定しました。

排ガス濃度の基準

項目	自主規制値	大気汚染防止法等（国）	生活環境の保全等に関する条例（県）
ばいじん	0.005 g/m ³ _N 以下	0.04 g/m ³ _N 以下	0.05 g/m ³ _N 以下
硫黄酸化物	10 ppm以下	2,427 ppm以下※1(K値11.5)	80 ppm(※1)
塩化水素	10 ppm以下	430 ppm以下	430 ppm以下
窒素酸化物	20 ppm以下	250 ppm以下	132 ppm(※1)
一酸化炭素(4時間平均)	30 ppm以下	100 ppm以下	—
ダイオキシン類	0.01 ng-TEQ/m ³ _N 以下	0.1 ng-TEQ/m ³ _N 以下	—
水銀	0.03 mg/m ³ _N	0.03 mg/m ³ _N 以下	—

※1.値は法や条例に示されている式を用いて算出した。

※2.カドミウム(0.5mg/m³_N以下)、鉛(10mg/m³_N以下)、アンモニア(50ppm以下)、シアン(11.6mg/m³_N以下)、ふっ素(2.5mg/m³_N以下)、塩素(1ppm以下)及び硫化水素(10ppm以下)は県条例を遵守する。

「排水」「臭気」は厚木市の基準又は規制を遵守することとし、
「騒音・振動」は「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」における規制を適用します。

⑤ 工事計画

● 工事工程

- ・ 環境影響評価の手続が終了した後に工事着手します。
- ・ 工事期間（土地造成、建設工事等）は、着手後、概ね4年9ヶ月を予定しています。

工種	2021(H33)年度	2022(H34)年度	2023(H35)年度	2024(H36)年度	2025(H37)年度
造成工事	■				
施設本体工事 (試運転を含む)		■			
緑地整備工事			■		
外周市道工事※	■				
施設の稼働					■

⑤ 工事計画

● 工事概要

- ・ 工事の主な工種は、実施区域を約3m嵩上げする造成工事、施設本体工事及び緑地整備工事が挙げられます。工事用車両の台数は、造成工事、施設本体工事時（地下躯体）にダンプ等の大型車が最も多く、282台/日（大型車：164台/日、小型車：118台/日）を想定しています。

主な工事等	工事概要
造成工事	<ul style="list-style-type: none">・ 浸水対策を目的に、実施区域の約3mの嵩上げを行います。・ 盛土工事を行い、盛土工事完了後、盛土部分の整地を行い、その後、法面・擁壁、雨水排水側溝等の工事を行います。
施設本体工事	<ul style="list-style-type: none">・ 工場棟及び煙突等の建築工事及び、これに並行して順次プラント工事を実施します。・ 杭工事に伴い発生する泥土は、場外に搬出します。・ ごみピット等の掘削工事に当たっては遮水性の高い土留工法等を採用し、ごみピット等の掘削により発生した掘削土は、実施区域内で再利用を図ります。・ 山留め工事に伴い発生する泥土は、場外に搬出します。・ その他、植栽工事や舗装工事、排水工事等の外構工事を行います。
緑地整備工事	<ul style="list-style-type: none">・ 広場の整備、管理事務所・トイレの建設等を行います。

⑥ 環境影響評価項目

区分 環境影響要因の区分 評価項目	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用		
	造成工事等	建設機械の稼働	工事用車両の走行	土地又は工作物の存在	施設の稼働	関係車両の走行
大気汚染	○	○	○		○	○
水質汚濁	○					
土壌汚染					○	
騒音・低周波音		○	○		○	○
振動		○	○		○	○
地盤沈下	○					
悪臭					○	
廃棄物・発生土	○				○	
電波障害				○		
日照障害				○		
気象						
水象	○					
地象						
植物・動物・生態系	○	○	○	○	○	○
文化財						
景観				○		
レクリエーション資源			○		○	○
温室効果ガス		○	○		○	○
地域分断						
安全			○		○	○

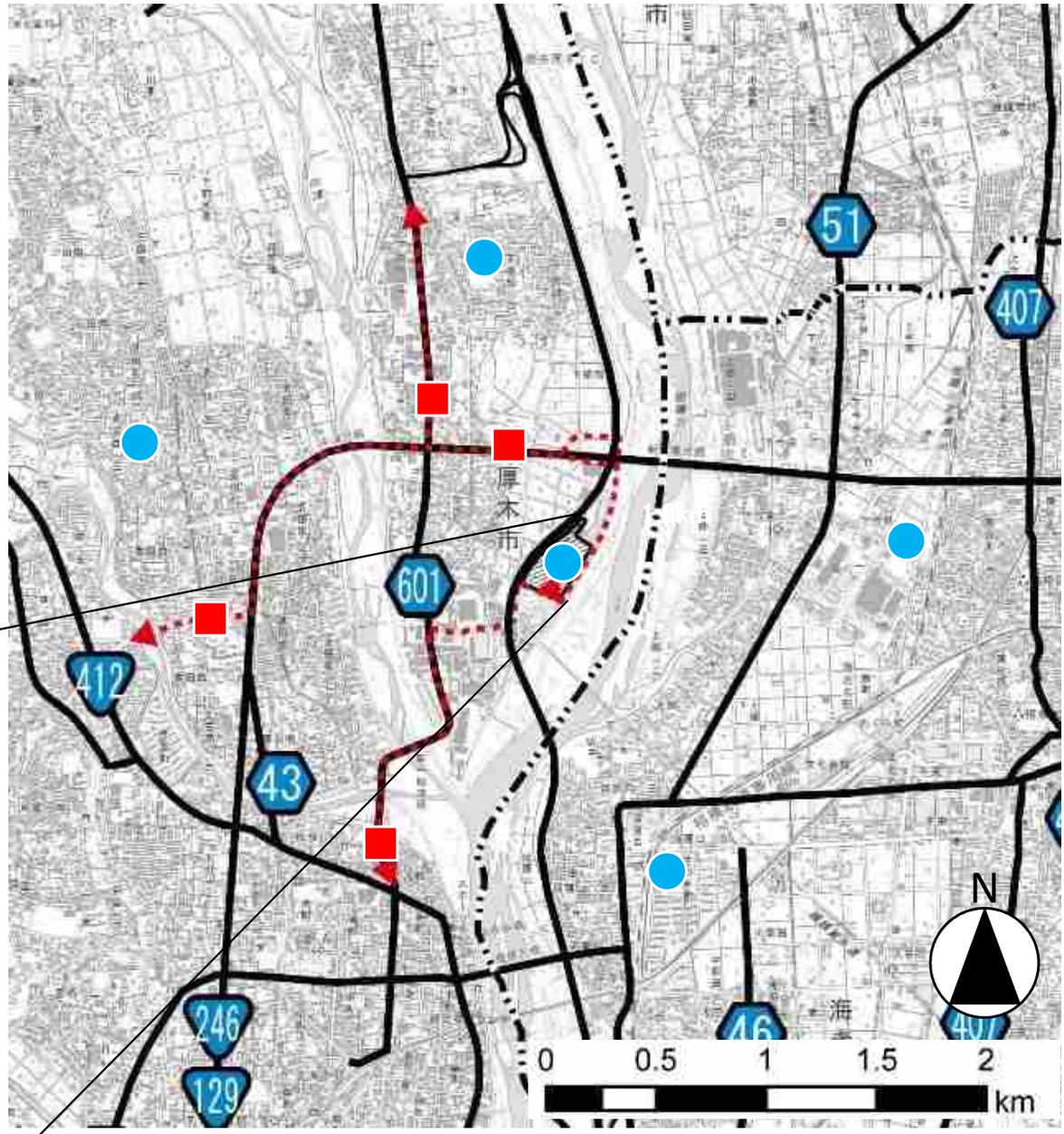
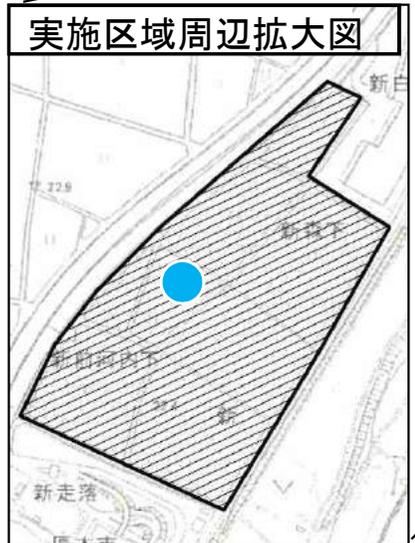
注) ○：評価項目として選定する項目
 空白：影響が軽微であるか又は影響がないため評価項目として選定しなかった項目

⑧-1 大気汚染 — 現地調査結果 —

● 環境大気、地上・上層気象調査地点
調査内容：二酸化硫黄等
地点数：5地点
時期等：四季それぞれ連続7日間
※上層気象は実施区域のみ

■ 沿道大気調査地点
調査内容：浮遊粒子状物質等
地点数：4地点
時期等：四季それぞれ連続1ヶ月間

←...→ 主な走行ルート



⑧-1 大気汚染 — 現地調査結果 —

調査項目		内容	測定結果	環境基準等	判定
環境	二酸化硫黄	日平均値の最高値	0.000~0.004ppm	0.04ppm	○
		1時間値の最高値	0.001~0.006ppm	0.1ppm	○
	浮遊粒子状物質	日平均値の最高値	0.013~0.045 mg/m ³	0.10mg/m ³	○
		1時間値の最高値	0.032~0.086 mg/m ³	0.20mg/m ³	○
	二酸化窒素	日平均値の最高値	0.012~0.034ppm	0.04~0.06ppm	○
	塩化水素	日平均値の最高値	<0.0001~0.0015ppm	0.02ppm	○
	ダイオキシン類	年間(四期)の平均値	0.014~0.022pg-TEQ/m ³	0.6pg-TEQ/m ³	○
	水銀	年間(四期)の平均値	0.0022~0.0032 μg/m ³	0.04 μg/m ³	○
	鉛	日平均値の最高値	5.1~14.0ng/m ³	50,000ng/m ³	○
	カドミウム	日平均値の最高値	0.13~1.20ng/m ³	10,000ng/m ³	○
	降下ばいじん	各季の測定結果	0.6~6.4t/km ² /月	10t/km ² /月	○
微小粒子状物質 (PM2.5)	年間(四期)の平均値	9.3 μg/m ³	15 μg/m ³	○	
	日平均値の最高値	25.6 μg/m ³	35 μg/m ³	○	
沿道	浮遊粒子状物質	日平均値の最高値	0.013~0.055 mg/m ³	0.10mg/m ³	○
		1時間値の最高値	0.035~0.125 mg/m ³	0.20mg/m ³	○
	二酸化窒素	日平均値の最高値	0.014~0.045ppm	0.04~0.06ppm	○

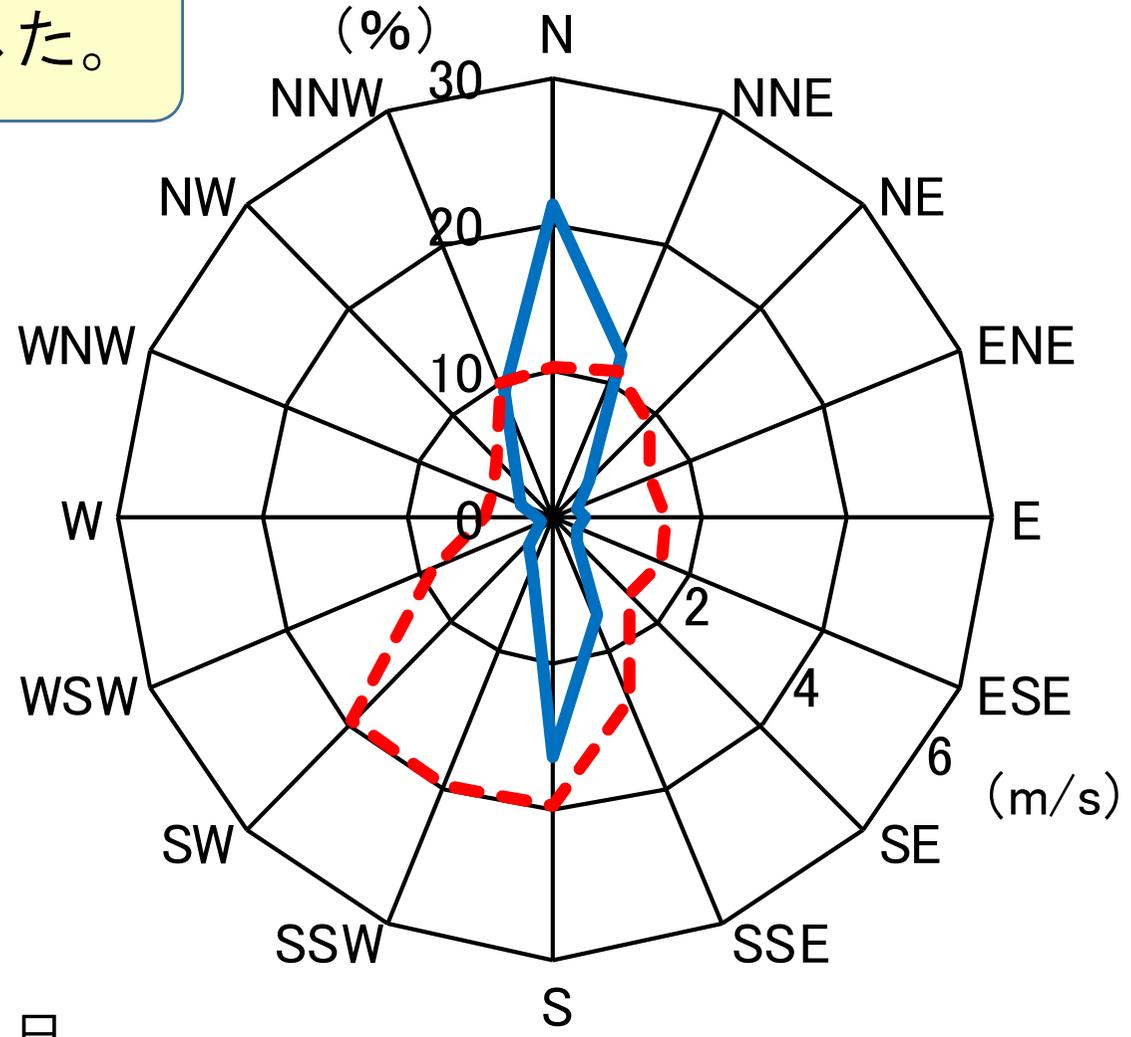
全ての項目、地点で環境基準等を下回っていました。

⑧-1 大気汚染 ー現地調査結果ー

【地上気象】

北と南の風が多くみられました。

- : 風向頻度
 - - - : 平均風速
- ※静穏：0.4m/s以下
静穏率：7.4%

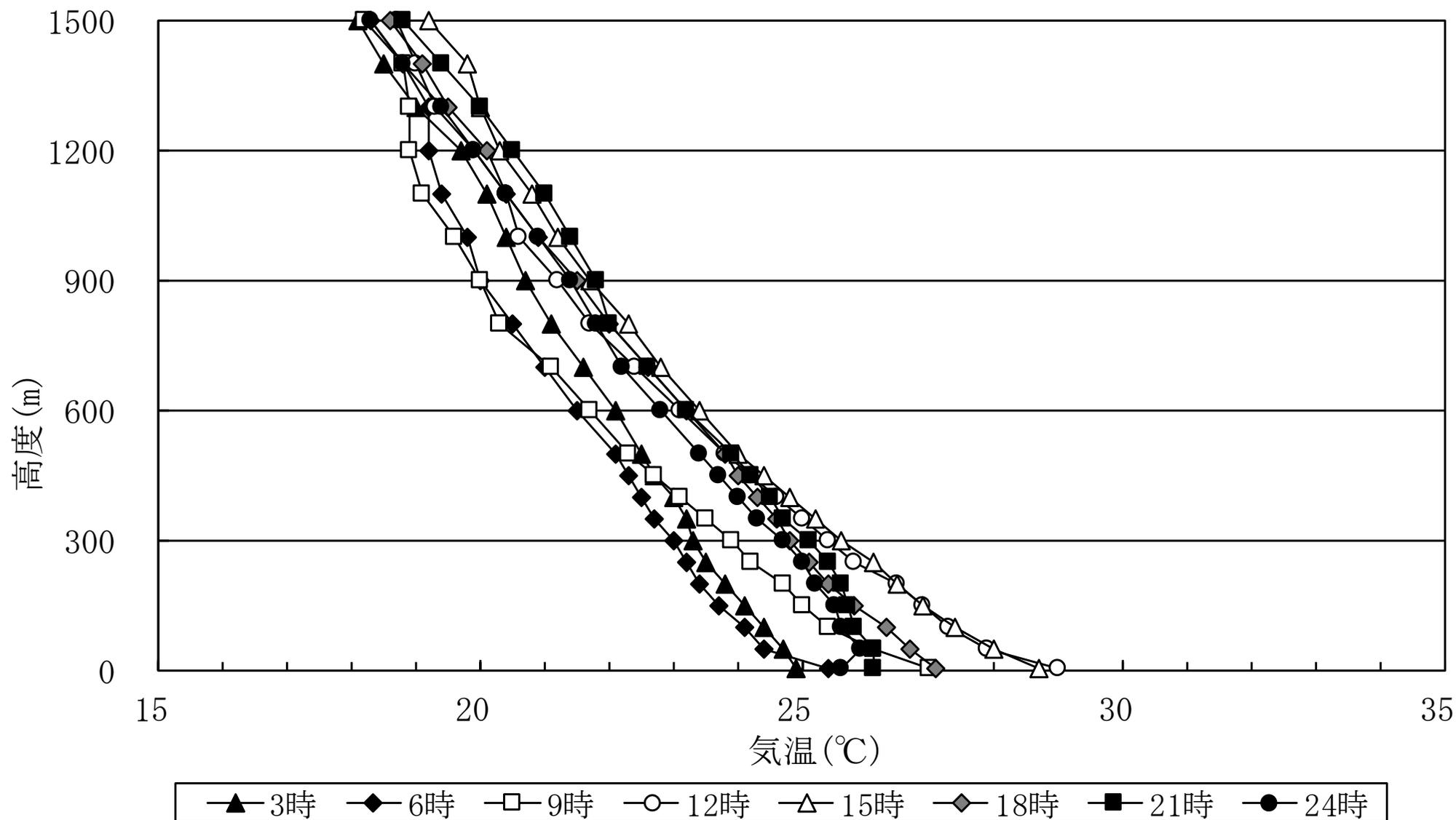


実施区域

平成29年4月1日～平成30年3月31日

⑧-1 大気汚染 — 現地調査結果 —

【上層気象】 (夏季)

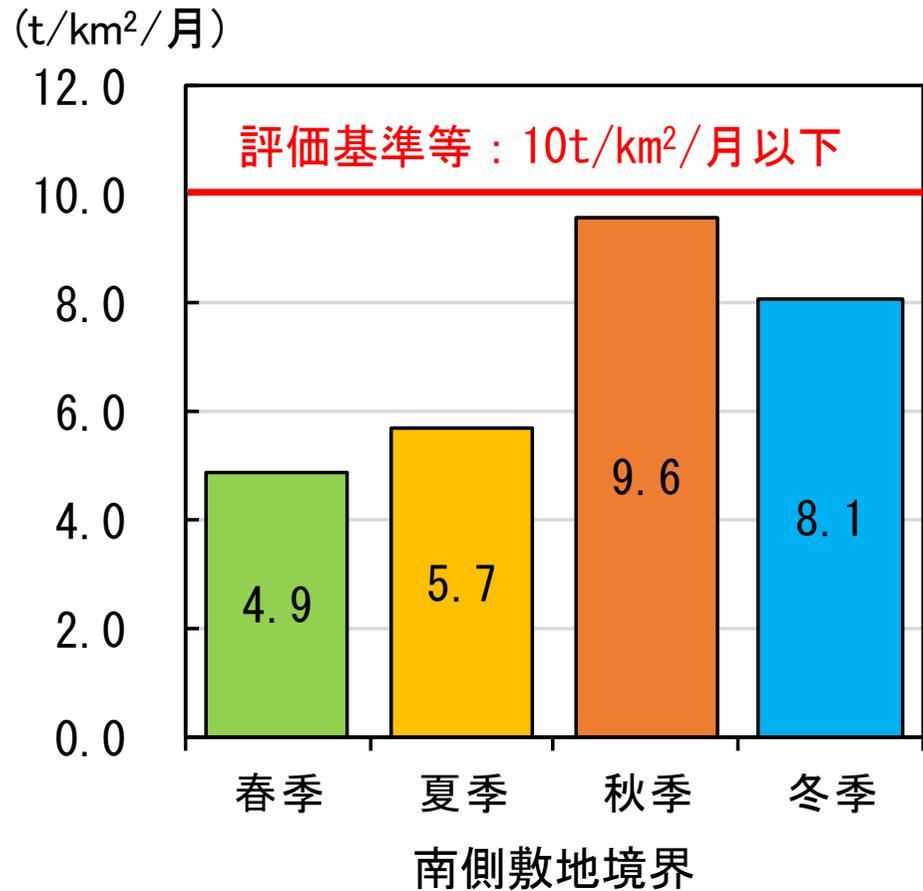


<参考①> 環境基準等について

- 環境基準は、人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで「維持されることが望ましい基準」で、行政上の目標値です。
大気質の他に、水質、土壌、騒音、ダイオキシン類について定められています。
- 排ガスの排出基準や排水基準、騒音等の規制基準は関係法令で定められた「守らなければならない基準」で超過した場合は、行政から改善命令等が行われることとなります。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

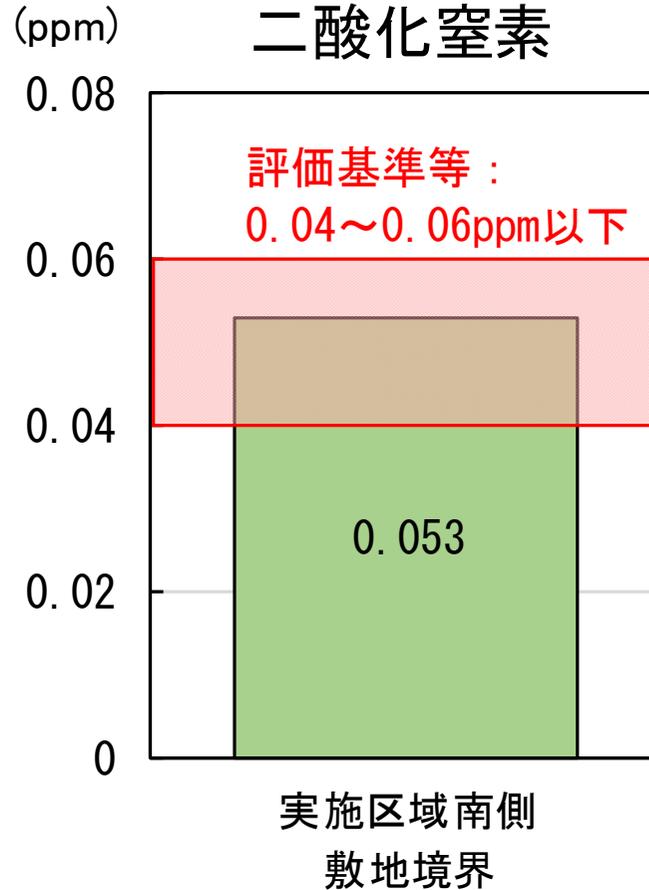
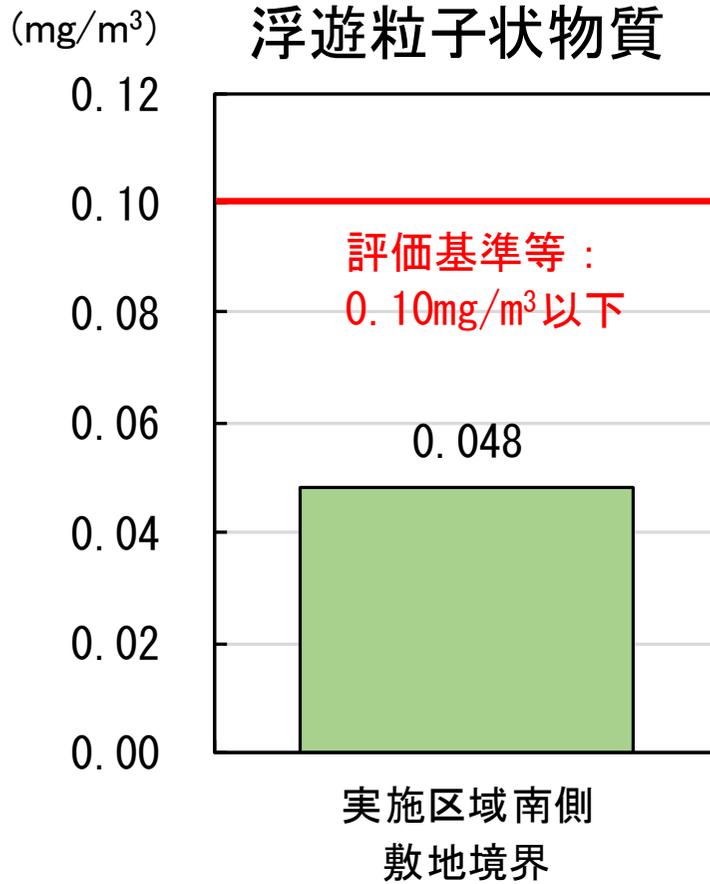
【造成工事等及び建設機械の稼働に伴う粉じん】



- ・ 評価基準等と整合が図られています。
- ・ 工事区域周辺は工事用仮囲いを設置します。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

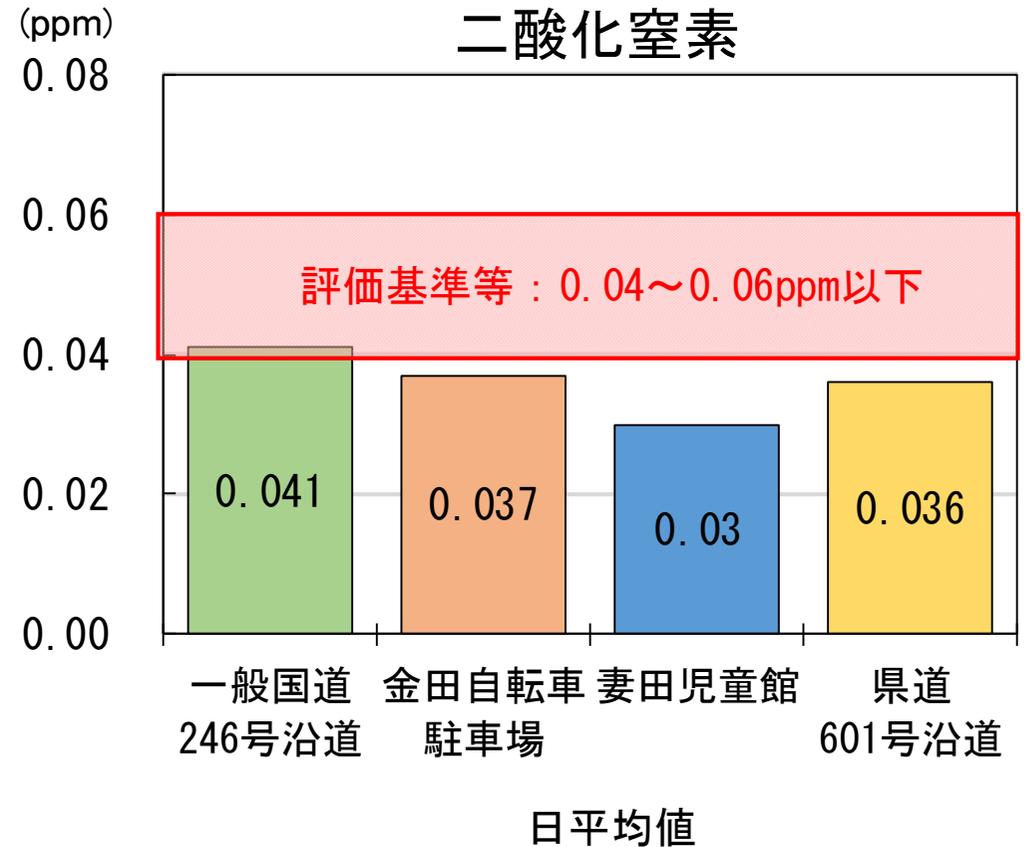
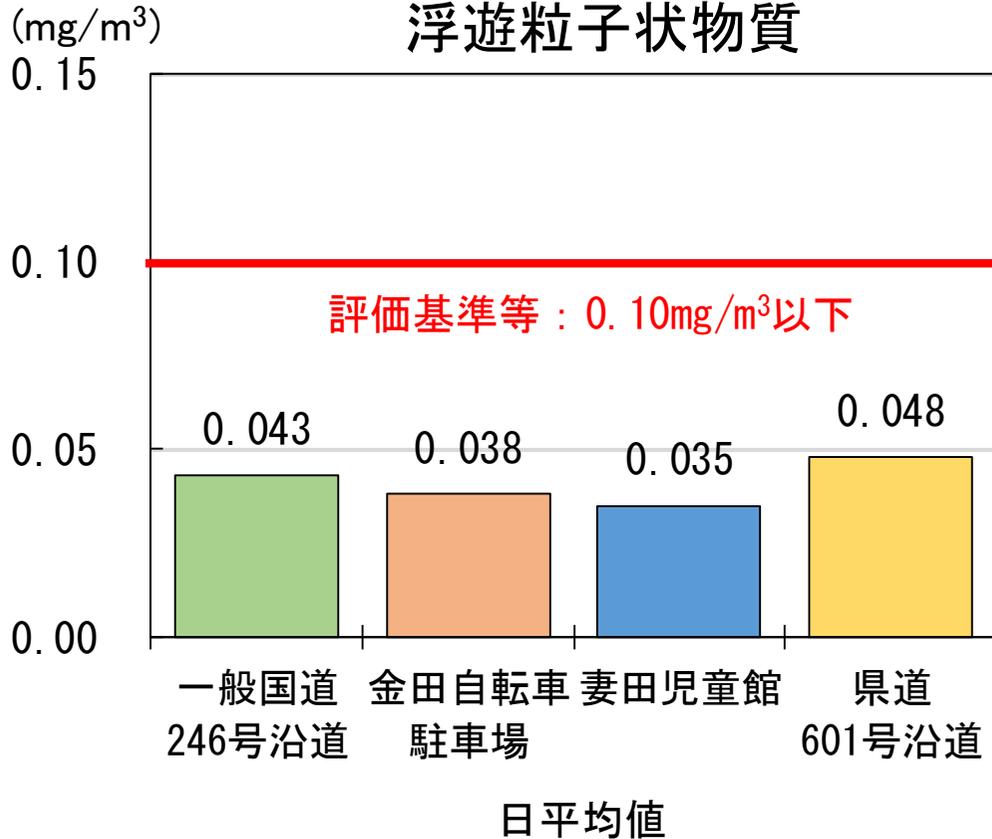
【建設機械の稼働に伴う浮遊粒子状物質及び二酸化窒素】



- ・ 浮遊粒子状物質、二酸化窒素ともに評価基準等と整合が図られています。
- ・ 建設機械のアイドリングストップを徹底します。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

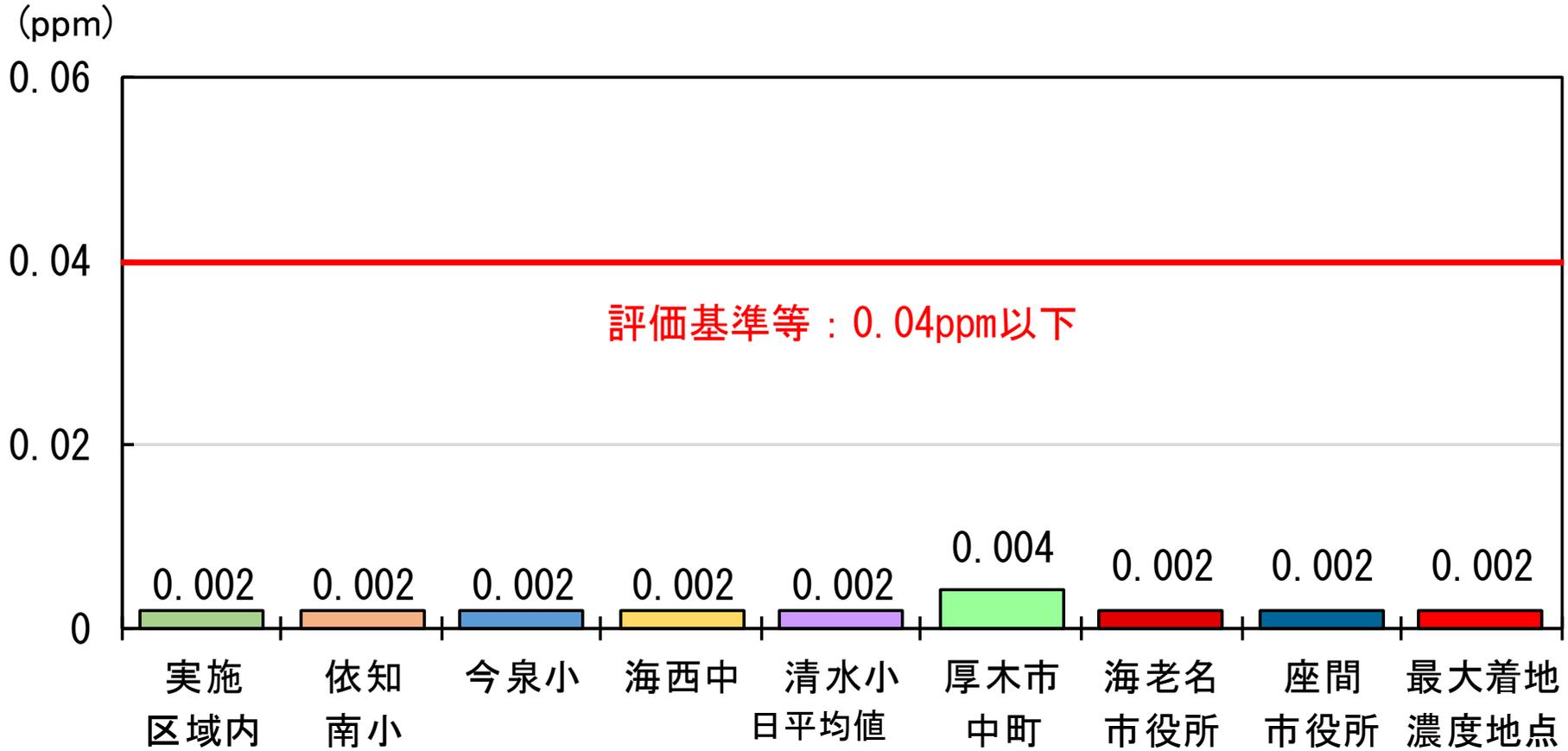
【工事用車両の走行に伴う浮遊粒子状物質及び二酸化窒素】



- ・ 浮遊粒子状物質、二酸化窒素ともに評価基準等と整合が図られています。
- ・ 工事用車両の走行時期や時間の分散に努めます。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】二酸化硫黄

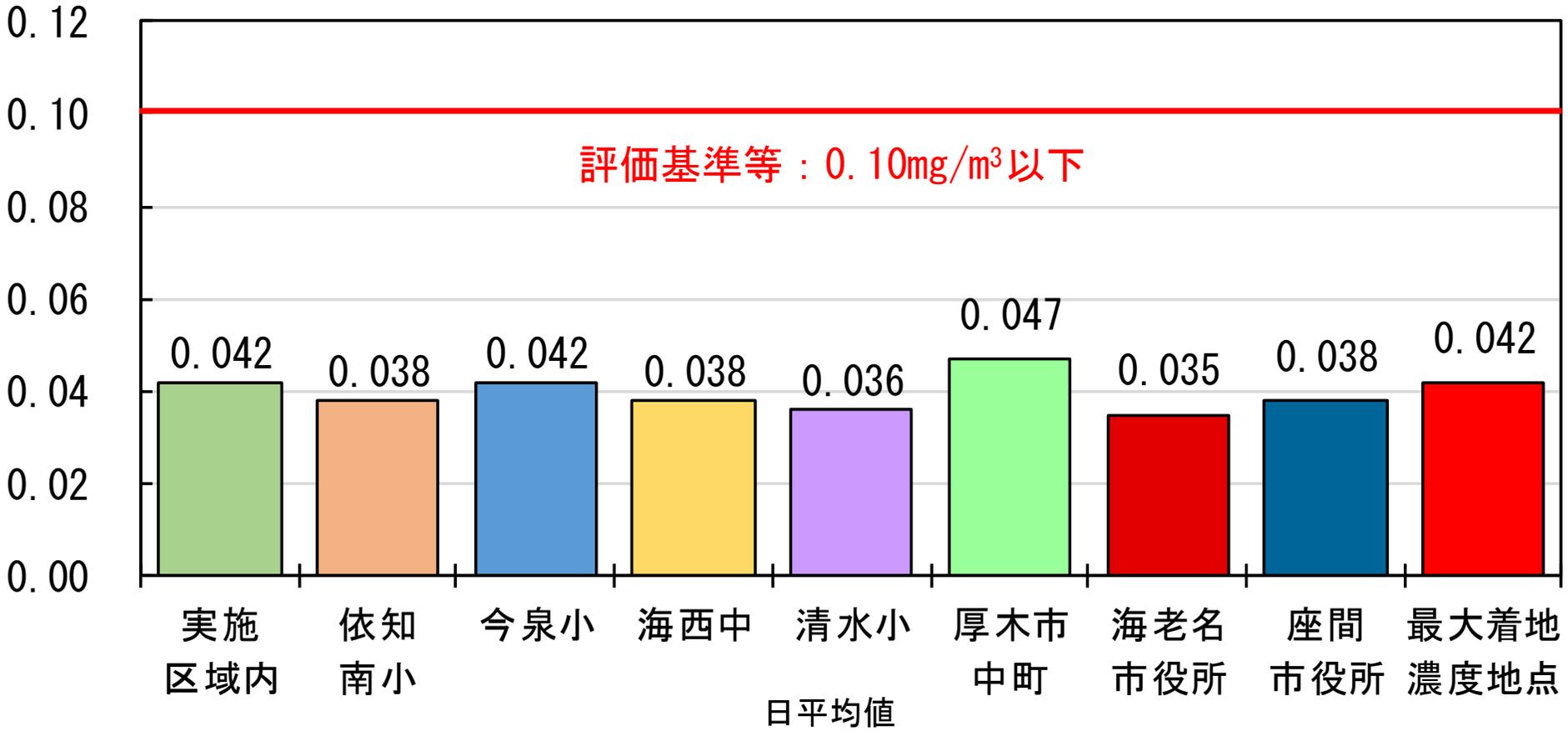


各地点で評価基準等と整合が図られています。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】 浮遊粒子状物質

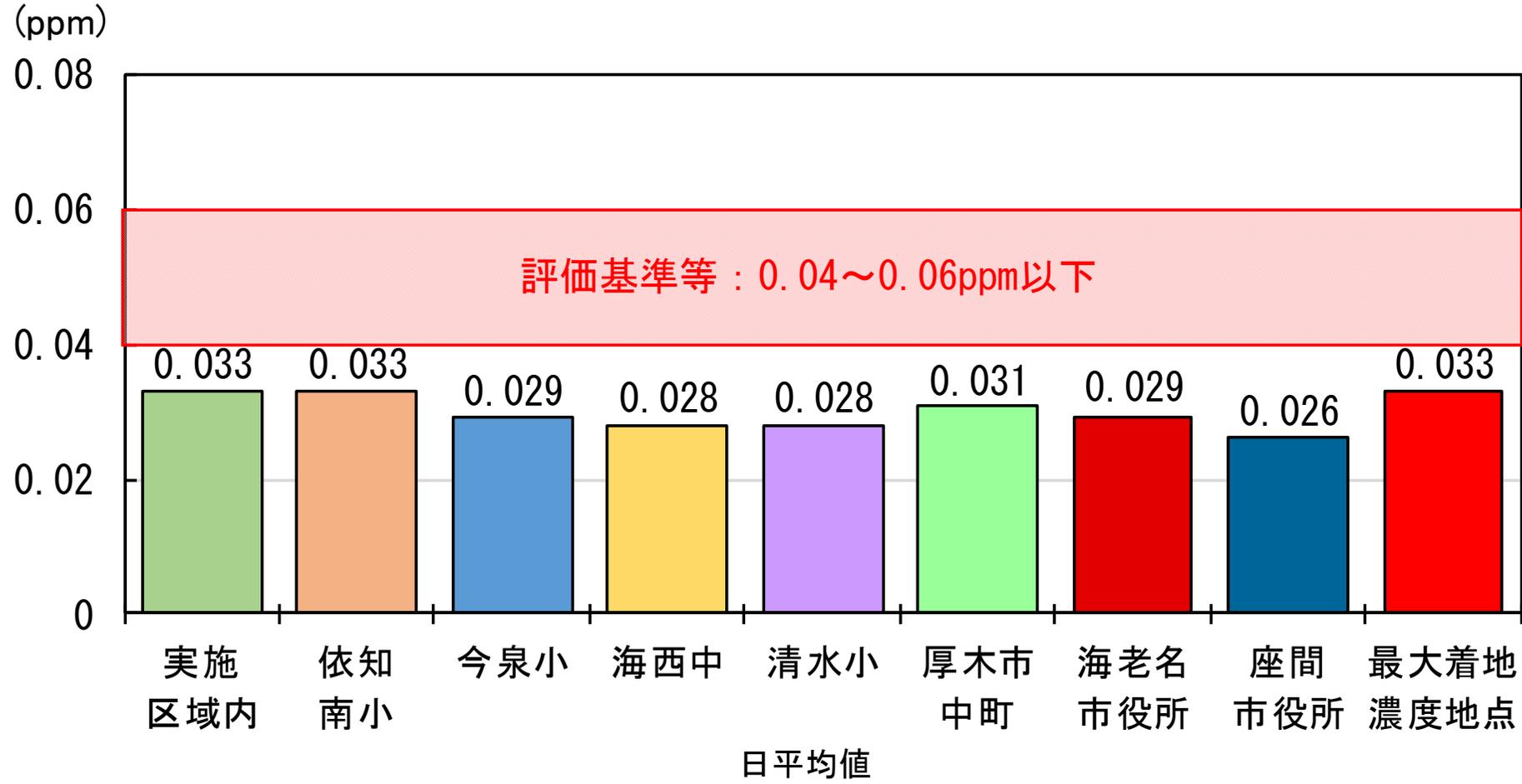
(mg/m³)



各地点で評価基準等と整合が図られています。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】二酸化窒素

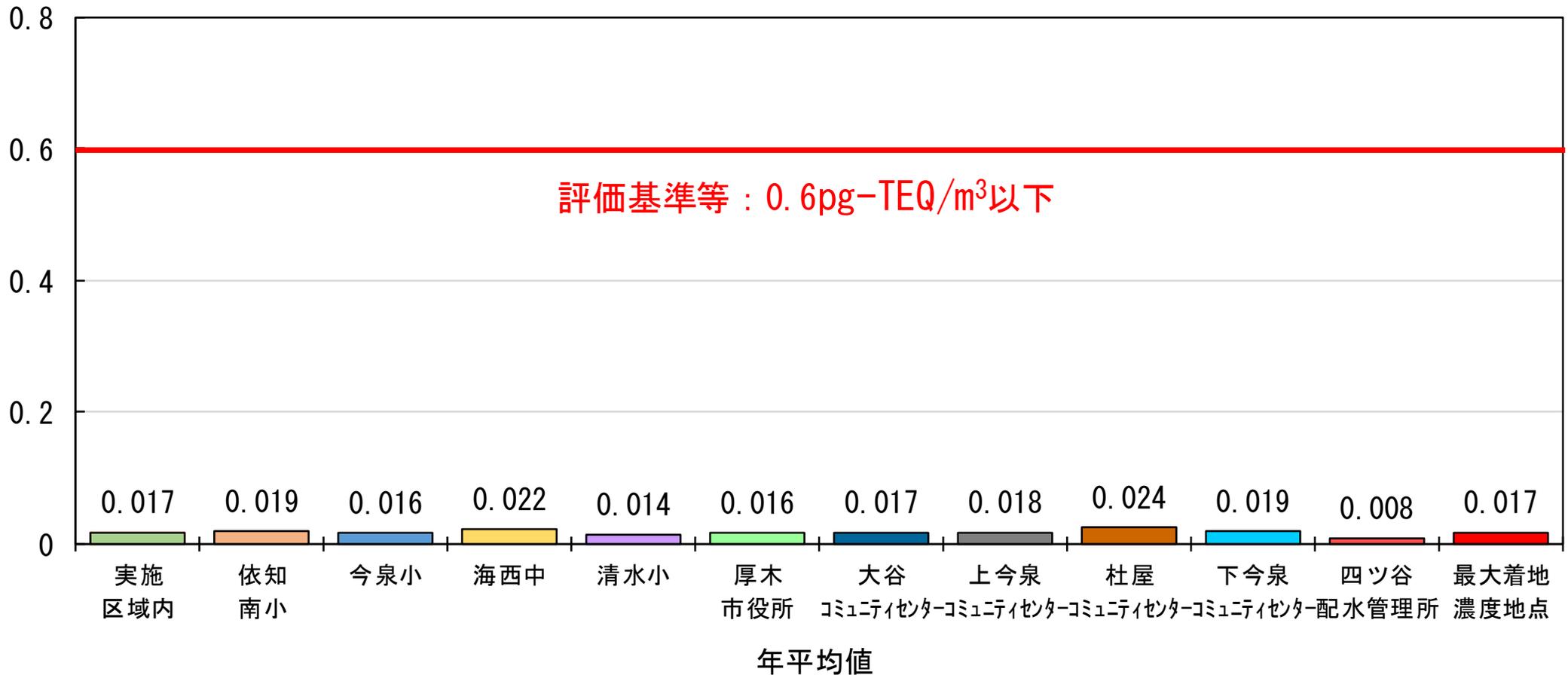


各地点で評価基準等と整合が測られています。

⑧-1 大気汚染 ー予測・評価結果ー

【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】ダイオキシン類

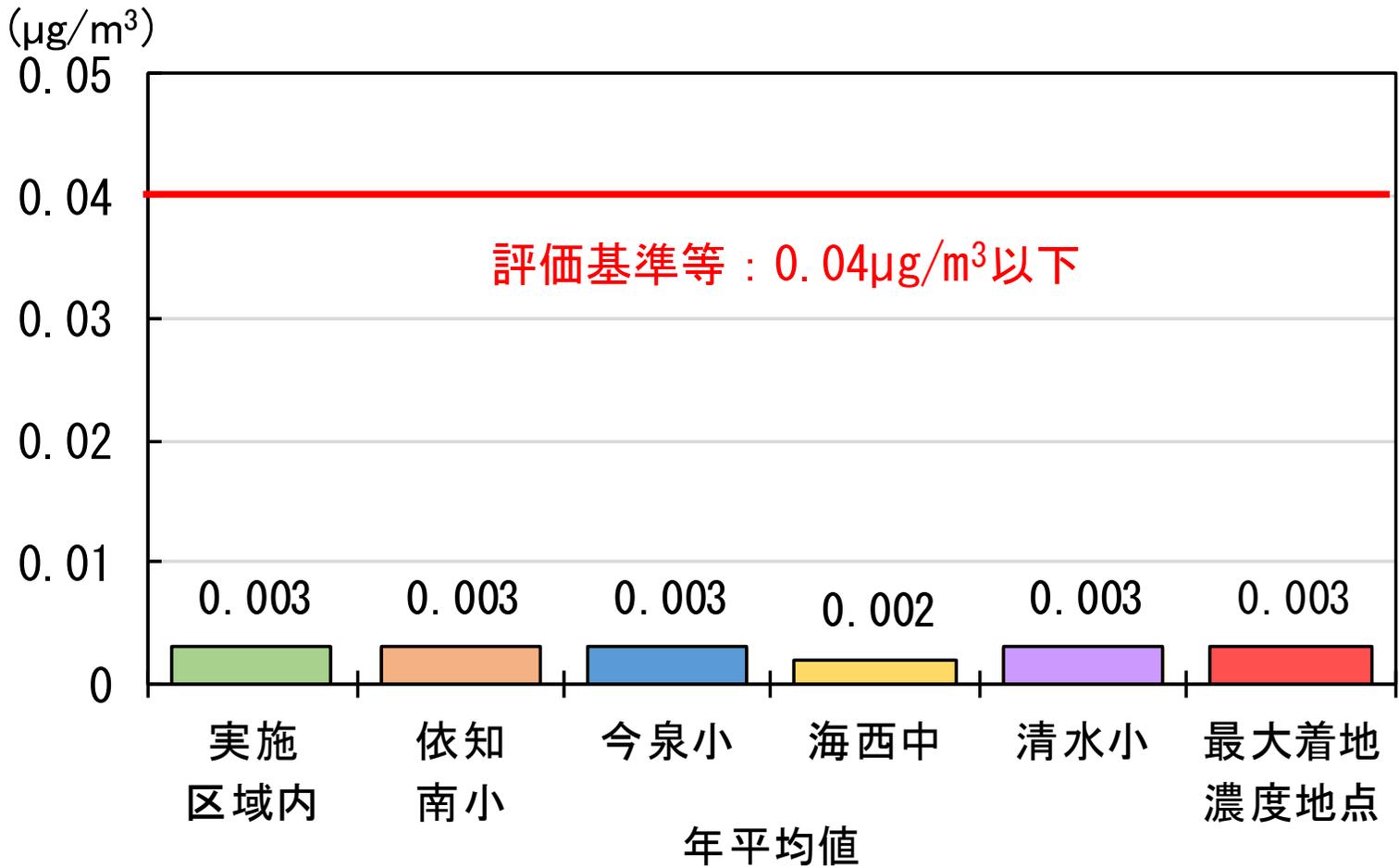
(pg-TEQ/m³)



各地点で評価基準等と整合が図られてしています。

⑧-1 大気汚染 ー予測・評価結果ー

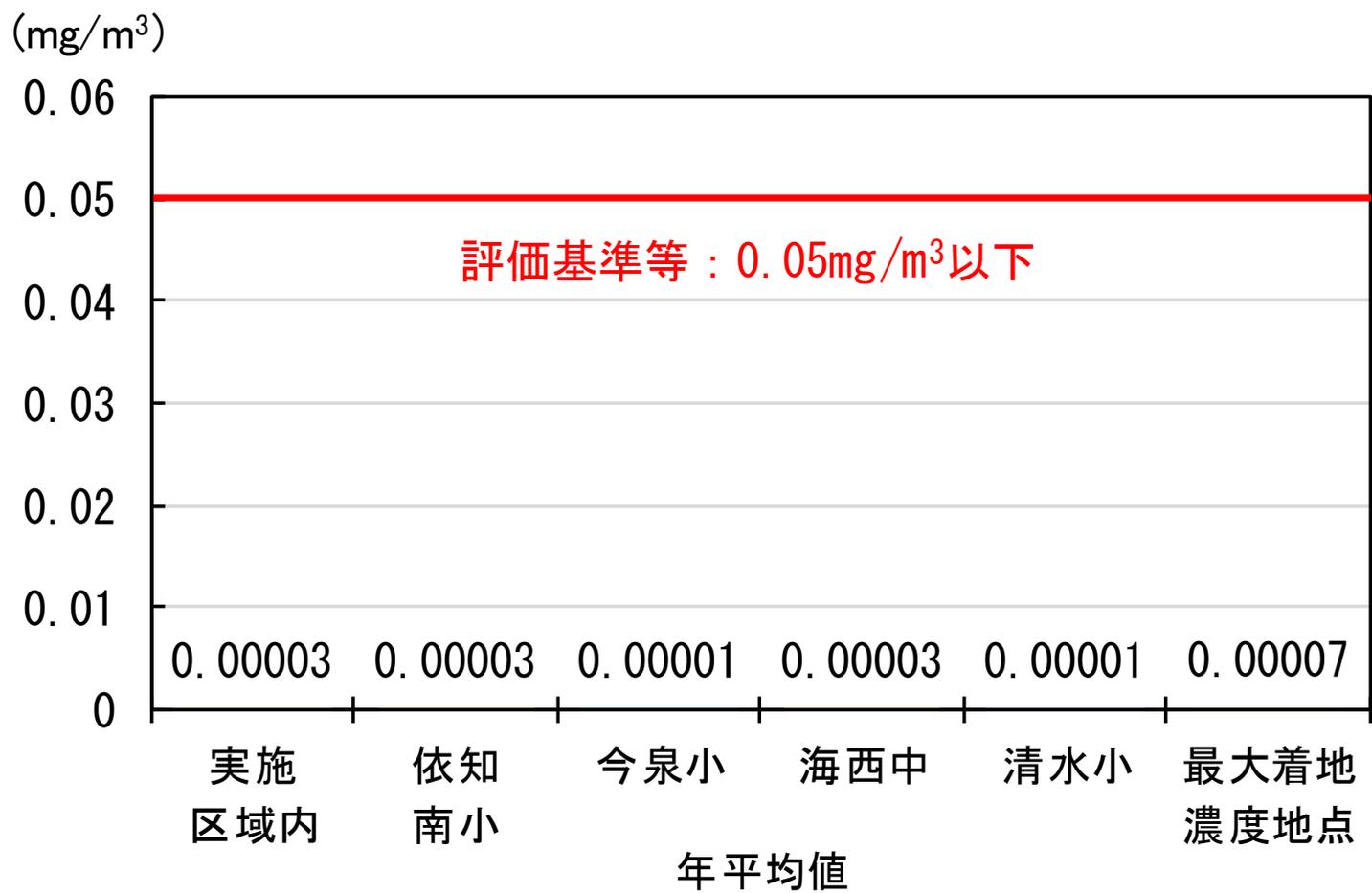
【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】水銀



各地点で評価基準等と整合が図られています。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

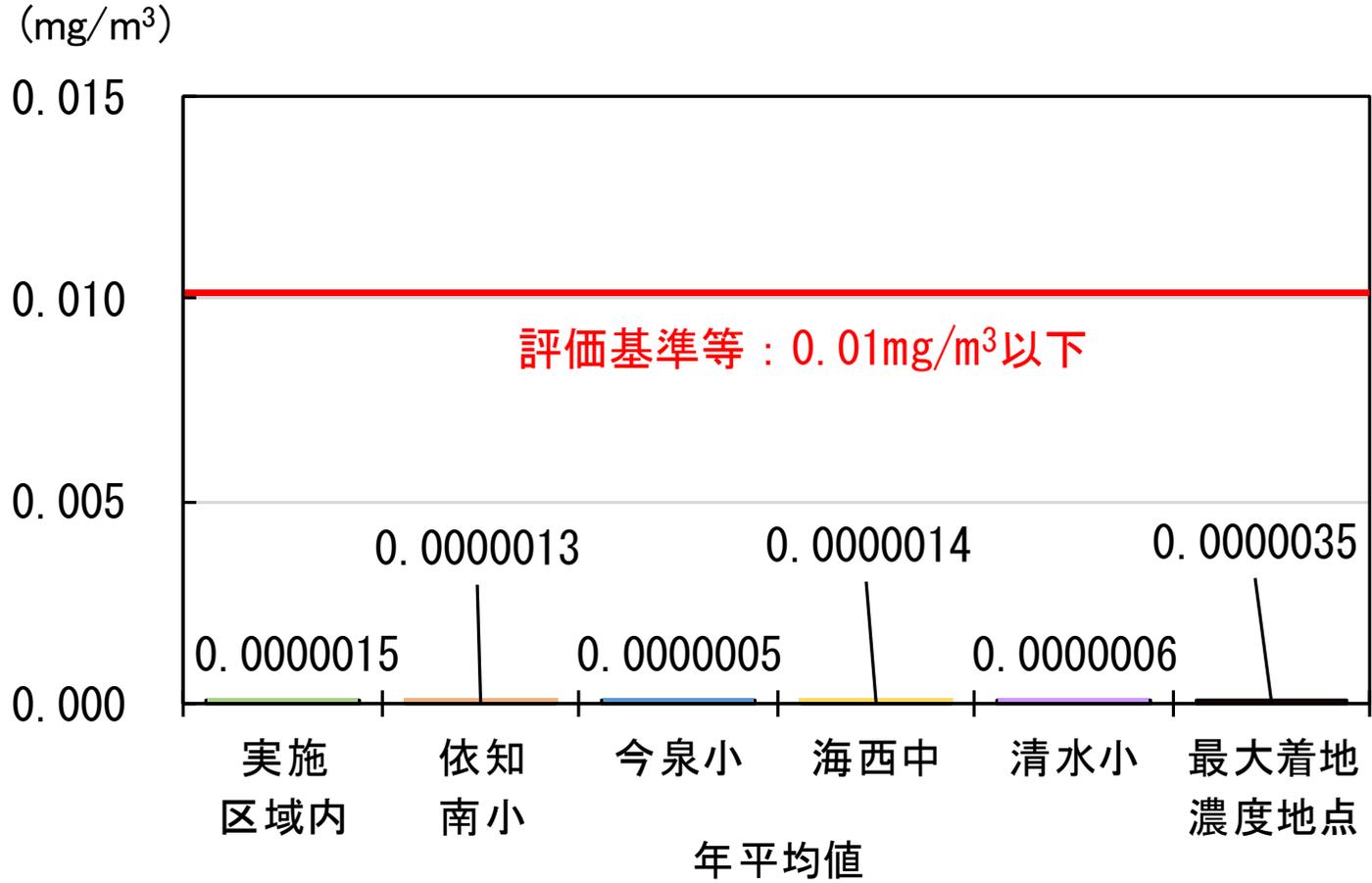
【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】鉛



各地点で評価基準等と整合が図られています。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

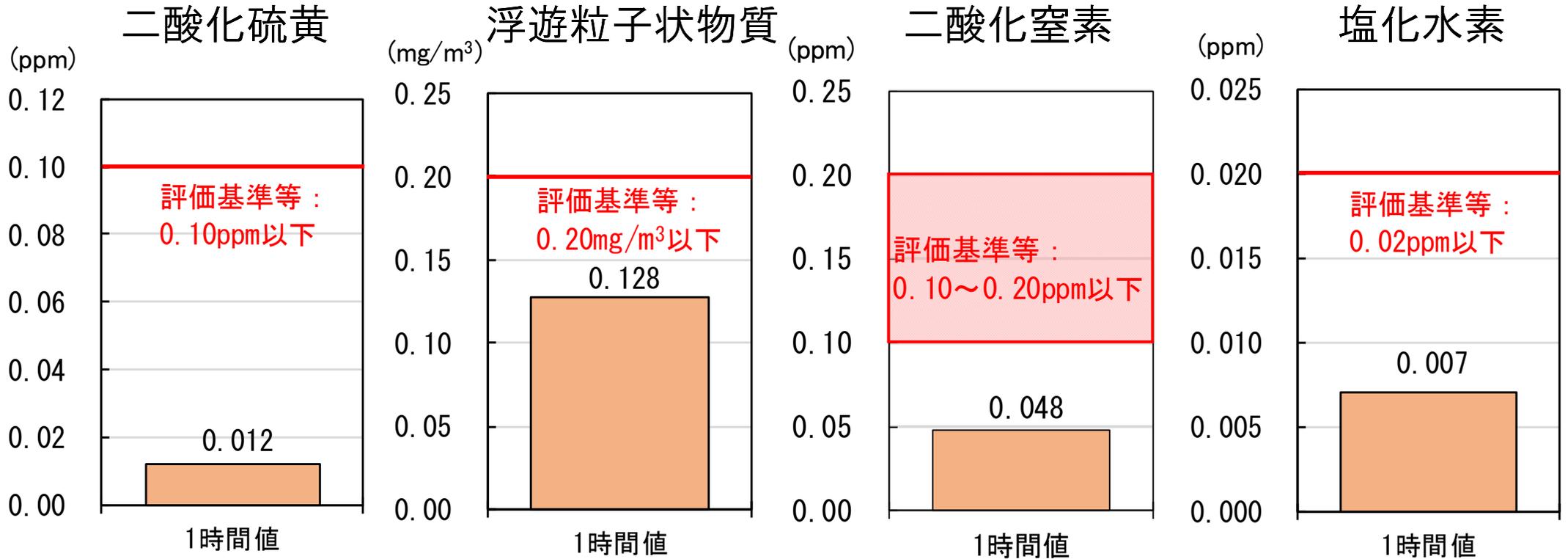
【施設の稼働に伴う煙突排ガス（長期平均濃度）】カドミウム



各地点で評価基準等と整合が図られています。

⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

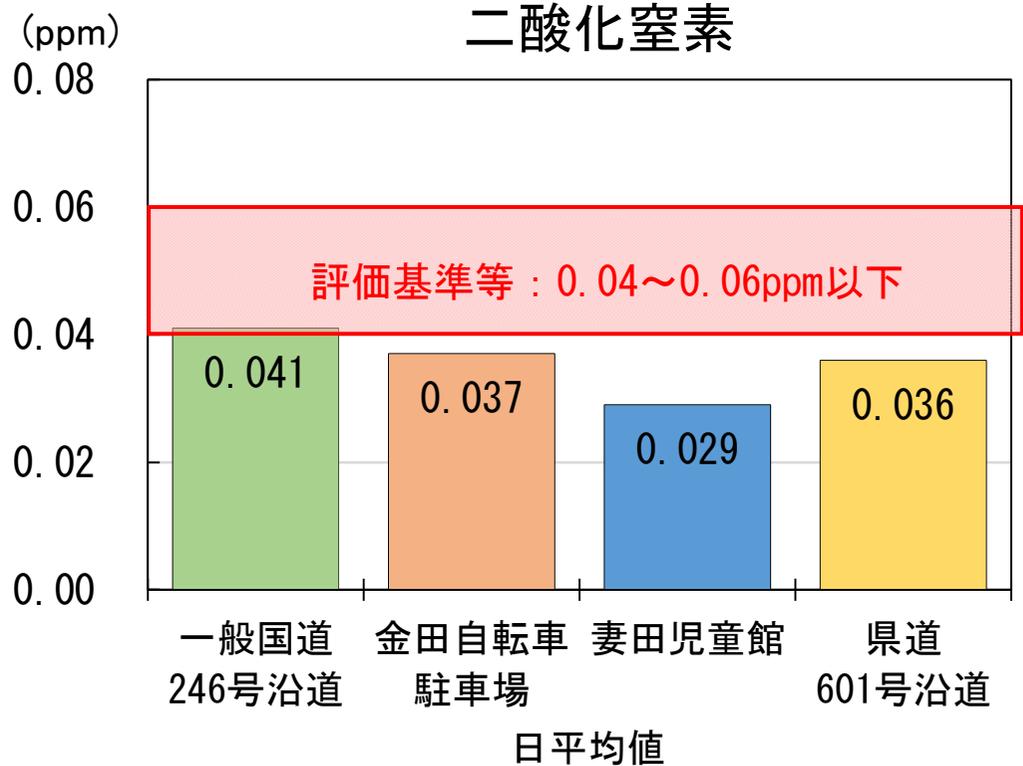
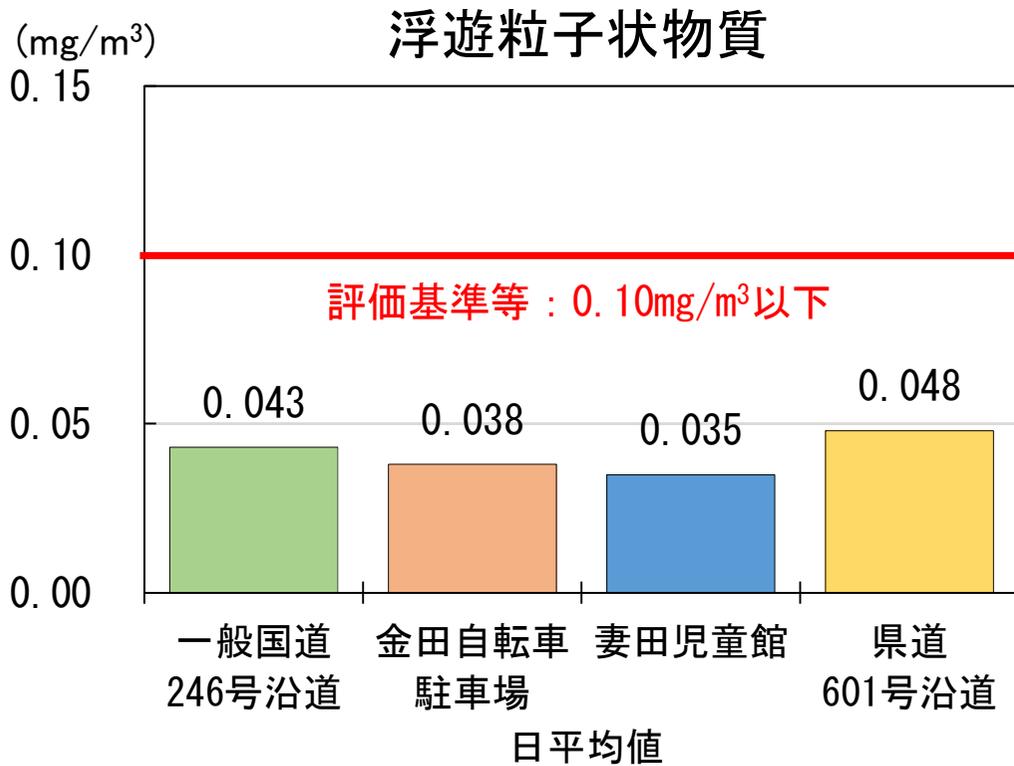
【施設の稼働に伴う煙突排ガス（短期平均濃度）】



- ・ 各地点で**評価基準等**と**整合が図られています**。
- ・ 施設に消石灰、活性炭吹き込み、ろ過式集じん機（バグフィルター）等を設けます。

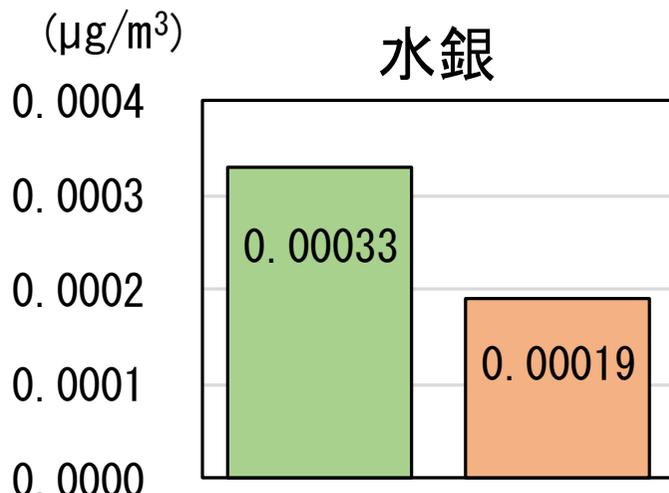
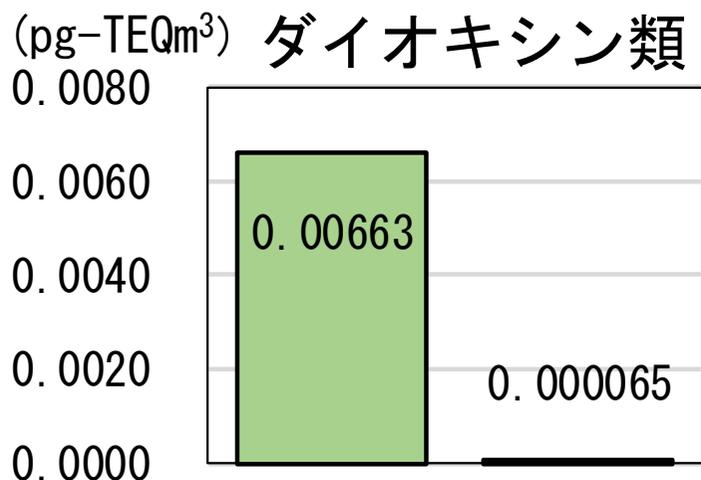
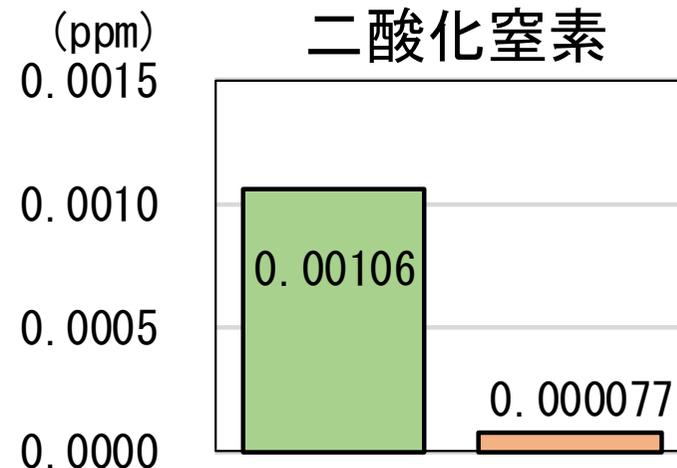
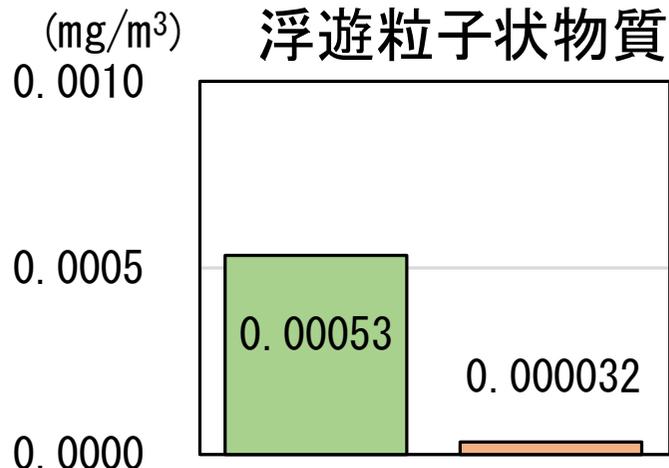
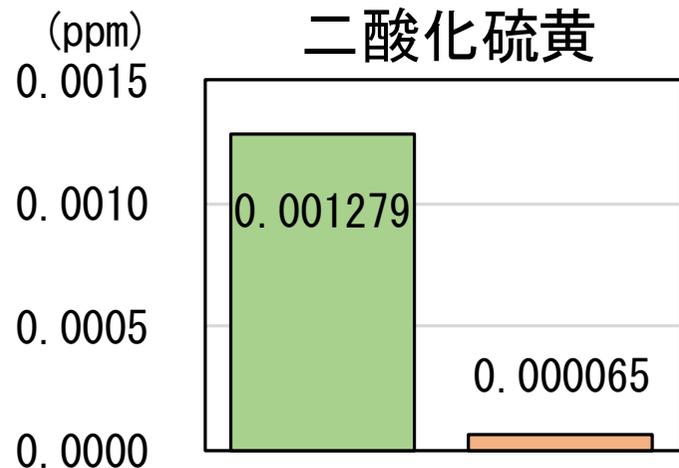
⑧-1 大気汚染 一予測・評価結果一

【関係車両の走行に伴う浮遊粒子状物質及び二酸化窒素】



- ・ 浮遊粒子状物質、二酸化窒素ともに**評価基準等と整合が図られています。**
- ・ 速度や積載量等の交通規制及び指定走行ルート、標示規制等を遵守するよう指導します。

厚木市環境センター（現施設）との比較（寄与濃度）



全ての項目で**計画施設の方が**厚木市環境センター(現施設)よりも**低い濃度**と予測されます。

■ 厚木市環境センター (現施設) ■ 計画施設

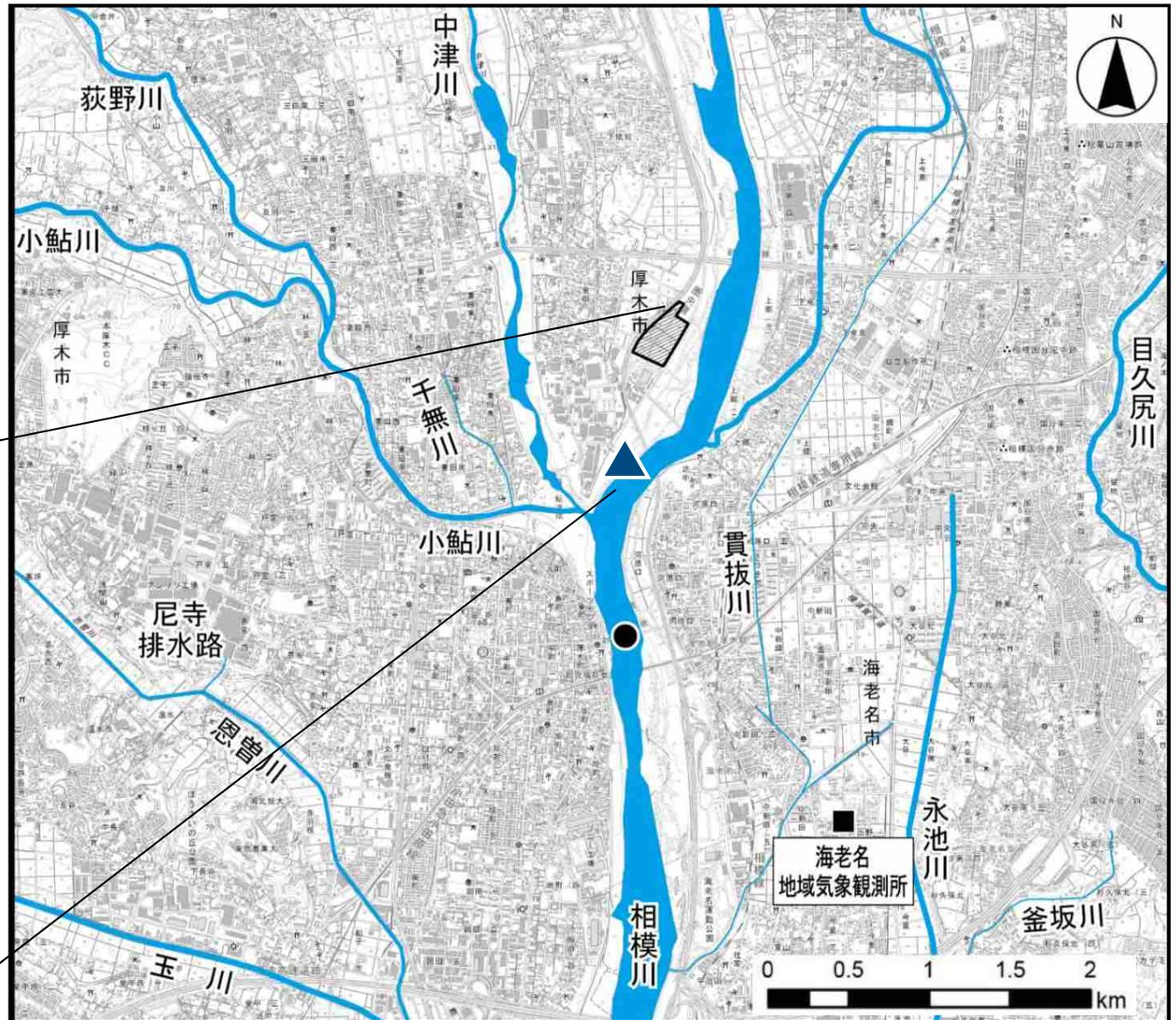
⑧-2 水質汚濁 — 現地調査結果 —

▲ 水質調査地点

調査内容：・浮遊物量
・水素イオン濃度

地点数：1地点

時期等：降雨時2回



⑧-2 水質汚濁 ー現地調査結果ー

【水質汚濁の現地調査結果】

回数	浮遊物質質量		水素イオン濃度	
	1日目	2日目	1日目	2日目
1回目	84	8	7.7	7.8
2回目	42	10	7.9	7.7
3回目	46	13	7.6	7.9
4回目	110	19	8.5	7.5
5回目	84	10	7.6	7.6
6回目	50	6	7.7	7.6

⑧-2 水質汚濁 ー予測・評価結果ー

【造成工事等に伴う水の濁り】

現況水質(SS) (mg/L)	現況流量 (m ³ /h)	排水水質 (mg/L)	排水流量 (m ³ /h)	予測結果(SS) (mg/L)
110	16,657	115	412.5	110

- ・ 予測結果は現況水質と同じ110mg/Lであり、現状の**公共用水域の外観に著しい影響を及ぼすことはありません。**
- ・ 工事中には、実施区域内に仮設沈砂池を設け、雨水等を一旦貯留し、濁水の土砂を沈降させた後に上澄みを放流するとともに、仮設沈砂池は適宜浚渫を行います。

【コンクリート工事に伴う水素イオン濃度】

- ・ コンクリート工事に伴う排水は、環境基準内(水素イオン濃度8.5以下)に中和処理を行った後排水するため、**影響は小さいと予測**されます。

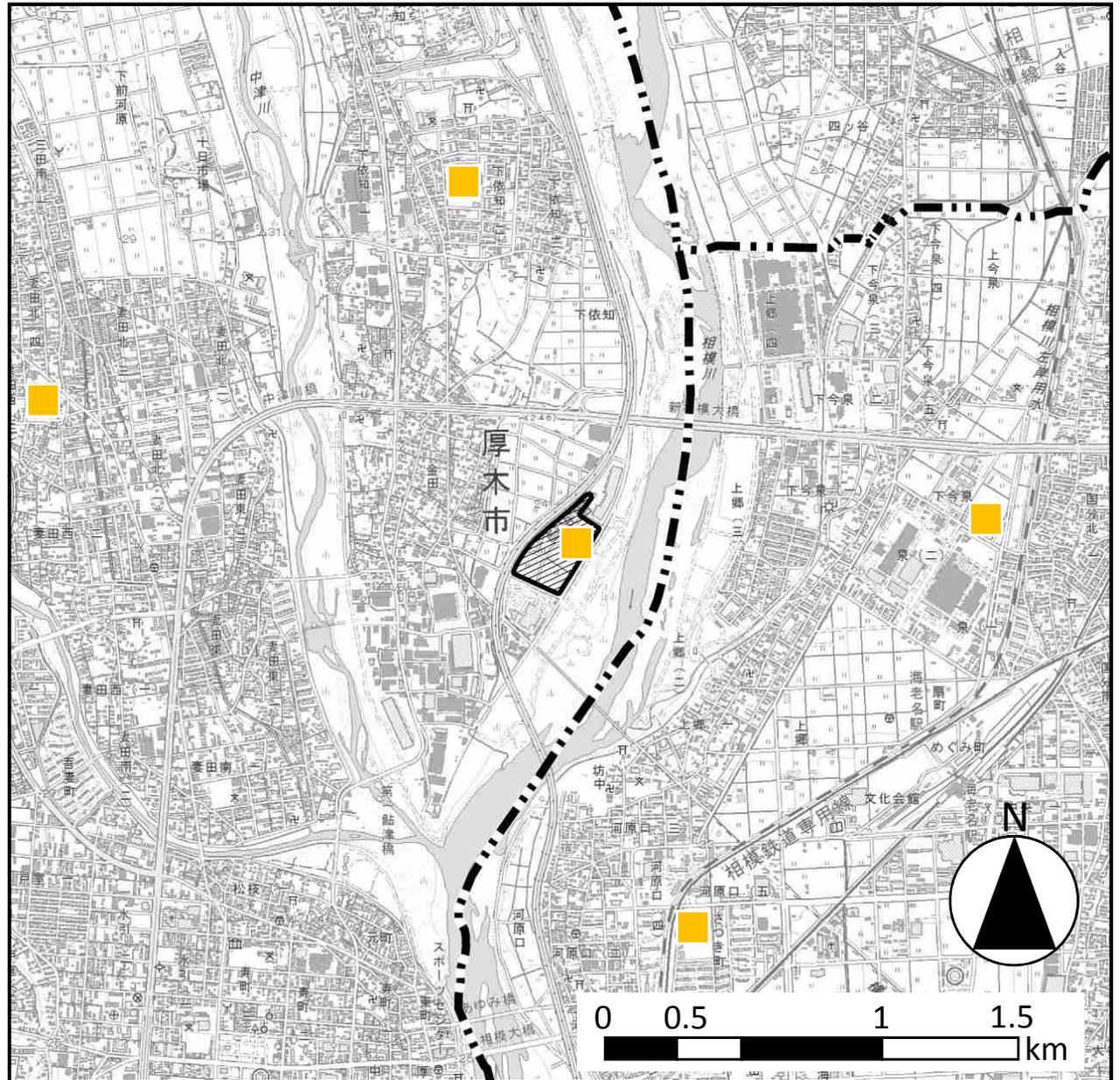
⑧-3 土壤汚染 — 現地調査結果 —

■ 土壤汚染の調査地点

調査内容： ・ 土壤汚染に係る
環境基準項目
・ ダイオキシン類

地点数： 5地点

時期等： 1回



⑧-3 土壌汚染 ー現地調査結果ー

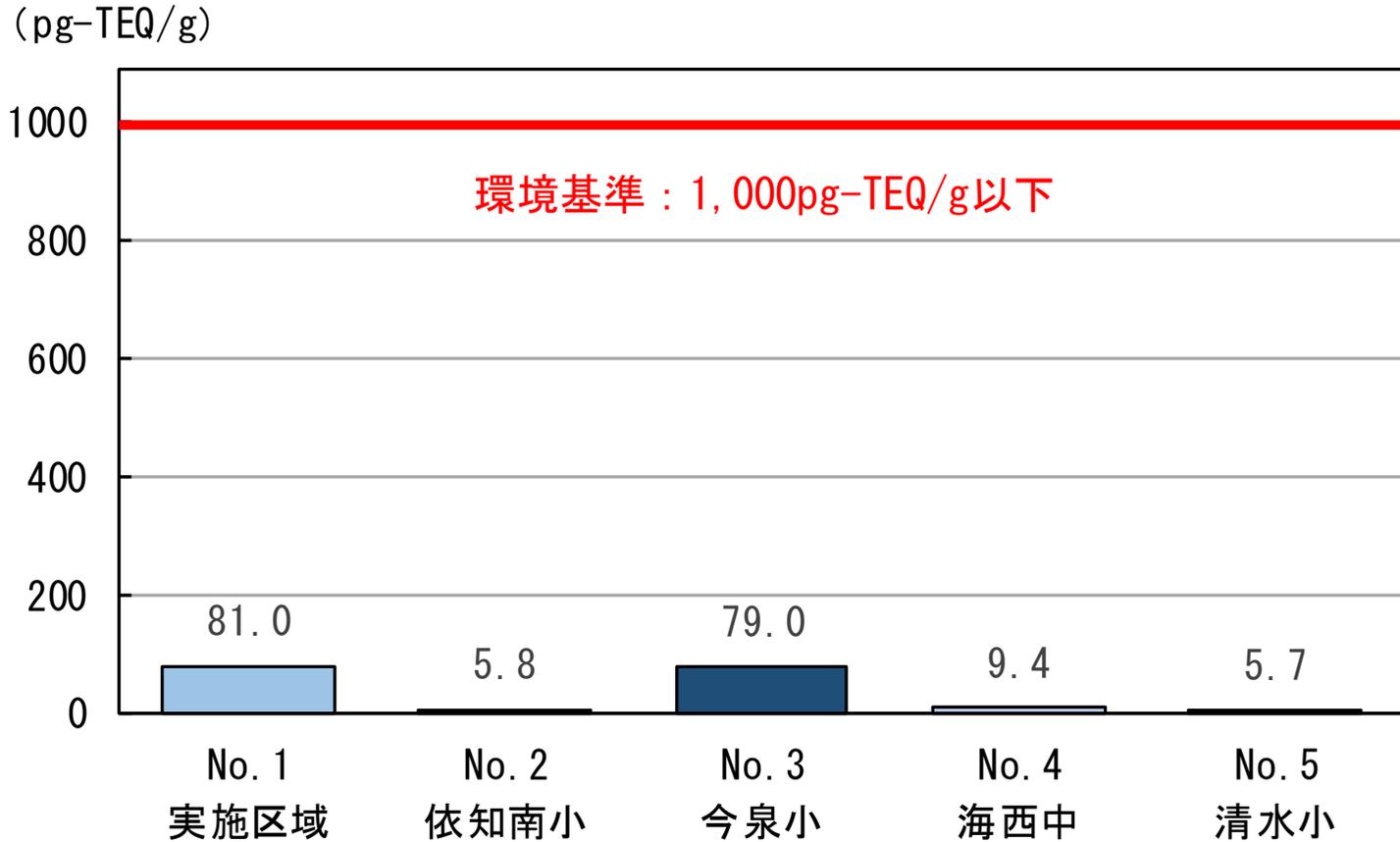
【環境基準項目の現地調査結果】

項目	単位	実施区域	環境基準	項目	単位	実施区域	環境基準
カドミウム	mg/L	<0.001	0.01以下	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.001	1以下
全シアン	mg/L	不検出	不検出	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.006以下
有機リン	mg/L	不検出	不検出	トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.03以下
鉛	mg/L	<0.005	0.01以下	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.01以下
六価クロム	mg/L	<0.02	0.05以下	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002以下
砒素	mg/L	<0.005	0.01以下	チラウム	mg/L	<0.0006	0.006以下
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005以下	シマジン	mg/L	<0.0003	0.003以下
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	チオベンカルブ	mg/L	<0.001	0.02以下
PCB	mg/L	不検出	不検出	ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01以下
ジクロロメタン	mg/L	<0.001	0.02以下	セレン	mg/L	<0.002	0.01以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002以下	ふっ素	mg/L	0.11	0.8以下
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.002以下	ほう素	mg/L	<0.1	1以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.004以下	1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.1以下	砒素（含有試験）	mg/kg	<0.05	15未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.04以下	銅（含有試験）	mg/kg	3.3	125未満

全ての項目で環境基準を下回っていました。

⑧-3 土壤汚染 — 現地調査結果 —

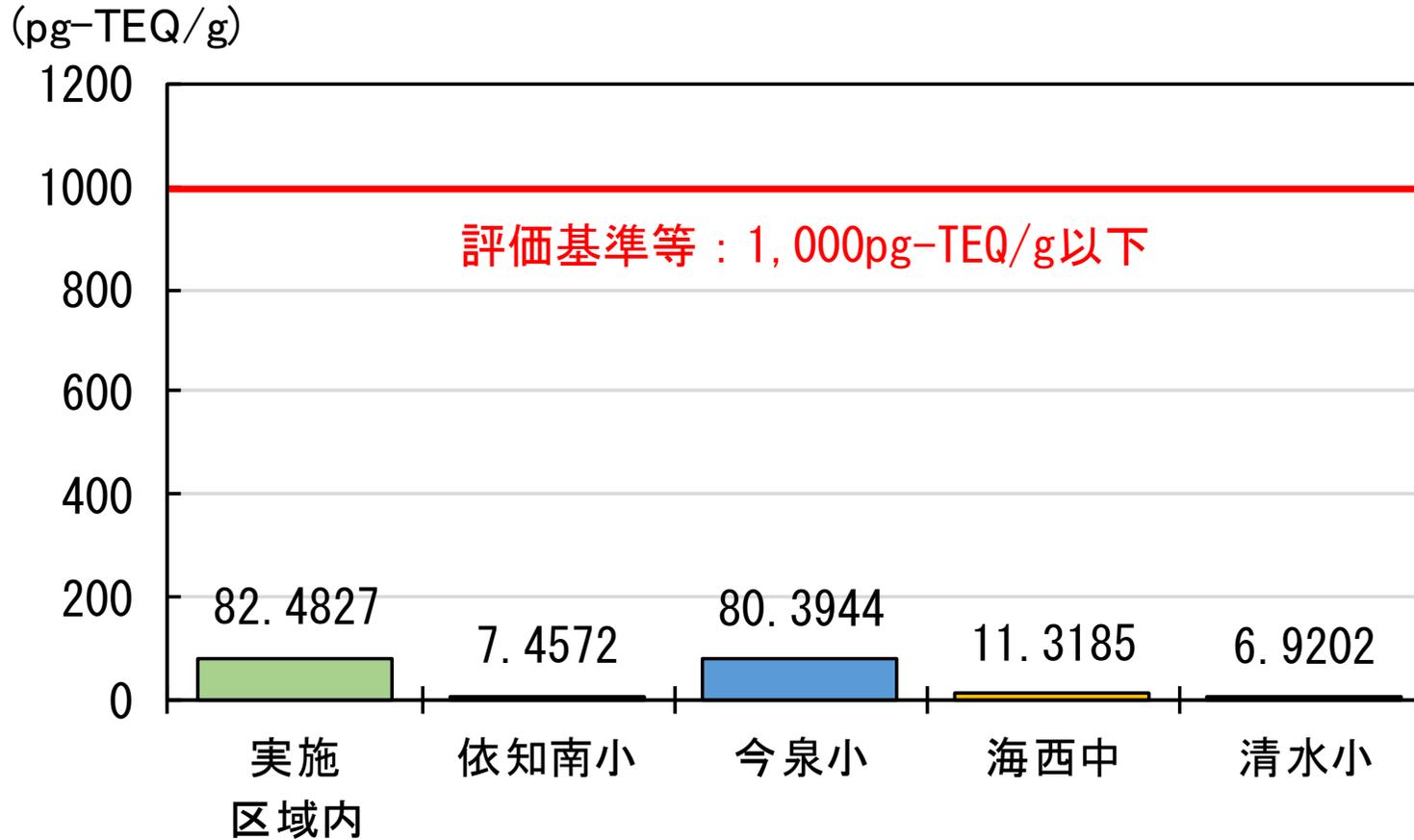
【ダイオキシン類の現地調査結果】



各地点で環境基準を下回っていました。

⑧-3 土壤汚染 ー予測・評価結果ー

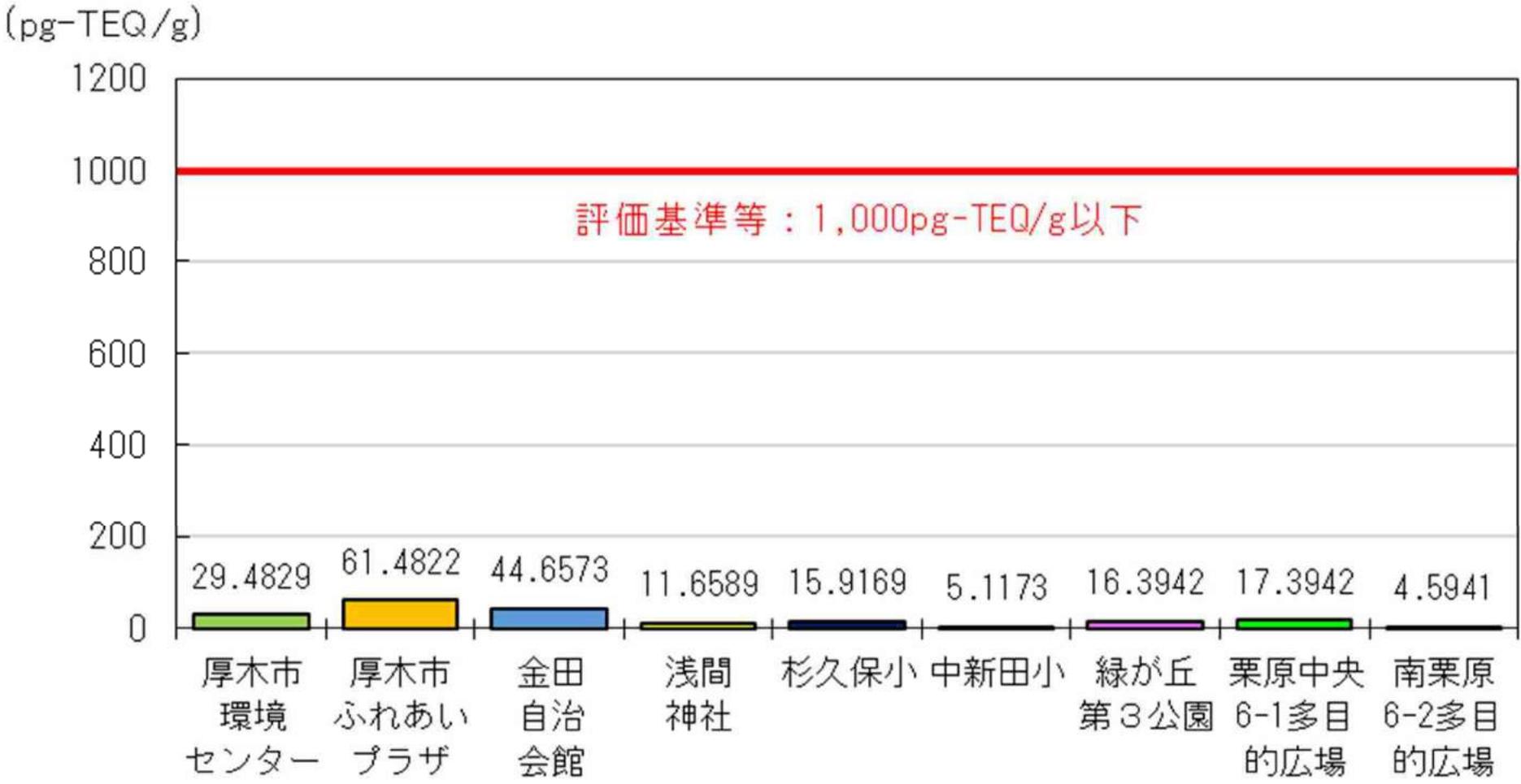
【施設の稼働に伴う土壤汚染】ダイオキシン類（現地調査地点）



- ・各地点で評価基準等と整合が図られています。
- ・最新の焼却炉を採用してごみの完全燃焼を図り、ダイオキシン類の発生抑制に努めます。

⑧-3 土壤汚染 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う土壤汚染】ダイオキシン類（既存資料調査地点）



⑧-4 騒音・低周波音 ー現地調査結果ー

● 環境騒音・低周波音の調査地点

調査内容：・環境騒音
・低周波音

地点数：3地点

時期等：平日に1回(24時間)

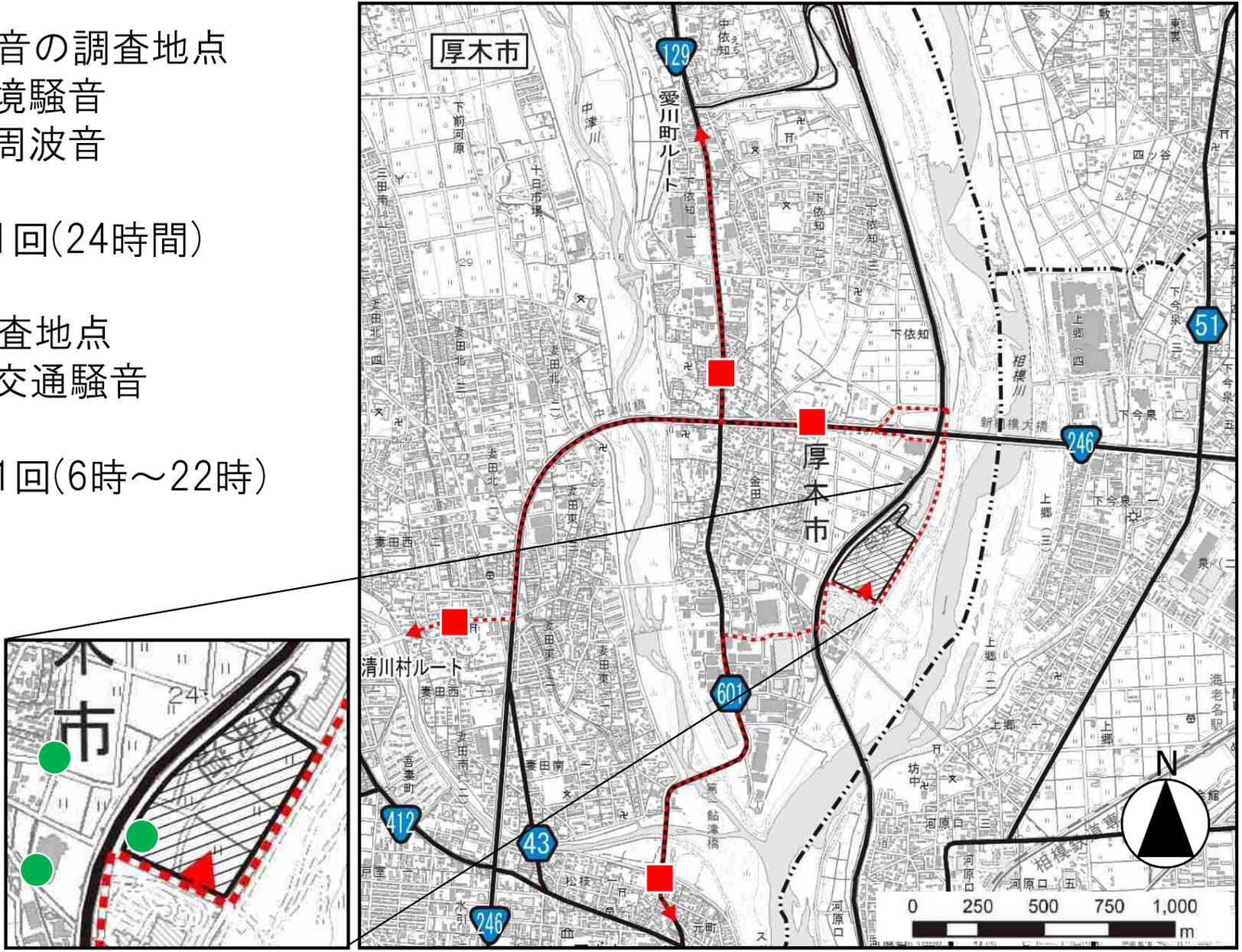
■ 道路交通騒音の調査地点

調査内容：道路交通騒音

地点数：4地点

時期等：平日に1回(6時～22時)

←...→ 主な走行ルート



⑧-4 騒音・低周波音 ー現地調査結果ー

騒音 (dB)	調査地点		騒音レベル		環境基準		判定		(要請限度)	
			昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
環境騒音	実施区域敷地境界		62	59			×	×	-	-
	直近集落		54	53	55以下	45以下	○	×		
	ふれあいプラザ		59	58			×	×		
道路交通騒音	一般国道246号		69	-	70以下	65以下	○	-	75	70
	金田自転車駐車場		76	-			×	-		
	妻田児童館		67	-	65以下	60以下	×	-		
	県道601号		71	-	70以下	65以下	×	-		

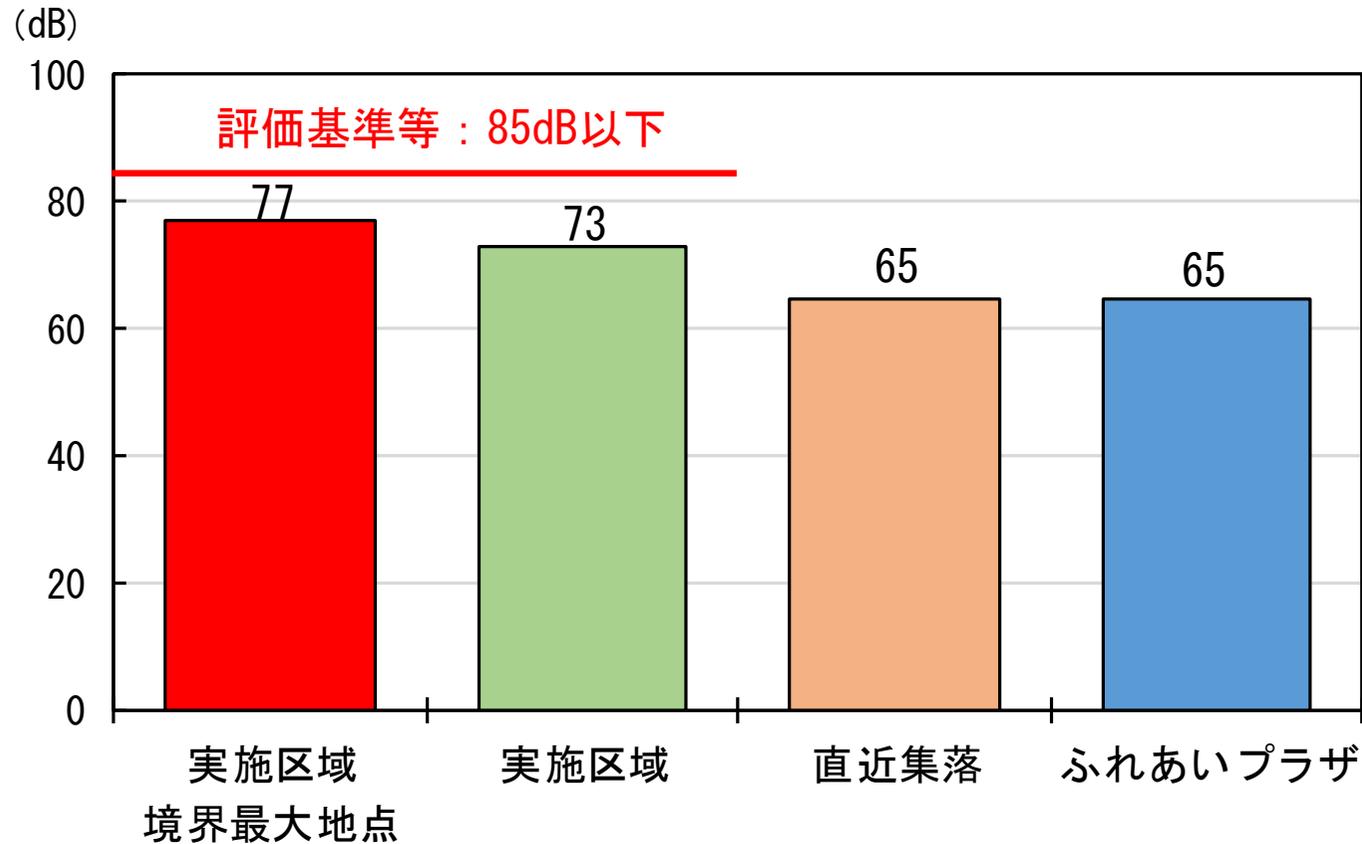
環境騒音は、実施区域西側の圏央道の影響で直近集落の昼間を除く地点、
 道路交通騒音は、国道246号を除く地点で**環境基準を超過**していました。

低周波音 (dB)	時間区分	No.1 実施区域		No.2 直近集落		No.3 ふれあいプラザ		人が感じ始める値	判定
		L _{G5}	L ₅₀	L _{G5}	L ₅₀	L _{G5}	L ₅₀		
	昼間 (6~22時)	83	76	75	71	80	74	100	○
	夜間 (22~6時)	82	75	74	69	80	73		○

・ G特性音圧レベル(L_{G5})は**人が感じ始める値 (100dB) を下回っていました。**

⑧-4 騒音・低周波音 一予測・評価結果一

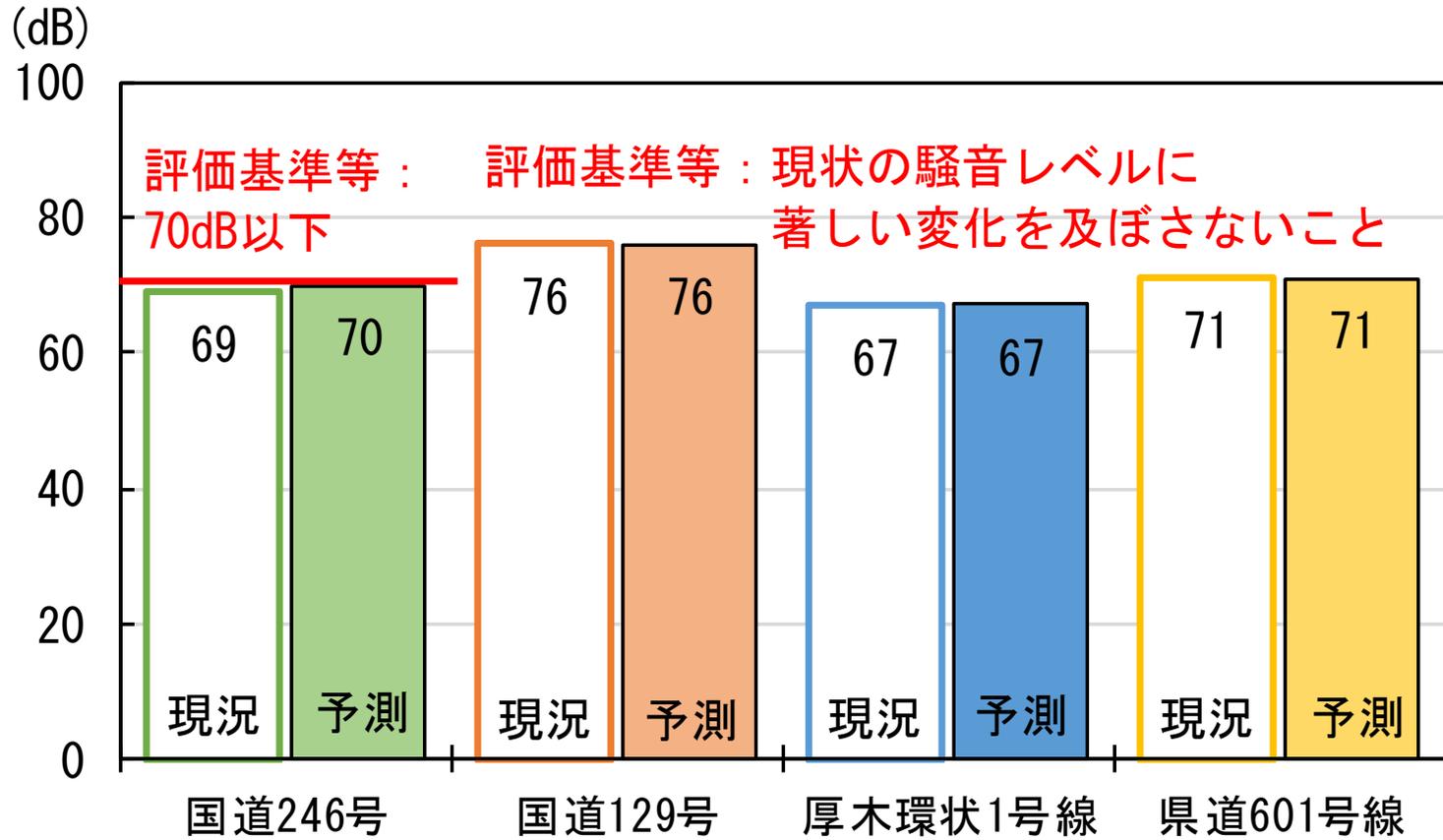
【建設機械の稼働に伴う騒音】



- ・ 実施区域境界最大地点は評価基準等と整合が図られています。
- ・ 低騒音型の使用に努めるとともに、機械の配置を考慮し、1ヶ所での作業が集中しないよう作業量の平準化に努めます。

⑧-4 騒音・低周波音 ー予測・評価結果ー

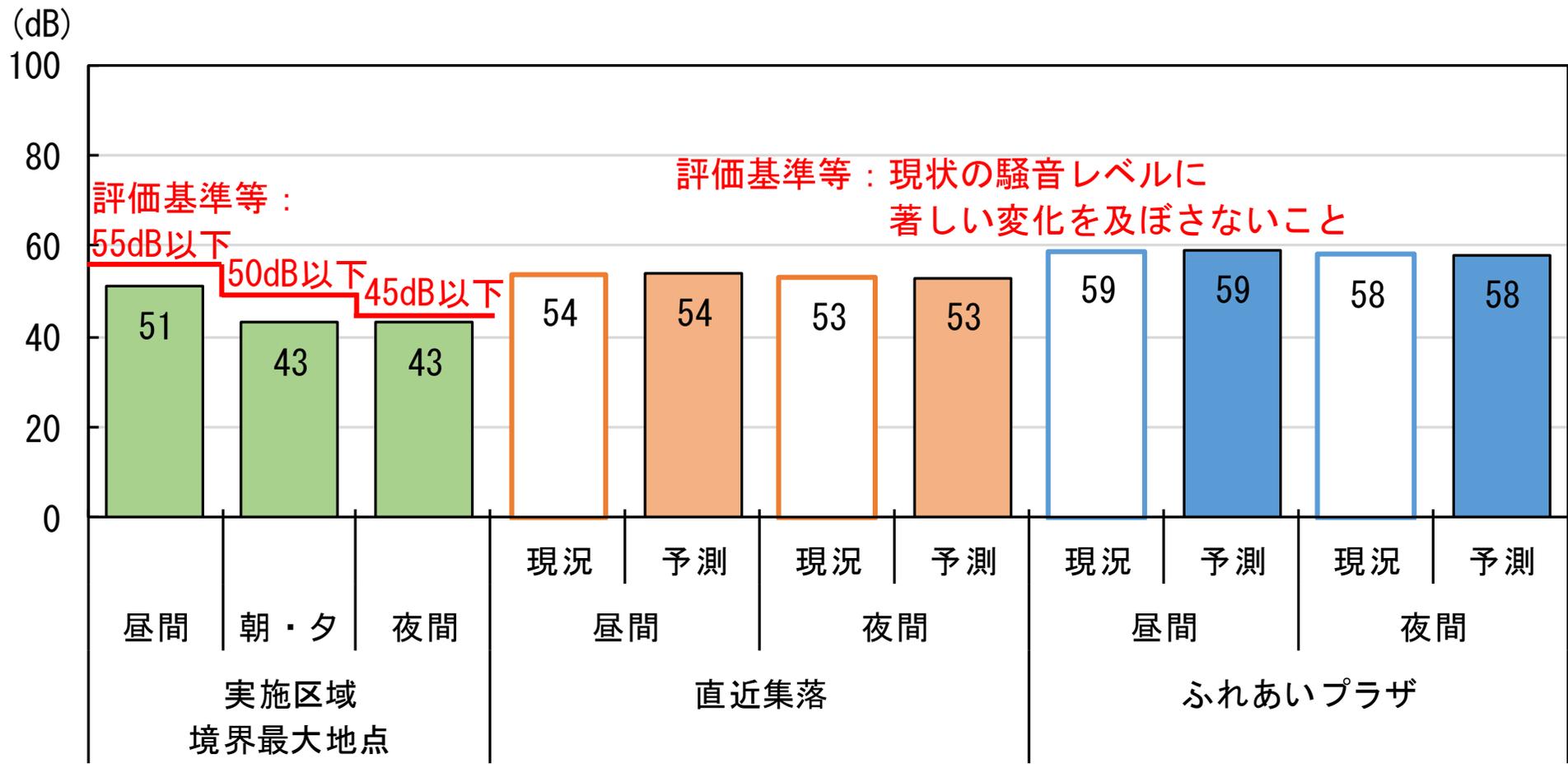
【工事用車両の走行に伴う騒音】



- ・ 各地点で評価基準等と整合が図られています。
- ・ 積載重量や規制速度の遵守を周知・徹底します。

⑧-4 騒音・低周波音 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う騒音】

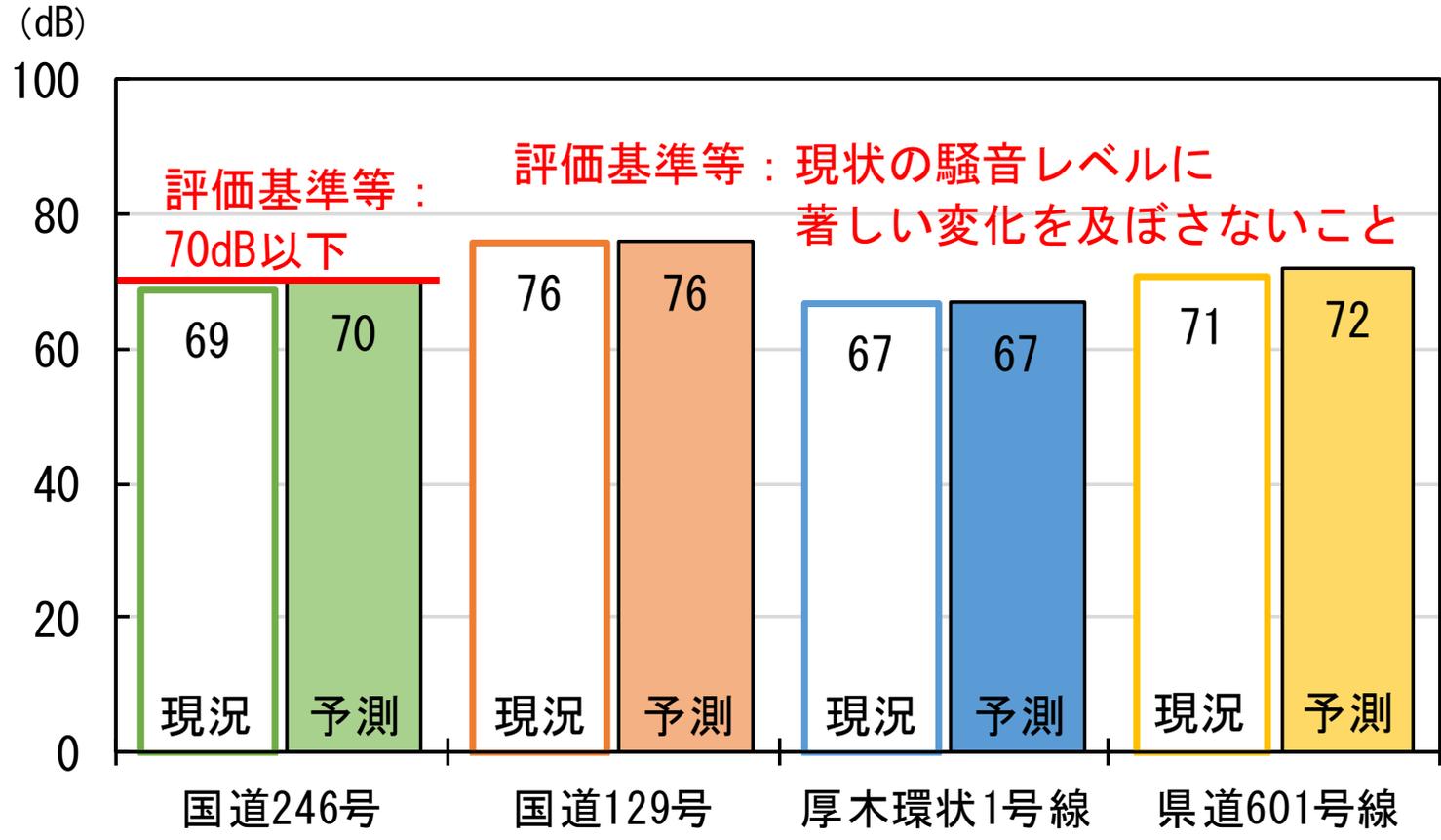


- ・ 各地点で**評価基準等と整合が図られています。**
- ・ 防音を考慮した外壁使用や開口部の計画を行います。

注) 直近集落とふれあいプラザの値は現状の騒音レベル(L_{Aeq})を合成した値である。

⑧-4 騒音・低周波音 ー予測・評価結果ー

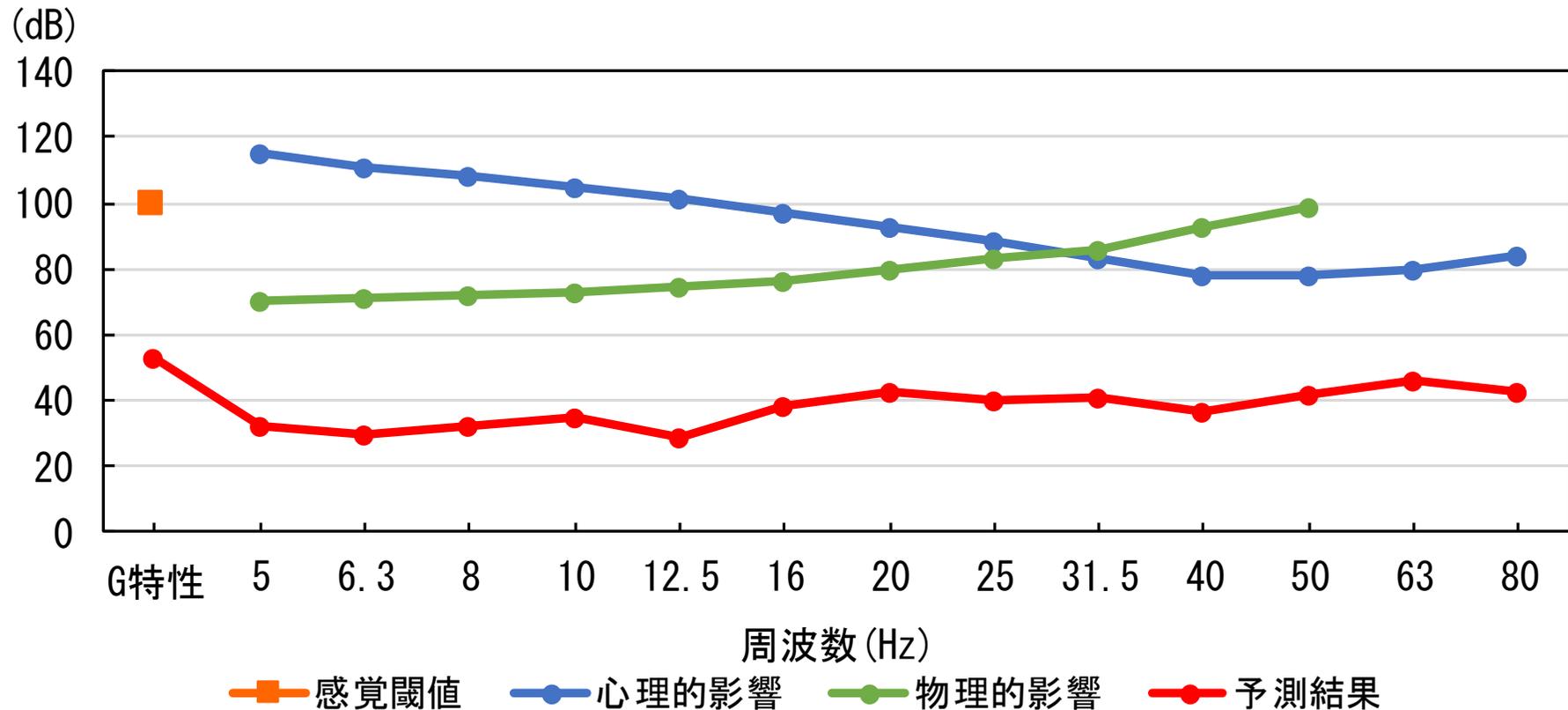
【関係車両の走行に伴う騒音】



- ・ 各地点で評価基準等と整合が図られています。
- ・ 運行経路等の検討や規制速度の遵守を周知・徹底します。

⑧-4 騒音・低周波音 ー予測・評価結果ー

【施設の稼働に伴う低周波音】



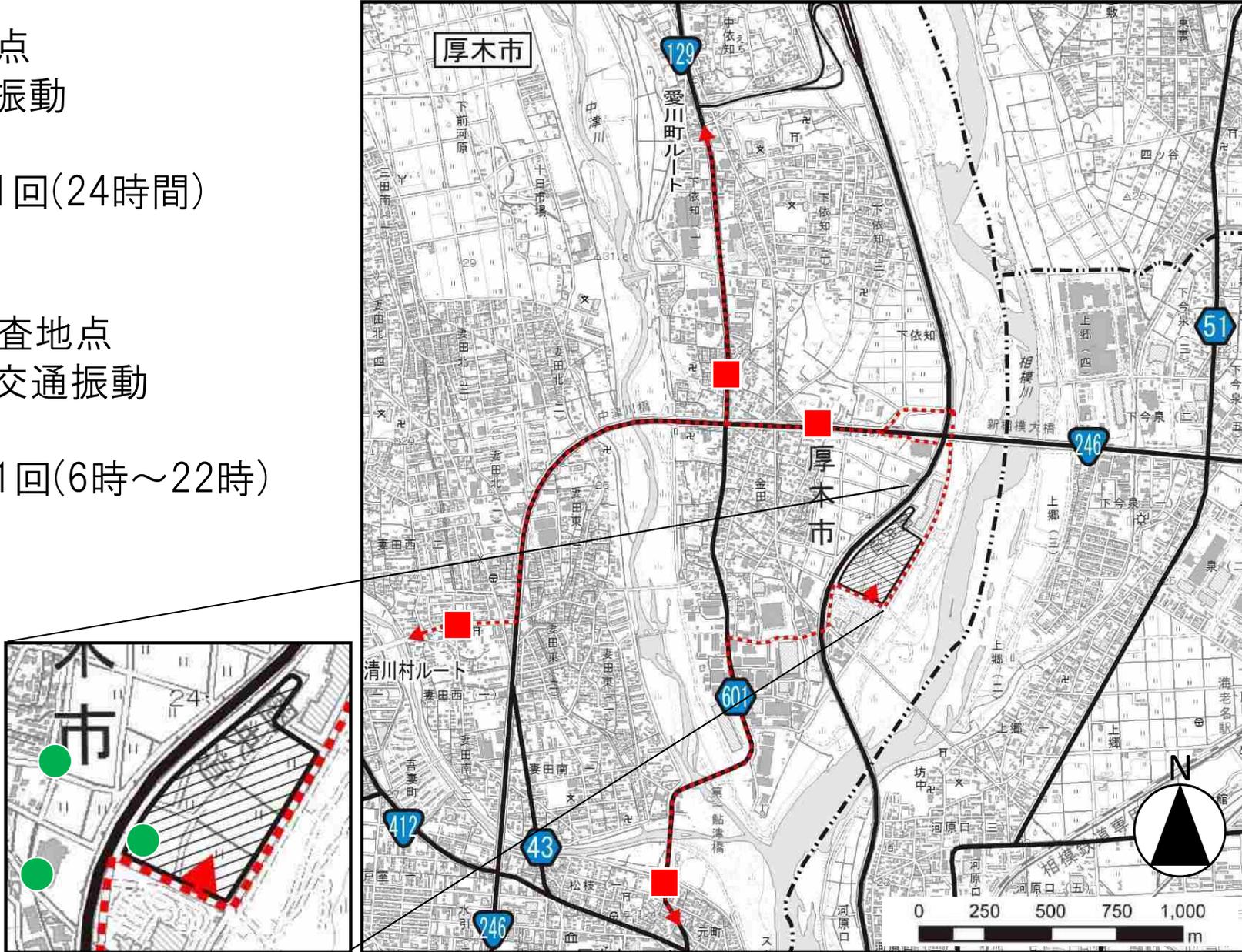
- ・ G特性音圧レベル、1/3オクターブバンド中心周波数ともに**評価基準等と整合が図られて**いました。
- ・ 設備機器の使用にあたっては、点検・補修等の維持管理を適切に行います。

⑧-5 振動 ー現地調査結果ー

● 環境振動の調査地点
調査内容：環境振動
地点数：3地点
時期等：平日に1回(24時間)

■ 道路交通振動の調査地点
調査内容：道路交通振動
地点数：4地点
時期等：平日に1回(6時～22時)

←...→ 主な走行ルート



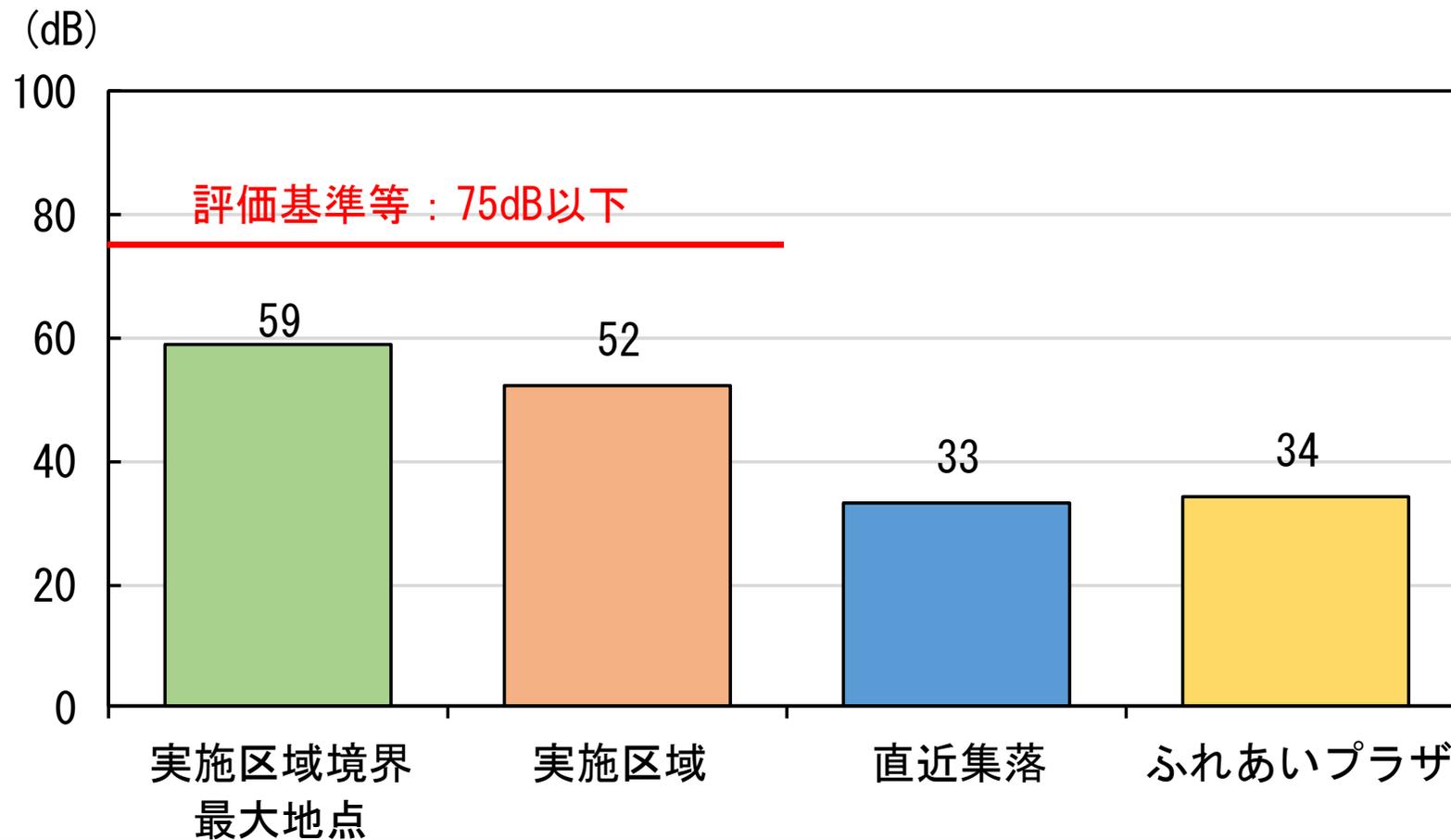
⑧-5 振動 ー現地調査結果ー

振動 (dB)	調査地点		振動レベル		人が感じ始める値		要請限度		判定		
			昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間	
環境振動	実施区域敷地境界		46	44	55	65	60	○	○		
	直近集落		<25	<25				○	○		
	ふれあいプラザ		39	38				○	○		
道路交通振動	一般国道246号		50	48				70	65	○	○
	金田自転車駐車場		52	51				65	60	○	○
	妻田児童館		33	30				65	60	○	○
	県道601号		50	47				65	60	○	○

全ての項目、地点で人が振動を感じ始める値（55dB）を下回っていました。

⑧-5 振動 一予測・評価結果一

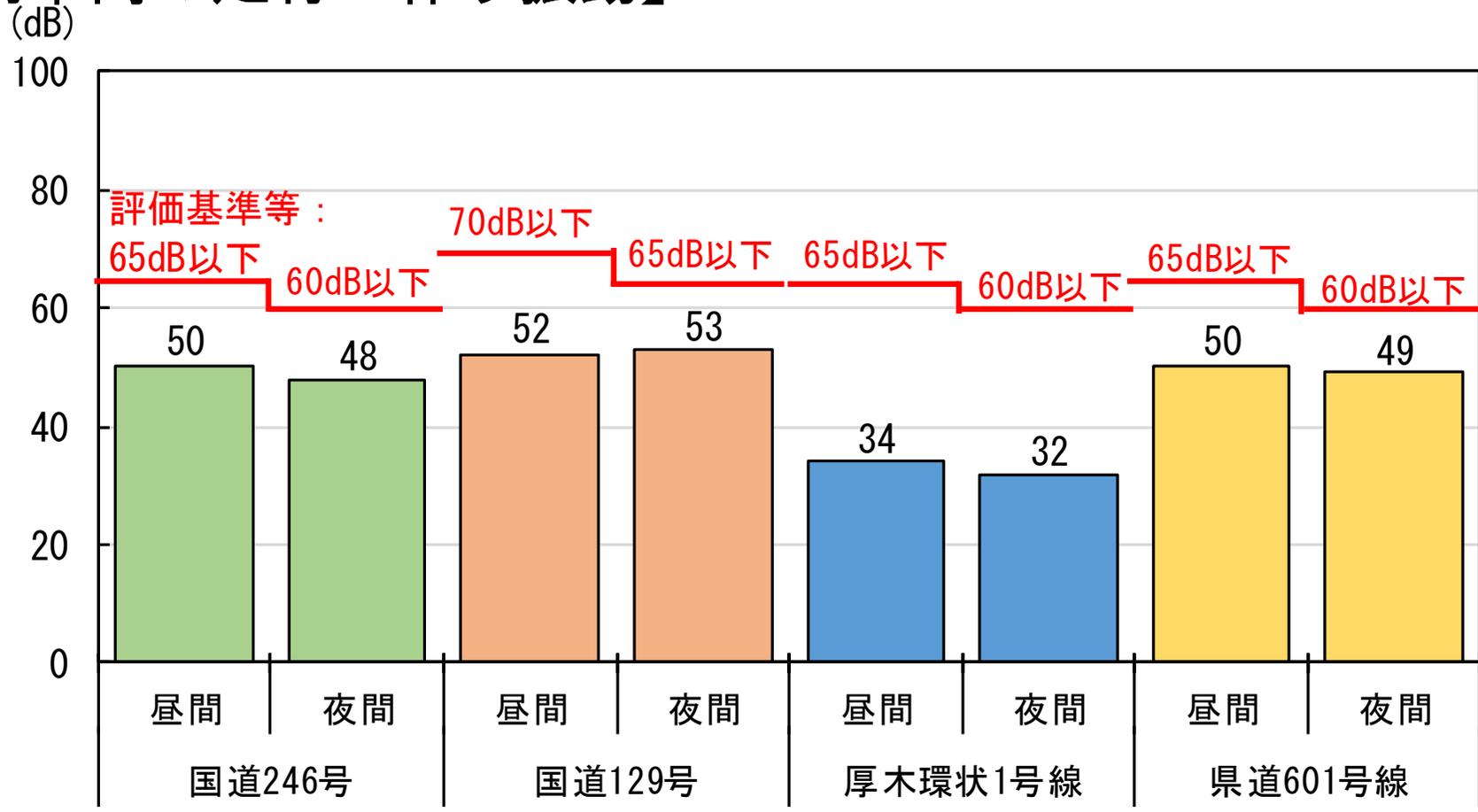
【建設機械の稼働に伴う振動】



- ・各地点で**評価基準等と整合が図られています**。
- ・建設機械は低振動型の使用に努めるとともに、機械の配置を考慮し、1ヶ所での作業が集中しないよう作業量の平準化に努めます。

⑧-5 振動 一予測・評価結果一

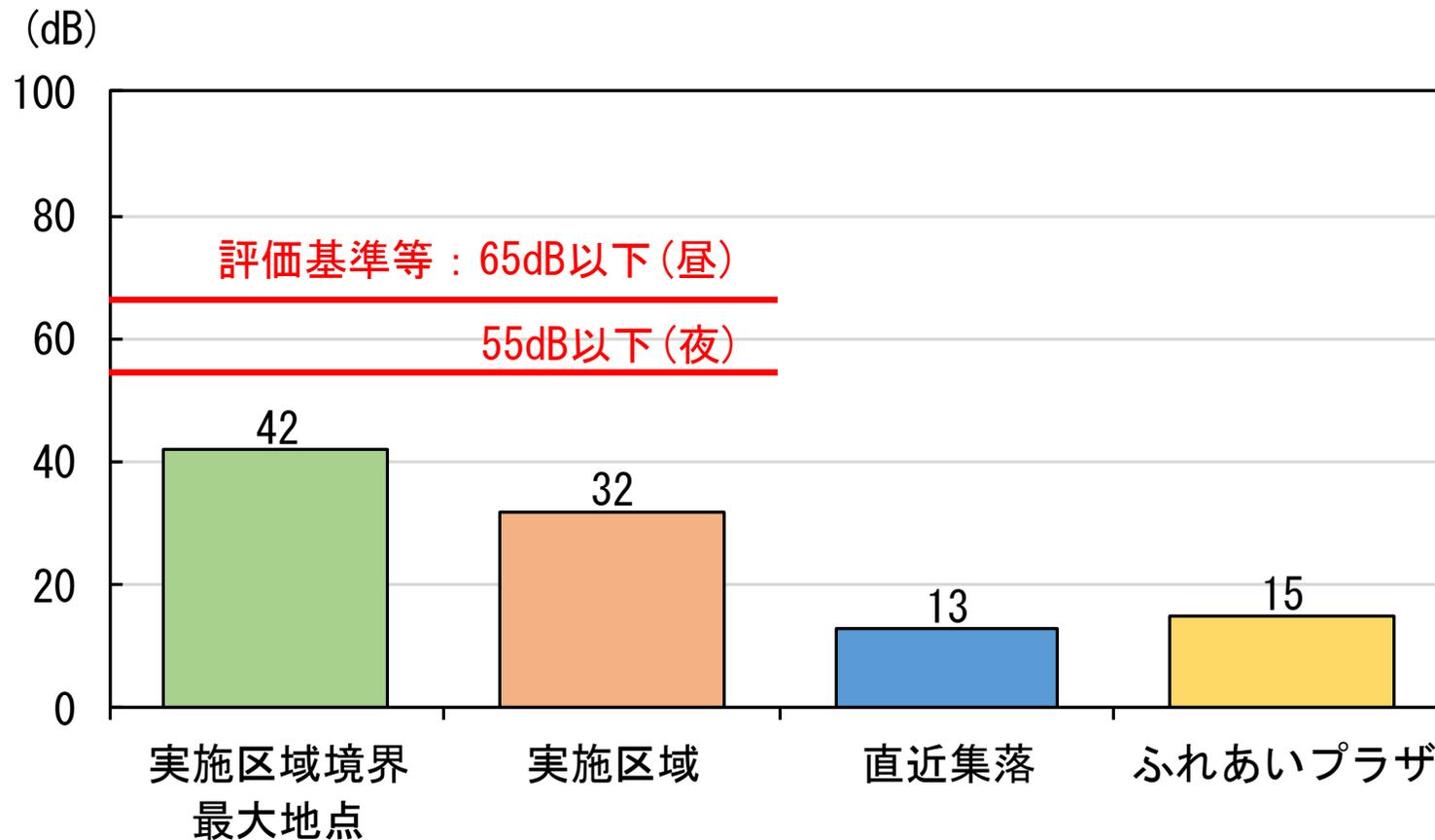
【工事用車両の走行に伴う振動】



- ・ 各地点で評価基準等と整合が図られています。
- ・ 工事用車両が集中しないよう作業量の平準化に努める。

⑧-5 振動 一予測・評価結果一

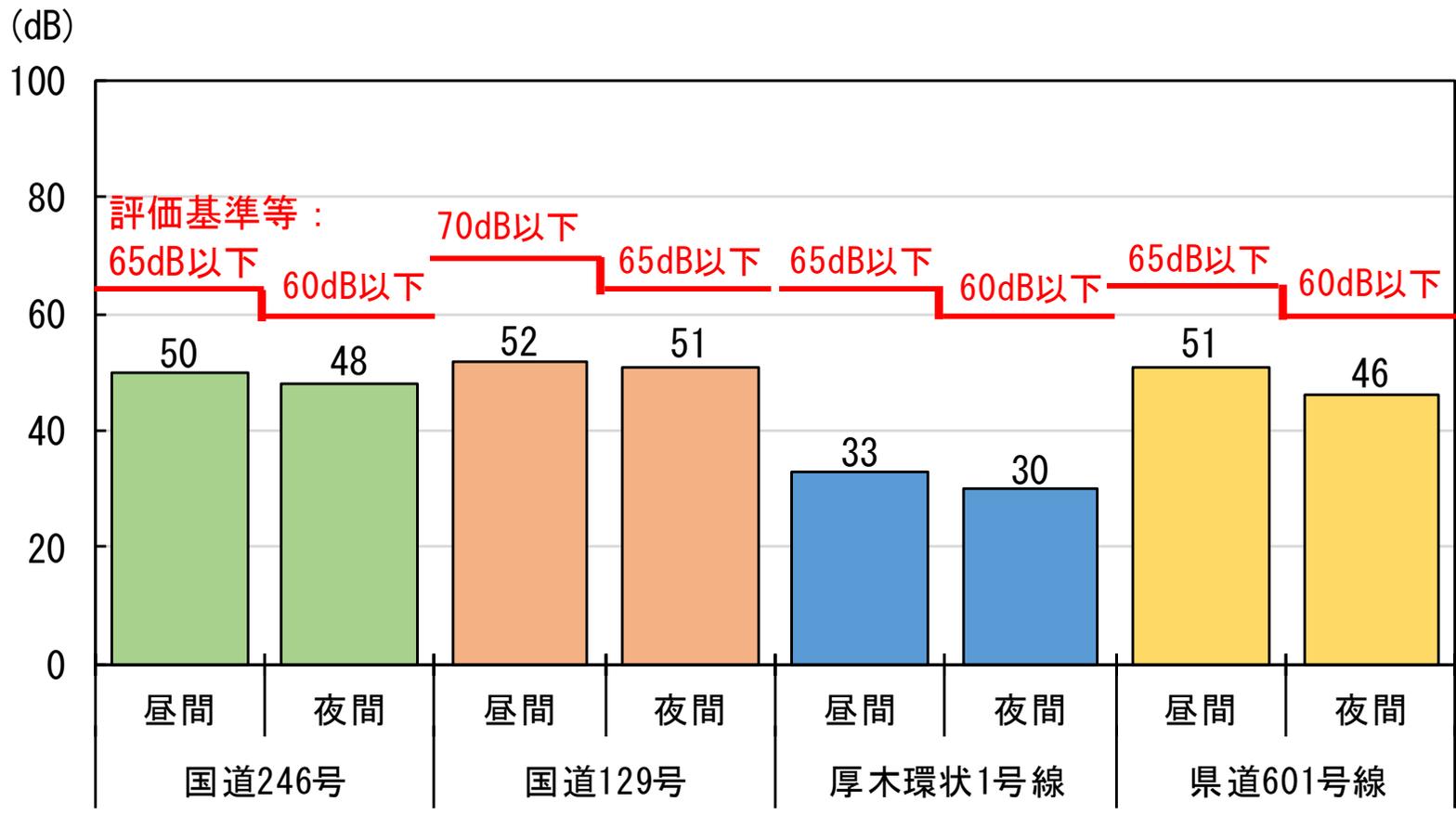
【施設の稼働に伴う振動】



- ・各地点で評価基準等と整合が図られています。
- ・送風機、空気圧縮機等の振動発生機器は、低振動の機器を採用するとともに、振動の著しい機器は適切な対策をする。

⑧-5 振動 一予測・評価結果一

【関係車両の走行に伴う振動】



- ・ 各地点で**評価基準等**と**整合**が**図**られています。
- ・ 適切な車両の整備・点検、積載重量を遵守します。

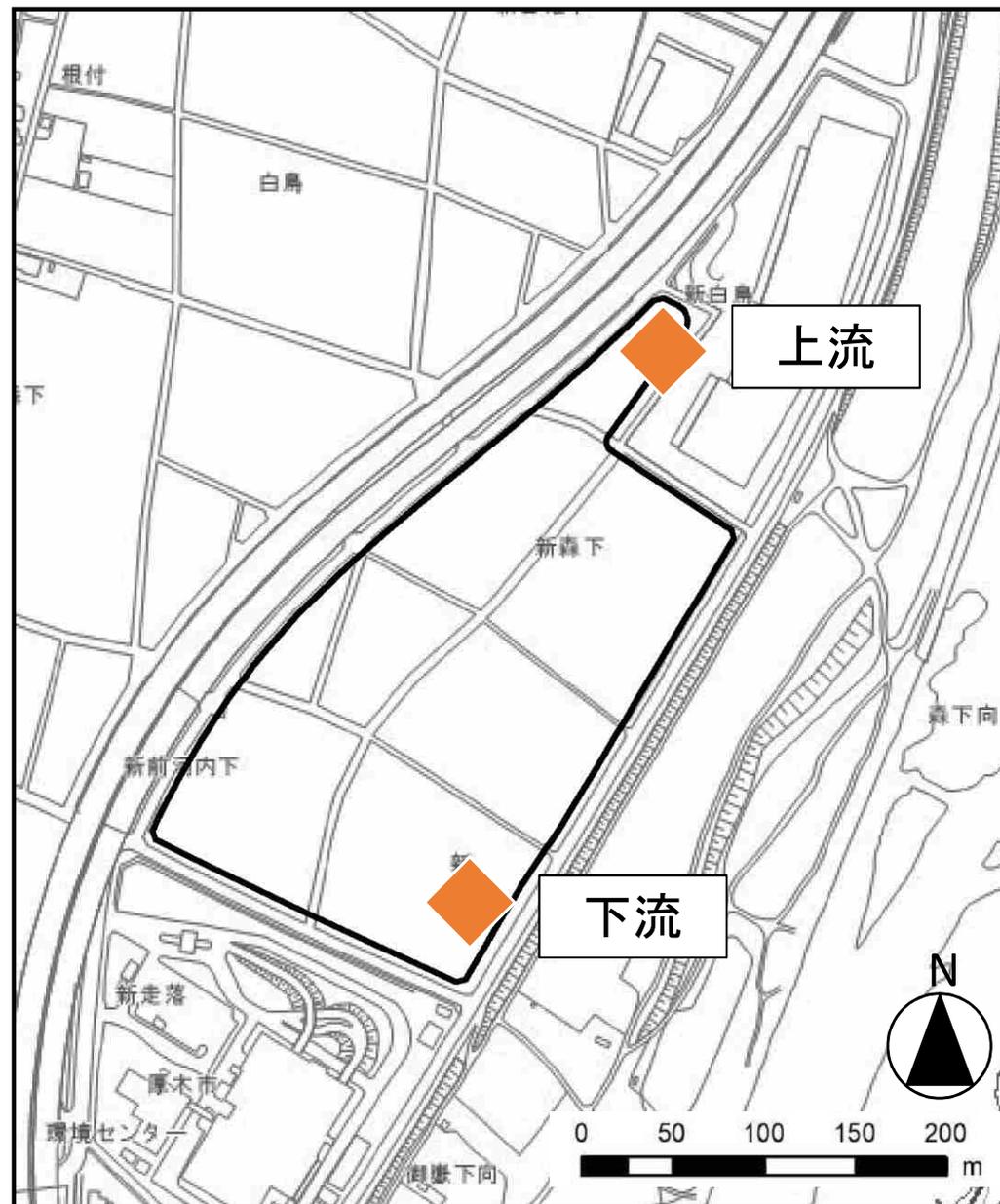
⑧-6 地盤沈下 — 現地調査結果 —

◆ 地盤沈下調査地点

調査内容：・地下水位
・ボーリング調査

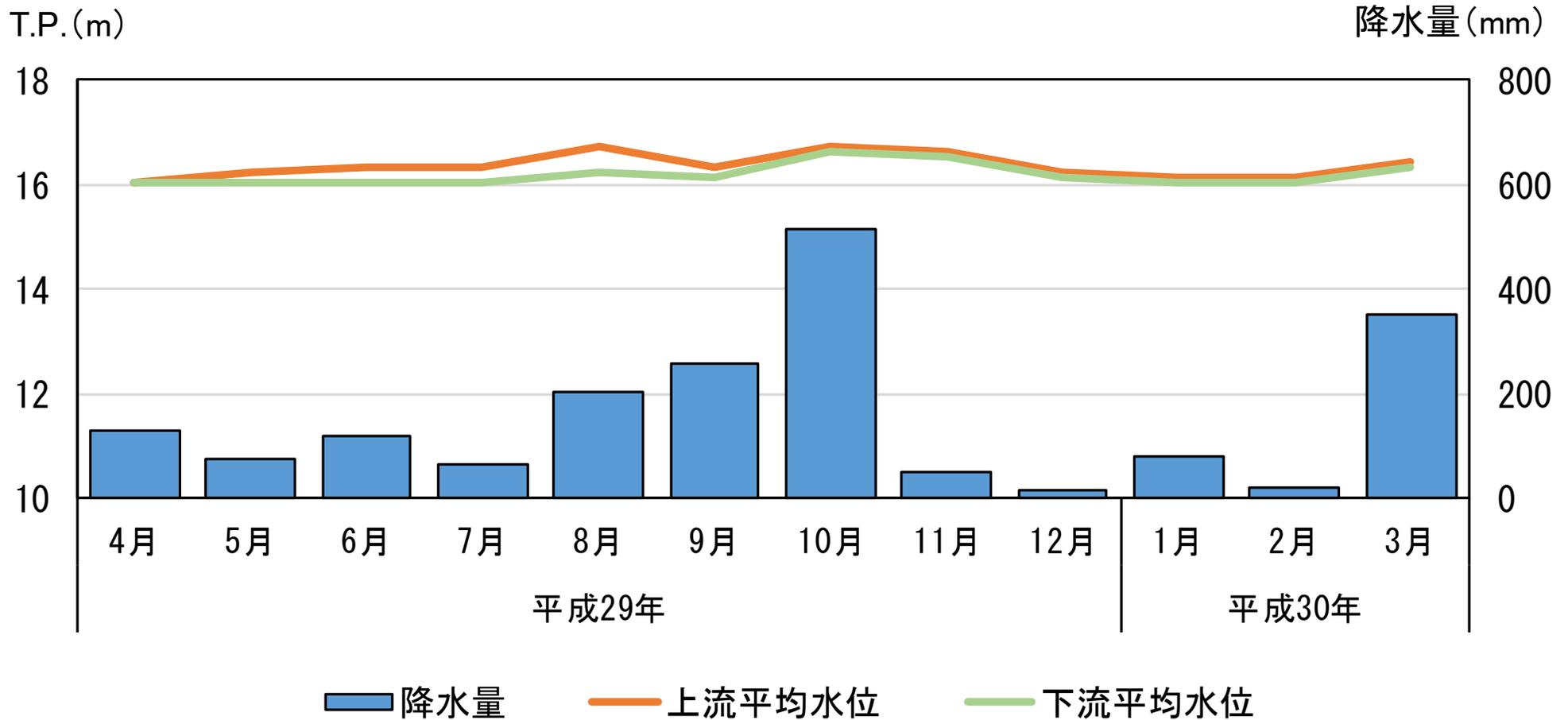
地点数：2地点

時期等：[地下水位] 1年間
[ボーリング調査] 1回



⑧-6 地盤沈下 ー現地調査結果ー

【地下水位の現地調査結果】



年平均水位は上流側でT.P.+16.36m、下流側でT.P.+16.16mでした。

⑧-6 地盤沈下 — 現地調査結果 —

【ボーリング調査結果】

地質時代	地層名	土質名	記号	本調査で確認されたN値	記事
第四紀	埋土	礫質土	F	4-14 (6.8)	本調査では砂礫からなり、所々粘性土を混入する。φ2mm～50mm程度の亜円礫が主体であり、マトリックスは細砂である。所により礫やコンクリートガラに当たりN値50以上を示すところがある。B-1地点では玉石を混入する。
		粘性土		1	
	沖積砂礫層	砂礫	Ag	12-50以上 (37.8)	本調査では砂礫からなり、φ2mm～40mm程度の亜円礫が主体であり、マトリックスは細砂である。不均一で含水量は多い。
	更新世	洪積粘性土	粘性土	Dc	4-5 (4.6)
洪積砂礫層		砂・砂礫	Dg	27-50以上 (46.2)	本調査では砂礫からなり、B-1地点では玉石を混入する。φ2mm～40mm程度の亜円礫が主体であり、マトリックスは細砂である。含水量は多い。

⑧-6 地盤沈下 — 予測・評価結果 —

【造成工事等に伴う地下水位及び地盤沈下の影響】

以下の環境保全対策を講じることから地下水位及び地盤沈下の影響はほとんどないと予測します。

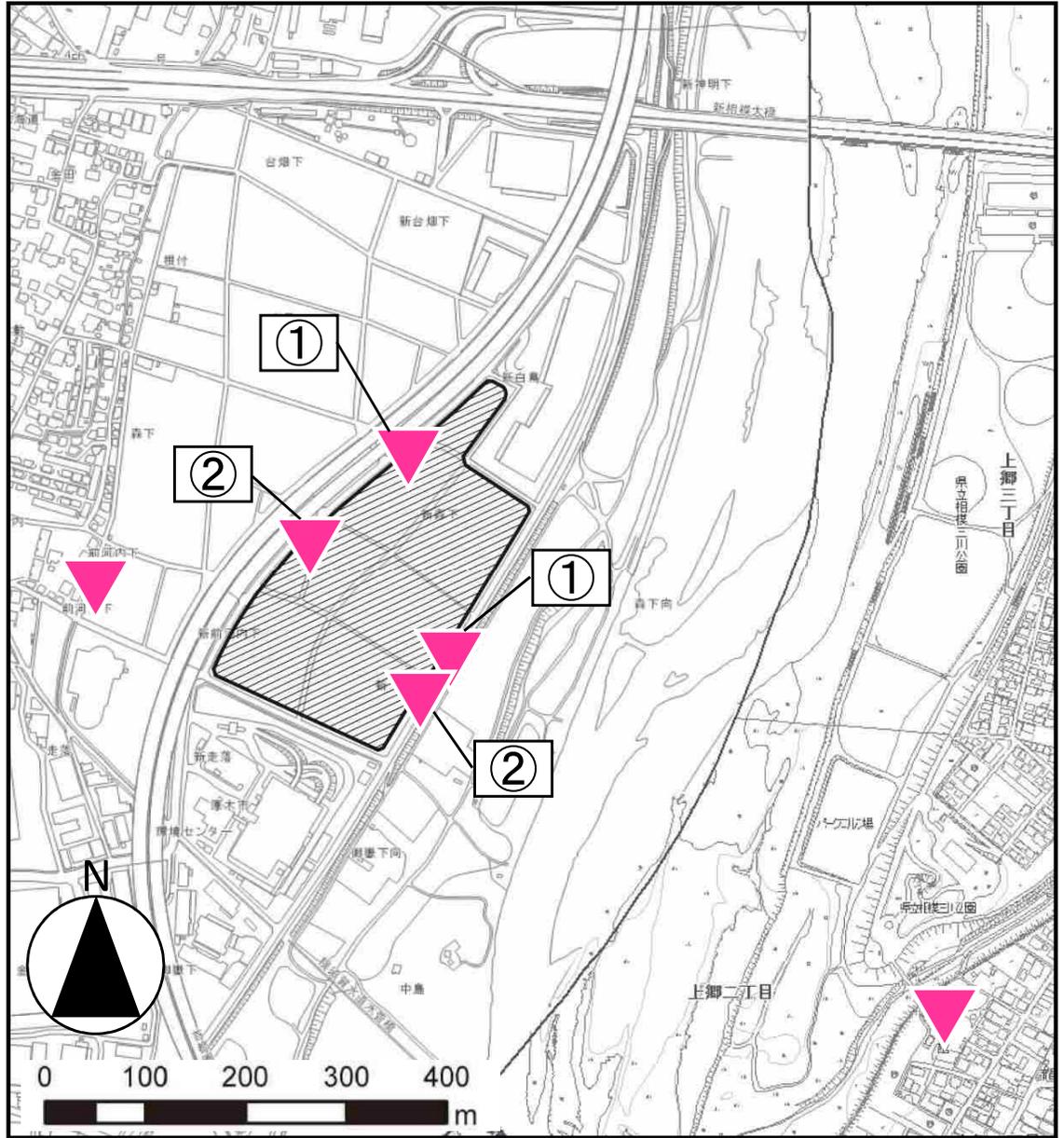
- ・ ゴミピット部分の深い掘削を行う箇所は、遮水性の高い山留壁等を用い、地盤の安定性を確保し、帯水層からの湧水の抑制及び掘削底部から回り込む地下水の流入を防止します。
- ・ 地下水位については、工事着工前から工事完了後の一定の期間において観測を行います。

⑧-7 悪臭 ー現地調査結果ー

- ▼ 悪臭調査地点
- 調査内容：悪臭
- 地点数：各回4地点
- 時期等：2回

※実施区域敷地境界地点は調査当日の風上側、風下側で実施した。

- ①：1回目
- ②：2回目



⑧-7 悪臭 ー現地調査結果ー

項目	No.1	No.2	No.3	No.4	項目	No.1	No.2	No.3	No.4
臭気指数	<10	<10	<10	<10	イソバレルアルデヒド	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
アンモニア	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05	イソブタノール	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
メチルメルカプタン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	酢酸エチル	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硫化水素	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	メチルイソブチルケトン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
硫化メチル	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	トルエン	0.02	0.06	0.11	0.05
二硫化メチル	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	キシレン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
トリメチルアミン	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	スチレン	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
アセトアルデヒド	0.0052	0.0049	0.0049	0.0048	プロピオン酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
プロピオンアルデヒド	0.0009	0.0006	0.0006	<0.0005	ノルマル酪酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマルブチルアルデヒド	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	ノルマル吉草酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソブチルアルデヒド	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	イソ吉草酸	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマルバレルアルデヒド	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005					

・ 臭気指数は、全地点で自主規制値（臭気指数10未満）を下回っていました。
 ・ 特定悪臭物質は、ほとんどの項目が定量下限値未満で、わずかに検出された項目も極めて低濃度でした。

⑧-7 悪臭 ー予測・評価結果ー

【施設の稼働に伴う煙突排ガスによる悪臭】

時間区分	臭気濃度	臭気指数	規制基準等
大気安定度不安定時	2	3	臭気指数 10以下(自主規制値)
上層逆転層発生時	2	3	
逆転層崩壊時 (フュミゲーション)	2	3	
煙突ダウンウォッシュ	1未満	0	

- ・すべての条件で**自主規制値を下回っていました。**
- ・臭気物質の排出量を低減するため、高温燃焼により廃棄物に含まれる臭気物質を分解します。

⑧-7 悪臭 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩】

項目	厚木市環境センター（現施設） 敷地境界線
臭気指数	10未満
アンモニア	0.1未満
メチルメルカプタン	0.0005未満
硫化水素	0.0005未満
硫化メチル	0.0005未満
二硫化メチル	0.0005未満

- ・ 類似施設では、全ての項目で**定量下限値未満**でした。
- ・ プラットホーム及び施設内道路は定期的に清掃するとともに、プラットホーム及びごみピット内へ消臭剤を散布して悪臭の発生を抑止します。

⑧-8 廃棄物 ー予測・評価結果ー

【造成工事等に伴う廃棄物】

廃棄物の種類	建築物の延床面積(m ²)		発生原単位(kg/m ²)		発生量(t)		
	RC造	S造	RC造	S造	RC造	S造	合計
コンクリートガラ	18,374	121	8.8	8.2	161.7	1.0	162.7
アスファルトガラ			2.2	1.9	40.4	0.2	40.6
ガラス陶器			1.4	3.0	25.7	0.4	26.1
廃プラスチック			2.6	2.3	47.8	0.3	48.1
金属くず			2.4	2.1	44.1	0.3	44.4
木くず			5.1	2.8	93.7	0.3	94.0
紙くず			2.0	1.2	36.7	0.1	36.8
石膏ボード			2.8	1.9	51.4	0.2	51.6
その他			5.3	5.5	97.4	0.7	98.1
合計			18,495		32.6	28.9	598.9

- ・ 関係法令等に基づき、積極的に発生抑制や減量化に努めるとともに、分別・再資源化を図ります。

⑧-8 廃棄物 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う廃棄物】

施設	種類	発生量(t /年)	処分方法
焼却施設	焼却灰	5,980	民間資源化事業者 (セメント原料、溶融、焼成 等)
	飛灰処理物	3,655	
粗大ごみ 処理施設	不燃残渣	398	再商品化等事業者
	鉄	1,128	
	アルミ	57	
合計		11,218	—

- ・ 焼却施設から排出される焼却灰処理物及び飛灰処理物並びに粗大ごみ処理施設から排出される不燃残渣、鉄、アルミ等は**資源化、商品化**します。

⑧-9 発生土 ー予測・評価結果ー

【造成工事等に伴う廃棄物】

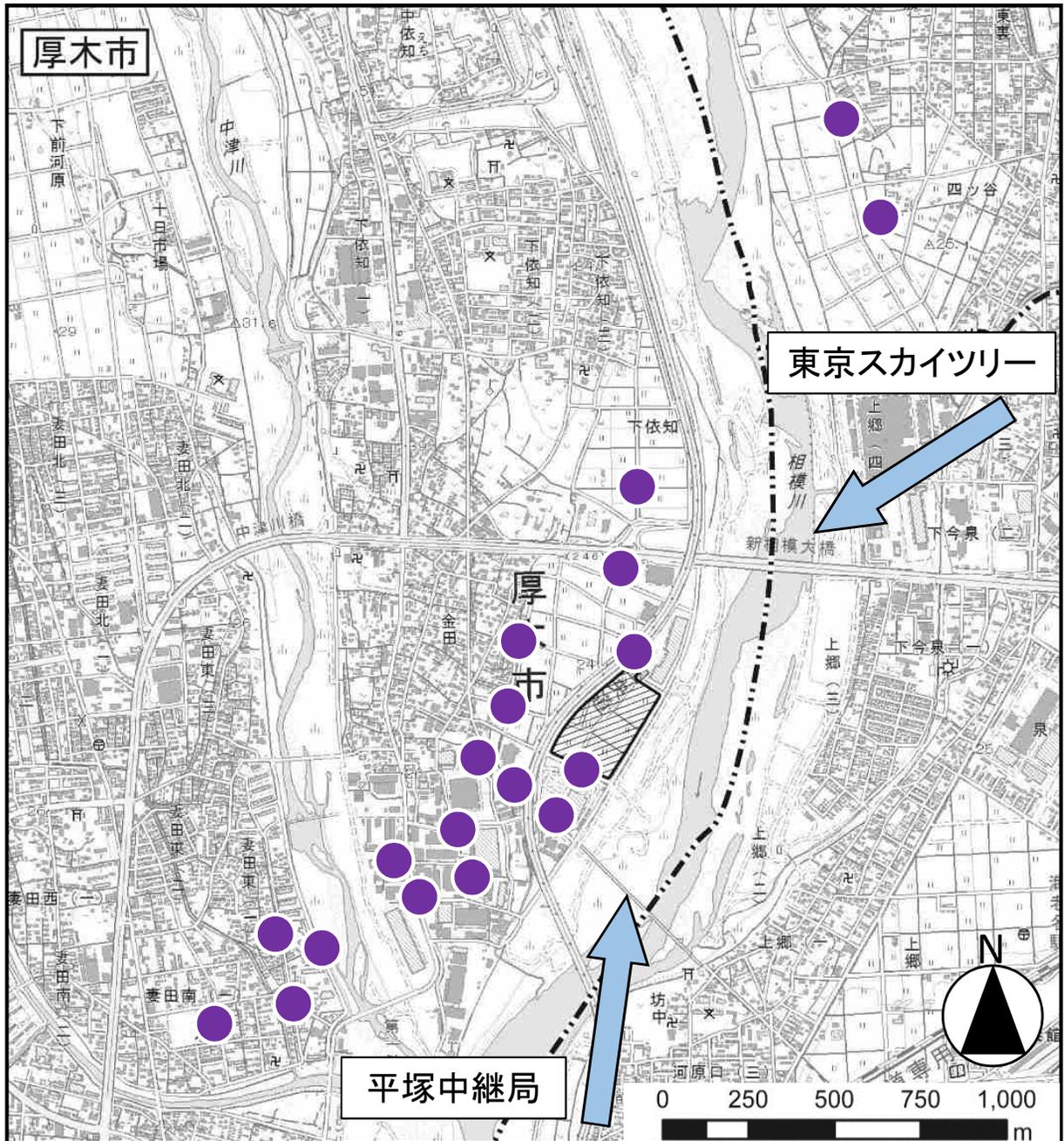
内訳	発生土量	算定根拠	処理方法
山留工事	5,100m ³	周長 L : $((22\text{m}+2\text{m})+(30\text{m}+2\text{m}))\times 2=112\text{m}$ ※ 余掘1m (両端) 含む 深さ H : 20m (想定) 壁厚 D : 0.85m 余掘 W : 1.0m 土留板厚 R : 0.425m 発生土量 = $L \times H \times (D + W + R)$	専門業者に委託して適切に処理、処分
杭工事	14,500m ³	杭本数300本 × 杭長24m/本 × 0.8 × 0.8 × $\pi(\phi 1.6\text{m})$	
ごみピット 汚水処理設備 煙突基礎	7,300m ³	表面積 × 深さ (コンクリート厚さ分含む) ※ 深さは現況地盤の標高からの深さとする。	盛土として再利用

- 発生土の搬出及び埋立等にあたっては、**「神奈川県土砂の適正処理に関する条例」等を遵守**します。

⑧-10 電波障害 — 現地調査結果 —

● 電波障害調査地点
調査内容：・テレビジョン
放送電波の状況
地点数：19地点
時期等：1回

← 電波到来方向



⑧-10 電波障害 — 現地調査結果 —

【テレビジョン放送電波の状況】

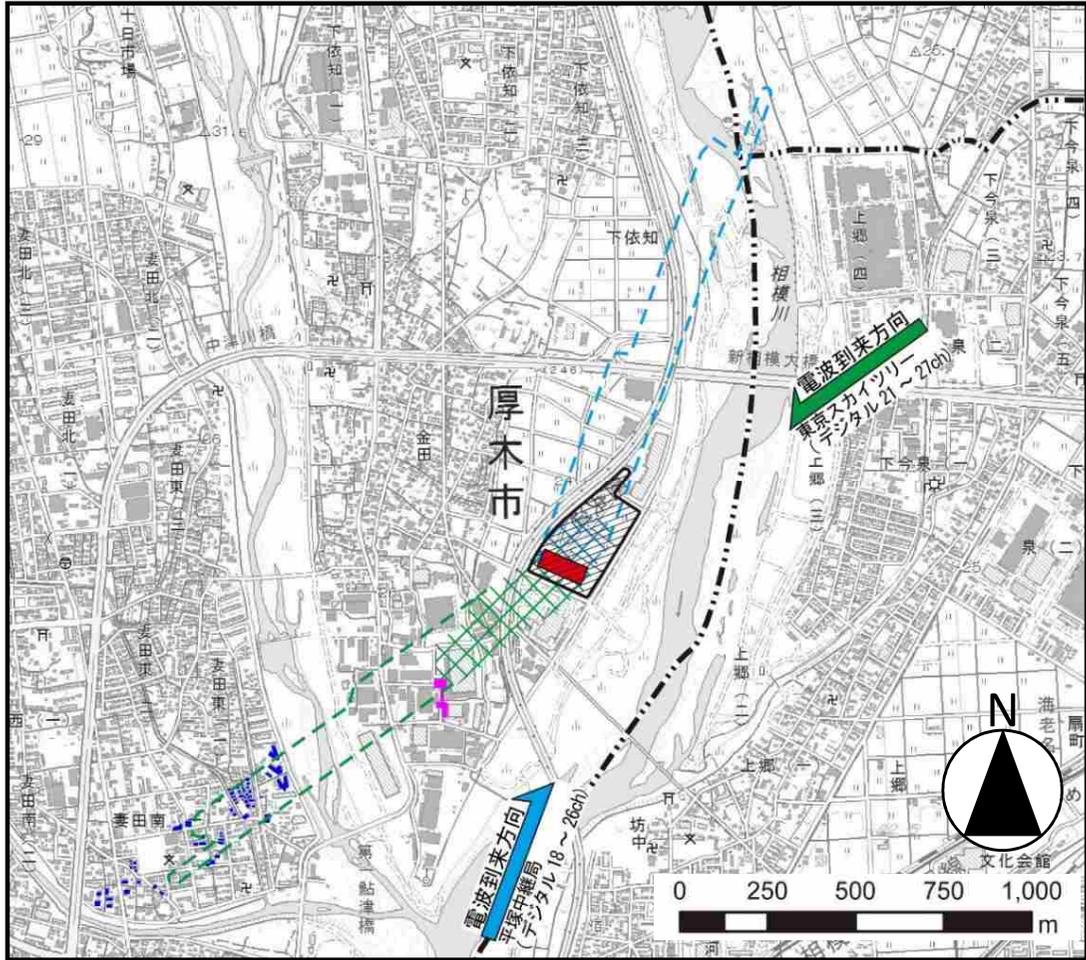
画像評価	調査地点数	
	東京スカイツリー	平塚中継局
全チャンネルが○の地点	12	5
△のチャンネルが存在する地点	0	0
×のチャンネルが存在する地点	1	1
計	13	6

○：正常に受信、△：ブロックノイズや画面フリーズがある、×：受信不能

東京スカイツリー、平塚中継局ともに1地点で受信不能のチャンネルがありました。その他の地点は全て正常に受信できていました。

⑧-10 電波障害 ー予測・評価結果ー

【施設の存在によるテレビジョン電波障害】



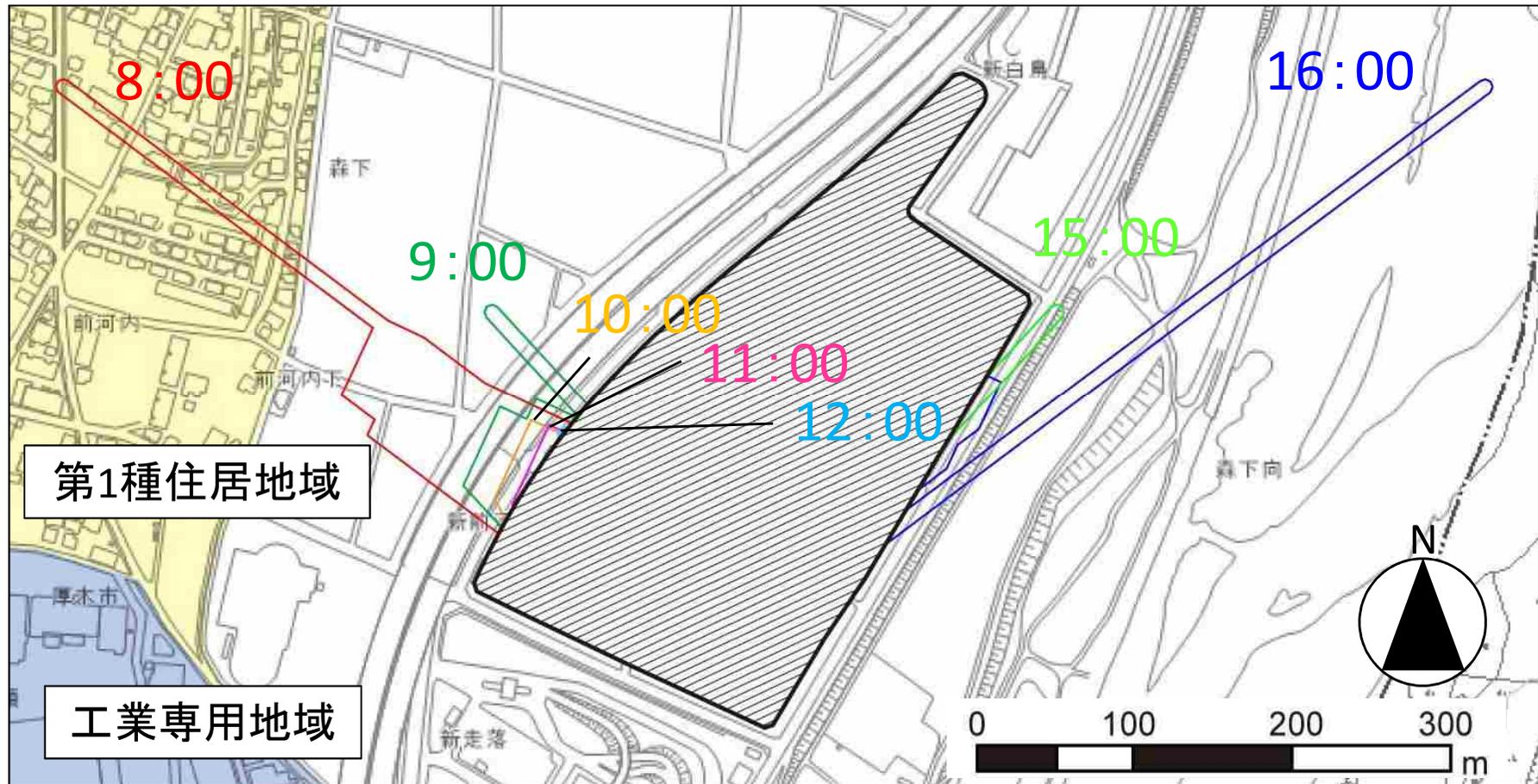
-  : 市界
-  : 実施区域
-  : 対象建築物
-  : 遮蔽障害地域
(東京スカイツリー(デジタル21～27ch))
-  : 遮蔽障害要確認範囲
(東京スカイツリー(デジタル21～27ch))
-  : 遮蔽障害地域
(平塚中継局(デジタル18～26ch))
-  : 遮蔽障害要確認範囲
(平塚中継局(デジタル18～26ch))
-  : ケーブルテレビ加入者宅
-  : 共同受信施設の設置範囲

・ 遮蔽障害範囲は、図中の網掛けの範囲となると予測されます。

・ 工事の完了後に電波障害が生じ、本事業による障害であることが明らかになった場合には、受信対策等の適切な措置を講じます。

⑧-11 日照阻害 ー予測・評価結果ー

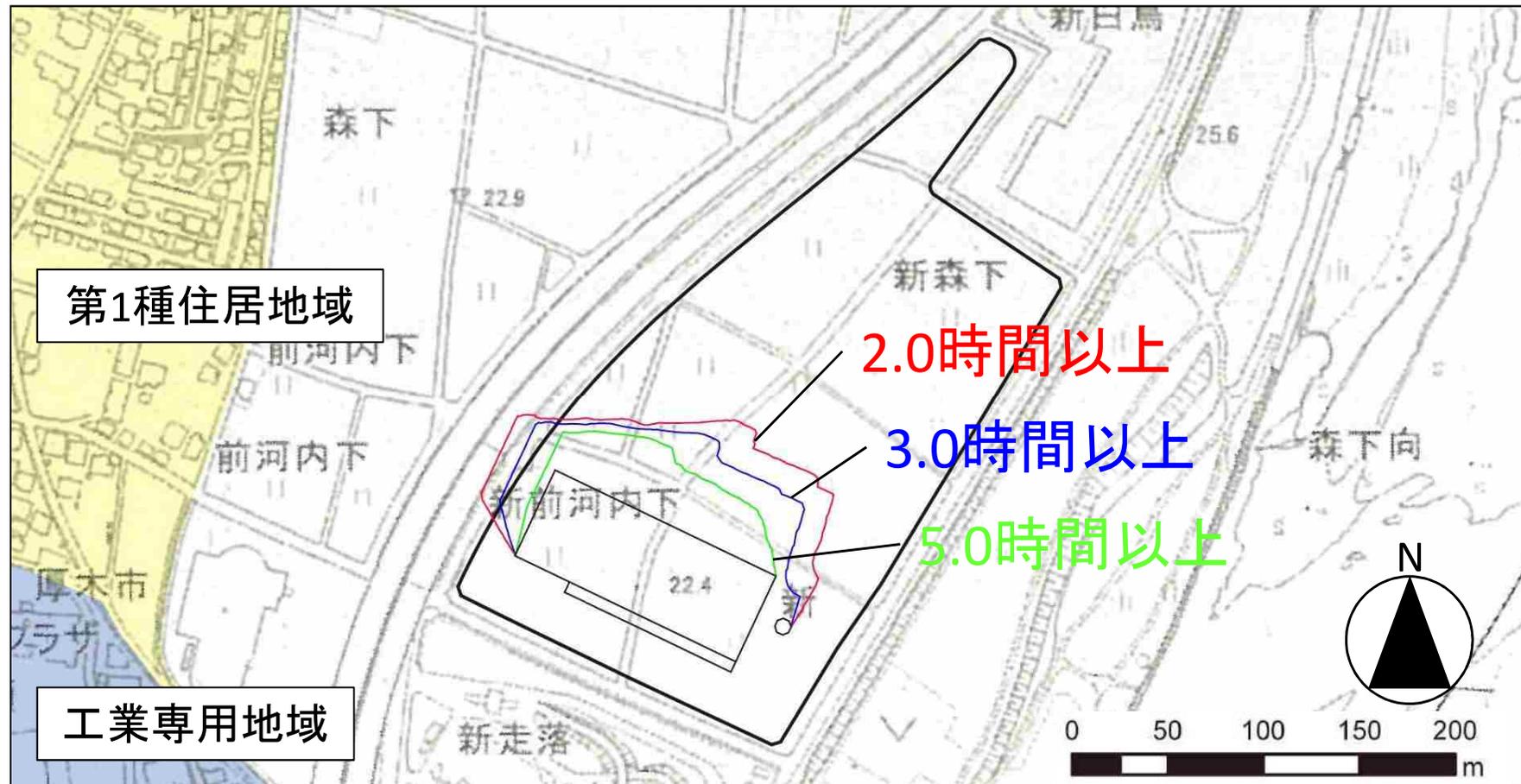
【土地又は工作物の存在に伴う日照阻害】



煙突の日影は広範囲に生じるものの、**煙突の影は狭い範囲で移動していることから、影響は少ないと予測されます。**

⑧-11 日照阻害 ー予測・評価結果ー

【土地又は工作物の存在に伴う日照阻害】



- ・ 実施区域外における日影時間は、**3時間程度が最長と予測**されます。
- ・ 計画建築物の高さを極力低く抑え、日影の状況に配慮します。

⑧-12 水象（地下水位） ー予測・評価結果ー

【造成工事等に伴う地下水位への影響】

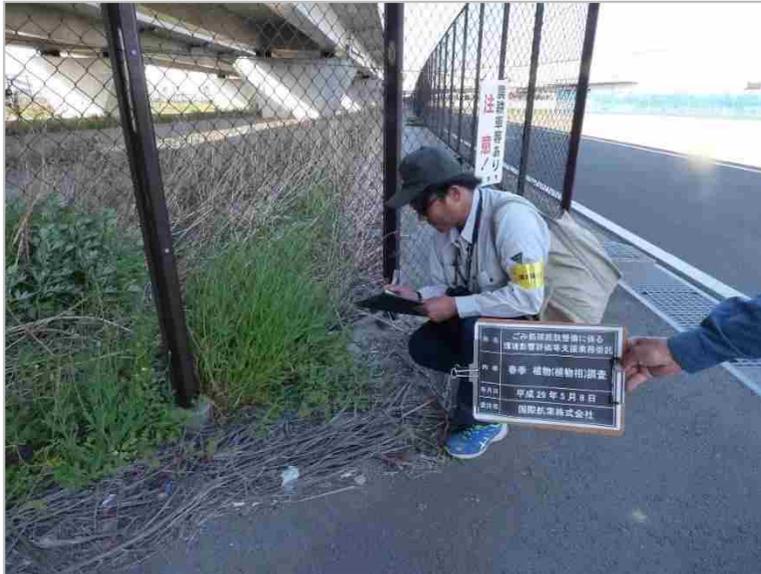
以下の環境保全対策を講じることから地下水位を低下させることはなく、**流況が大きく変化することはないと予測**されます。

- ・ ゴミピット部分の深い掘削を行う箇所は、遮水性の高い山留壁等を用い、地盤の安定性を確保し、帯水層からの湧水の抑制及び掘削底部から回り込む地下水の流入を防止します。
- ・ 地下水位については、工事着工前から工事完了後の一定の期間において観測を行います。

⑧-13 植物 ー現地調査結果ー

【植物相、植生及び重要な種の確認状況】

分類	確認種等	確認状況	
		区域内	区域外
植物相	82科381種	/	
植生	植物区分等は16区分、植物群落等は30区分 実施区域のある堤内地では、チガヤ群落や水田雑草群落等を確認		
重要な種	2種（ミゾコウジュ、カワヂシャ）	0種	2種



⑧-13 植物 ー予測・評価結果ー

【事業実施に伴う植物への影響】

- ・ 生育環境の直接改変及び質的変化はないことから、影響はないと予測されます。
- ・ 敷地内に緑地を努めて確保し、外来種を採用しない植栽計画とすることで、周辺植生との調和に配慮します。



ミゾコウジュ

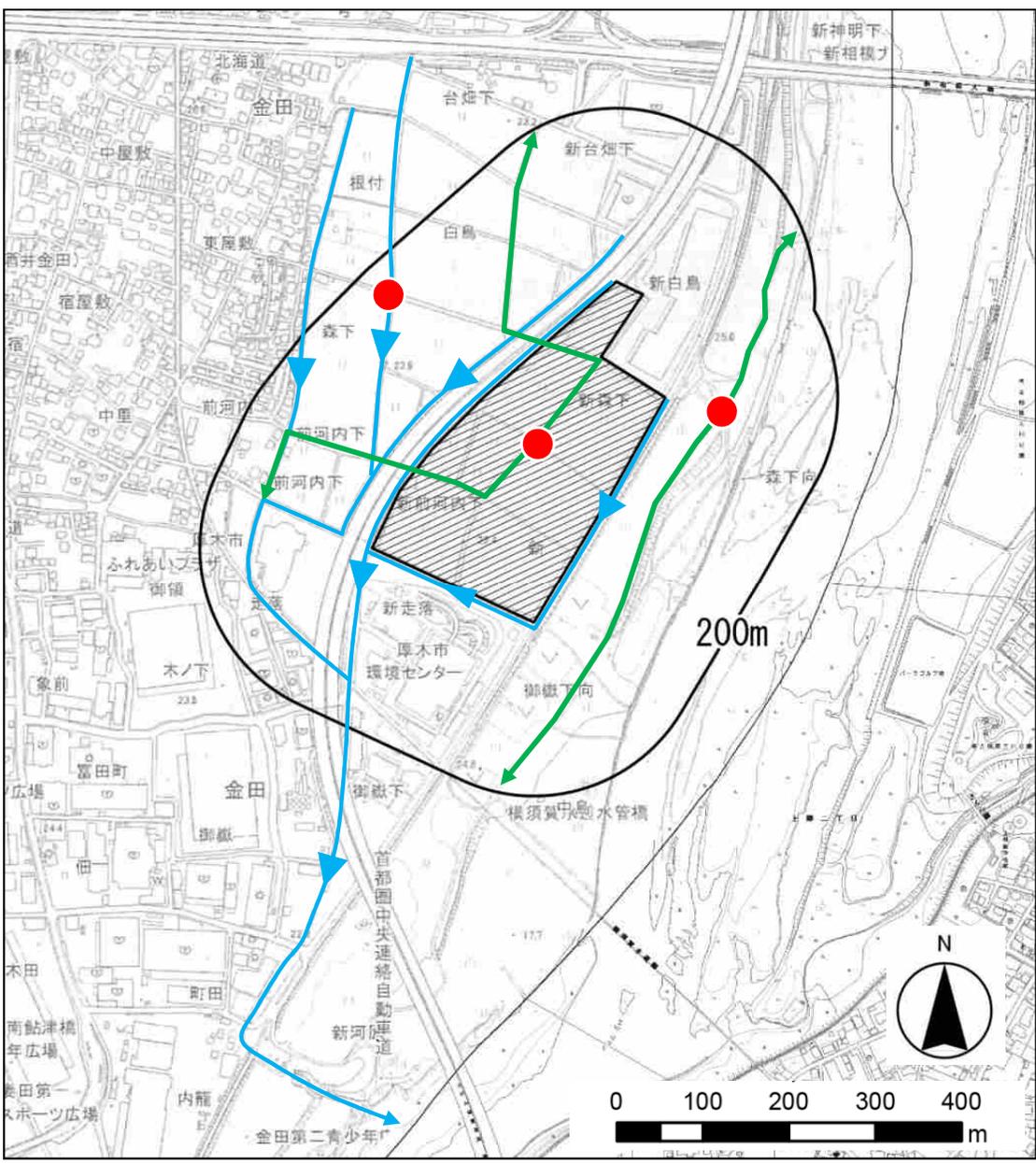


カワヂシャ

⑧-14 動物 ー現地調査概要ー

- 動物調査範囲
- 動物調査地点
(哺乳類トラップ、鳥類定点センサス、昆虫類トラップ)
- ↔ 動物調査地点(鳥類ルートセンサスのルート)

分類	調査方法	時期等
哺乳類	直接観察法、トラップ法等	4回
鳥類	ルートセンサス法、定点センサス法等	5回
爬虫類	直接観察法	3回
両生類	直接観察法、卵塊・幼生調査等	4回
昆虫類	直接観察法、スウィーピング法、ライトトラップ法等	5回



⑧-14 動物 ー現地調査結果ー

【動物相及び重要な種の確認状況】

分類	区分	確認種等	確認状況	
			区域内	区域外
動物相	哺乳類	4目6科7種		
	鳥類	13目34科59種		
	爬虫類	2目5科5種		
	両生類	1目3科3種		
	昆虫類	16目168科581種		
重要な種	哺乳類	1種(イタチ)	0種	1種
	鳥類	21種(オオヨシキリ、セグロセキレイ等)	7種	21種
	爬虫類	3種(ヒガシニホントカゲ、ヤマカガシ等)	0種	3種
	両生類	1種(トウキョウダルマガエル)	1種	1種
	昆虫類	15種(ミヤマアカネ、ヒゲコガネ等)	4種	14種



哺乳類調査



鳥類調査



両生類調査



昆虫類調査

⑧-14 動物 ー予測・評価結果ー

【事業実施に伴う動物への影響】

- ・ 生息環境の一部が改変される種もあるが、周囲の同様な生息環境へ移動が可能であるため影響はない又は小さいと予測されます。
- ・ 建設機械の配置を考慮し、1ヶ所での作業が集中しないよう作業量の平準化に努めます。



セグロセキレイ



ヒガシニホントカゲ



ミヤマアカネ

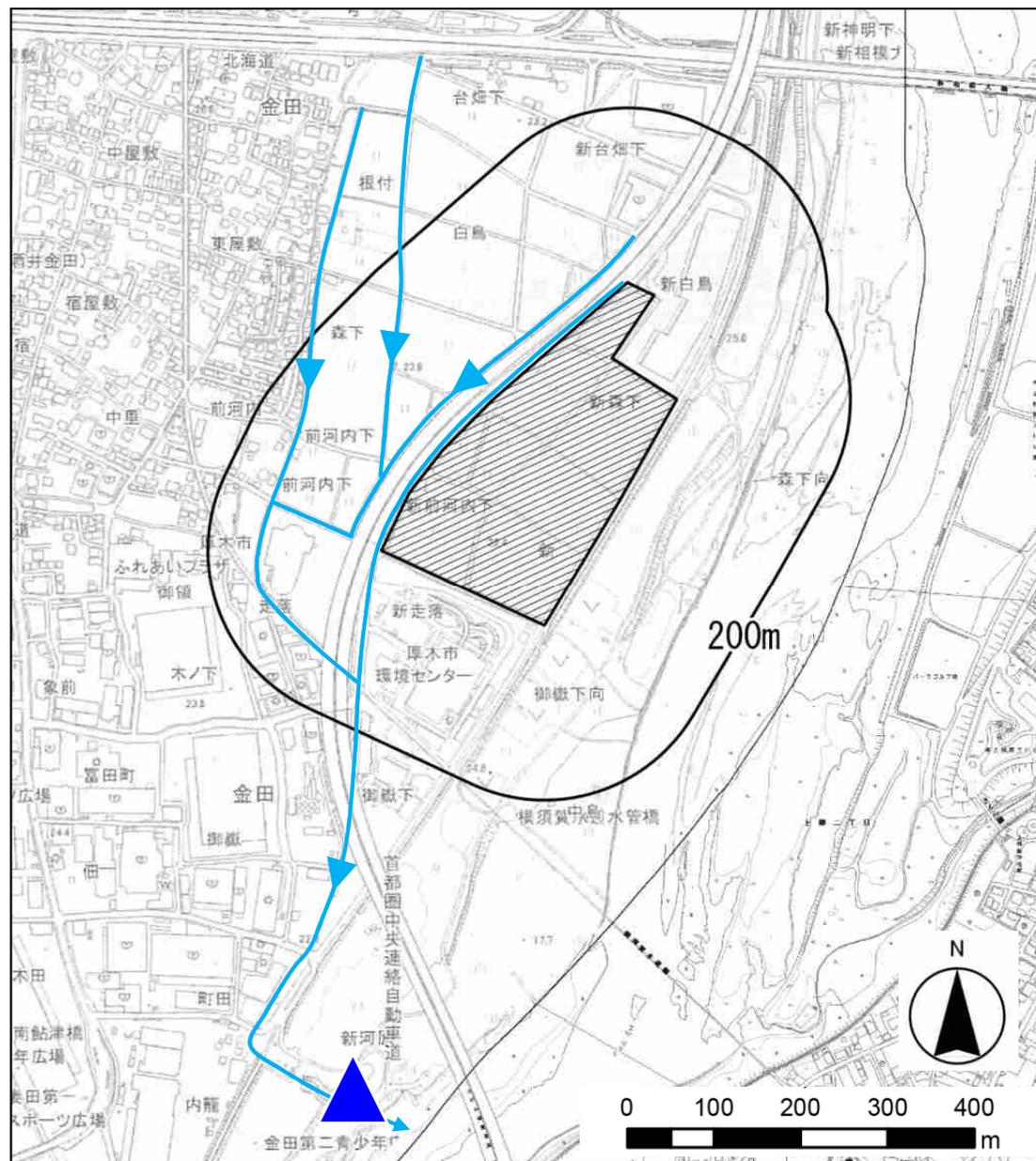
⑧-15 水生生物 ー現地調査概要ー

○ 動物調査範囲

→ 放流水路

▲ 水生生物調査地点 (1地点)

分類	調査方法	時期等
魚類	直接観察、捕獲	2回
底生動物	任意採集	2回



⑧-15 水生生物 ー現地調査結果ー

【水生生物相及び重要な種の確認状況】

区分	分類	確認種等
水生生物相	魚類	4目6科13種
	底生動物	7綱15目27科40種
重要な種	魚類	6種（アブラハヤ、ウグイ、カマツカ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ナマズ等）
	底生動物	3種（シジミ属、ハグロトンボ、コガムシ）

注) シジミ属は、「マシジミ」または「タイワンシジミ」と考えられる。ここではマシジミとして整理。



⑧-15 水生生物 ー予測・評価結果ー

【造成工事等に伴う水生生物への影響】

- ・ 放流水路は工事中の濁水放流先となるものの、濁水は降雨時の一時的なものであることから生息環境への影響は小さいと予測されます。
- ・ 放流水路が合流する相模川には同様の環境が広く分布することから、生息環境への影響は小さいものと予測されます。
- ・ 工事中は実施区域内に仮設沈砂池を設け、雨水を一旦貯留し、濁水の土砂を沈降させた後に上澄みを放流します。



ドジョウ



ナマズ

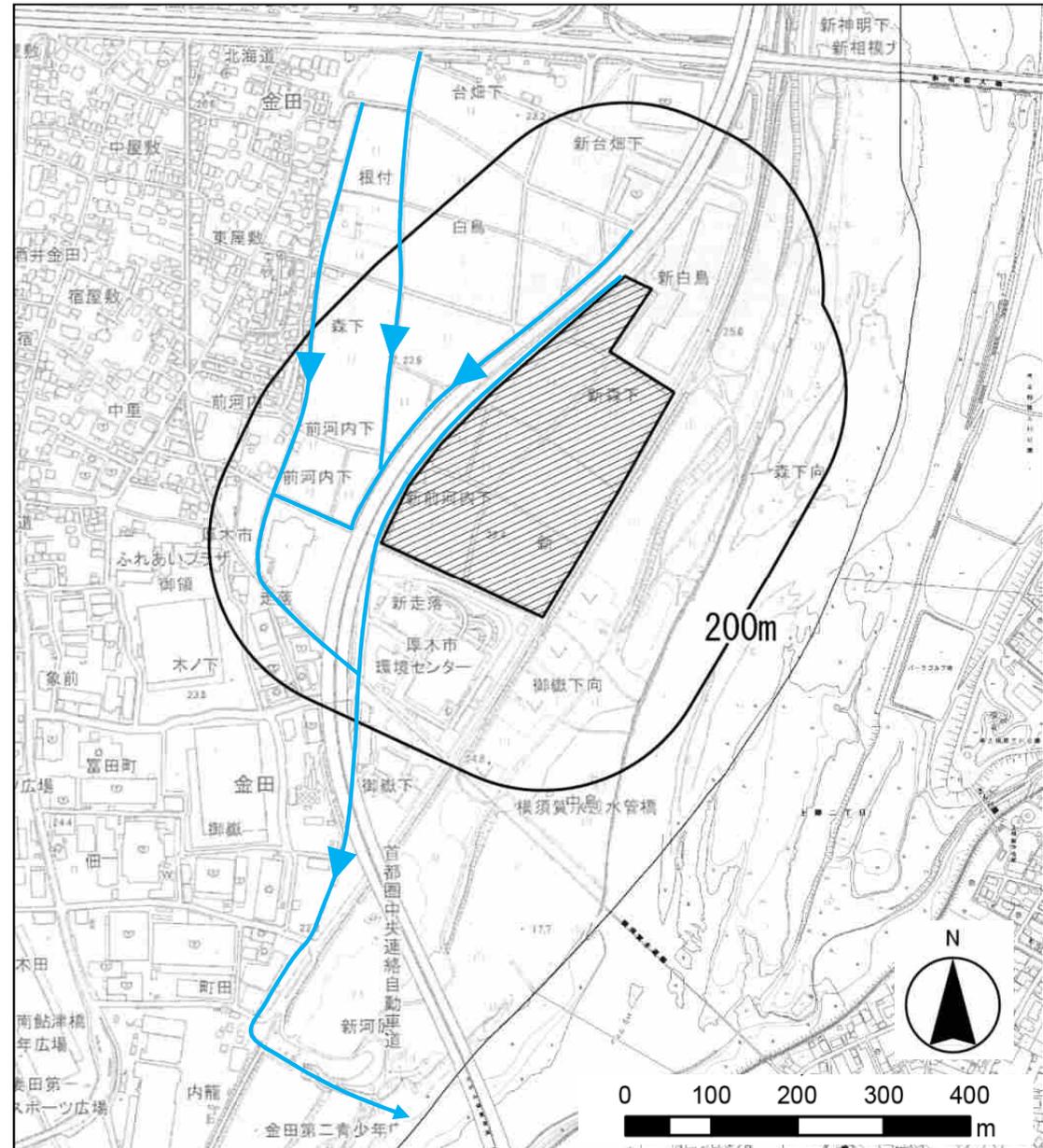


ハグロトンボ

⑧-16 生態系 ー現地調査概要ー

○ 生態系調査範囲

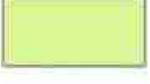
→ 放流水路

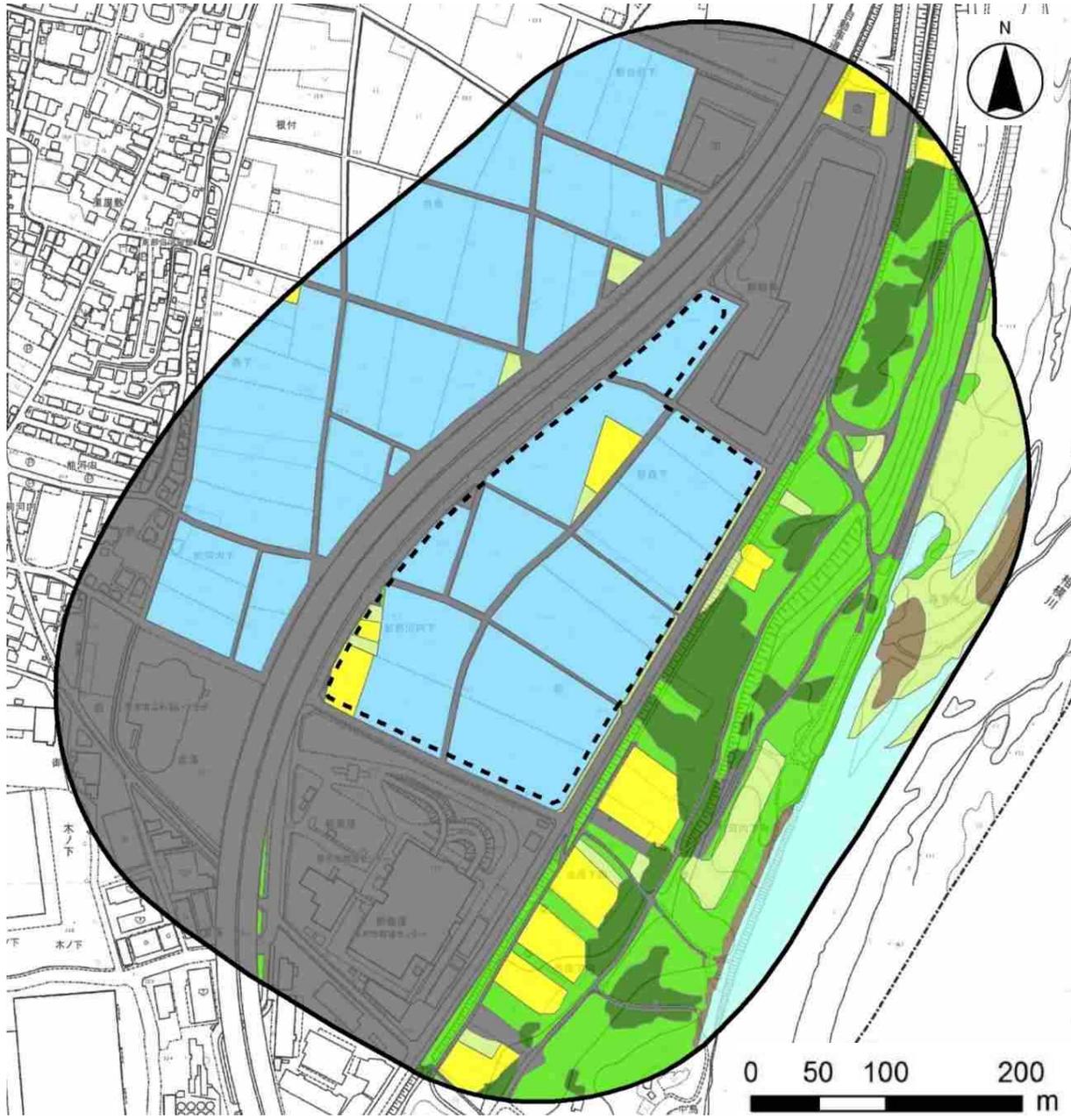


⑧-16 生態系 — 現地調査結果 —

【環境類型の区分】

・ 環境類型の区分は8区分としました。

-  調査範囲
-  実施区域
-  樹林
-  高茎草本
-  低茎草本
-  耕作地(畑等)
-  耕作地(水田)
-  人工構造物
-  自然裸地
-  開放水域



⑧-16 生態系 — 現地調査結果 —

【注目種・群集等の状況】

区分	分類	種名
上位性	哺乳類	タヌキ、イタチ
	鳥類	アオサギ、チュウサギ
典型性	哺乳類	アズマモグラ
	鳥類	ムクドリ、イカルチドリ、コチドリ
	両生類	トウキョウダルマガエル
	植生	ムクノキーエノキ群落、オギ群落、 水田雑草群落

特殊性の環境及び注目種は、特殊な環境が見られないことから選定しませんでした。

- ・ 生態系の上位性では哺乳類2種及び鳥類2種、典型性では哺乳類1種、鳥類3種、両生類1種、植生3群落を選定しました。

⑧-16 生態系 ー予測・評価結果ー

【事業実施に伴う生態系への影響】

- ・ 生息・生育環境が一部改変されますが、**周辺に同様の環境が広く残されており、影響は小さいと予測**されます。
- ・ 工事中は騒音・振動レベルが増加すると予測されますが、一時的であり**環境の質の変化は生じないと予測**されます。
- ・ 敷地内に緑地を努めて確保し、外来種を採用しない植栽計画とすることで、周辺植生との調和に配慮します。



上位性：タヌキ



典型性：ムクドリ

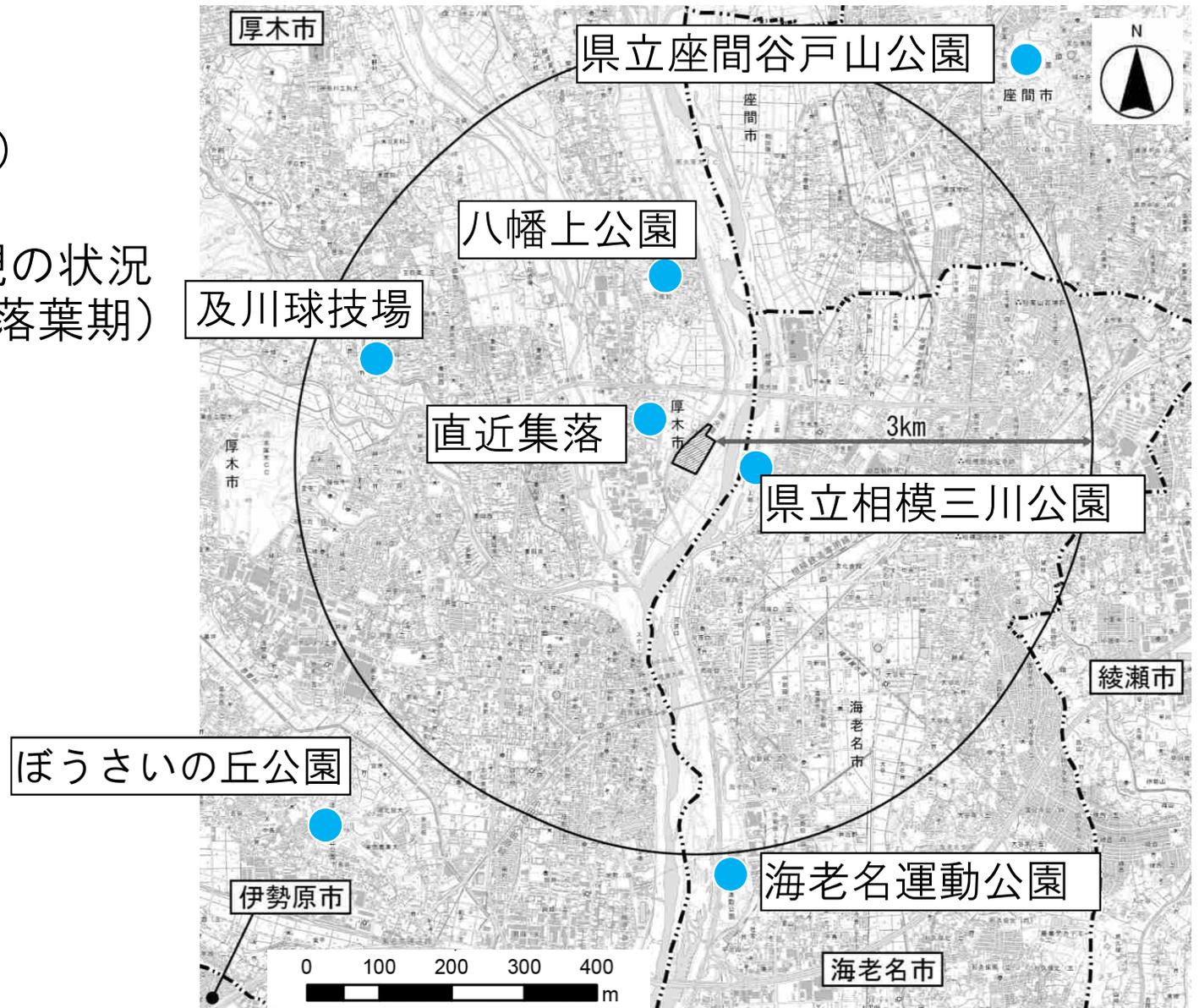


典型性：水田雑草群落

⑧-17 景観 — 現地調査概要 —

● 景観の調査地点（7地点）

調査内容：主要な眺望景観の状況
時期等：計2回（着葉期・落葉期）



⑧-17 景観 ー現地調査結果ー

【主要な眺望景観の状況】

調査地点	実施区域からの距離 (m)	眺望の有無
県立座間谷戸山公園	3,500	×
八幡上公園	1,100	△
及川球技場	2,500	×
直近集落	240	○
県立相模三川公園	500	○
ぼうさいの丘公園	3,900	△
海老名運動公園	3,150	△

○：実施区域が視認できる地点。

△：実施区域は視認できないが、現施設の煙突は視認できる地点。

×：実施区域、現施設の煙突のいずれも視認できない地点。

- ・ 実施区域の周辺を視認できる地点は、2地点（直近集落、県立相模三川公園）でした。

⑧-17 景観 ー予測・評価結果ー

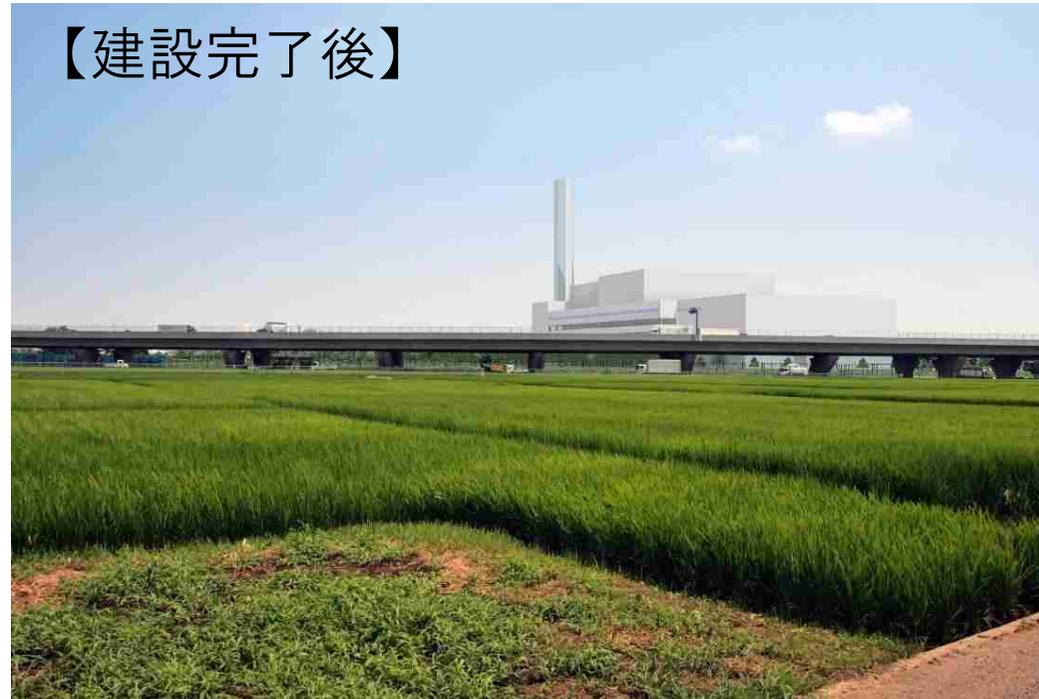
【土地又は工作物の存在に伴う景観への影響】

●直近集落：着葉期

【現状】



【建設完了後】



- ・ 建物や煙突の意匠及び色彩は、良好な周辺環境の形成にふさわしいものとし、周辺の景観的調和に配慮することから、**景観の変化は小さいものと予測**されます。
- ・ 計画施設の外壁等の色彩は、周辺の自然色との調和に配慮します。

⑧-17 景観 ー予測・評価結果ー

【土地又は工作物の存在に伴う景観への影響】

● 県立相模三川公園：着葉期

【現状】



【建設完了後】



- ・ 建物や煙突の意匠及び色彩は、良好な周辺環境の形成にふさわしいものとし、周辺の景観的調和に配慮することから、**景観の変化は小さいものと予測**されます。
- ・ 実施区域の敷地周縁部に植栽を施し、周辺環境との調和を図ります。

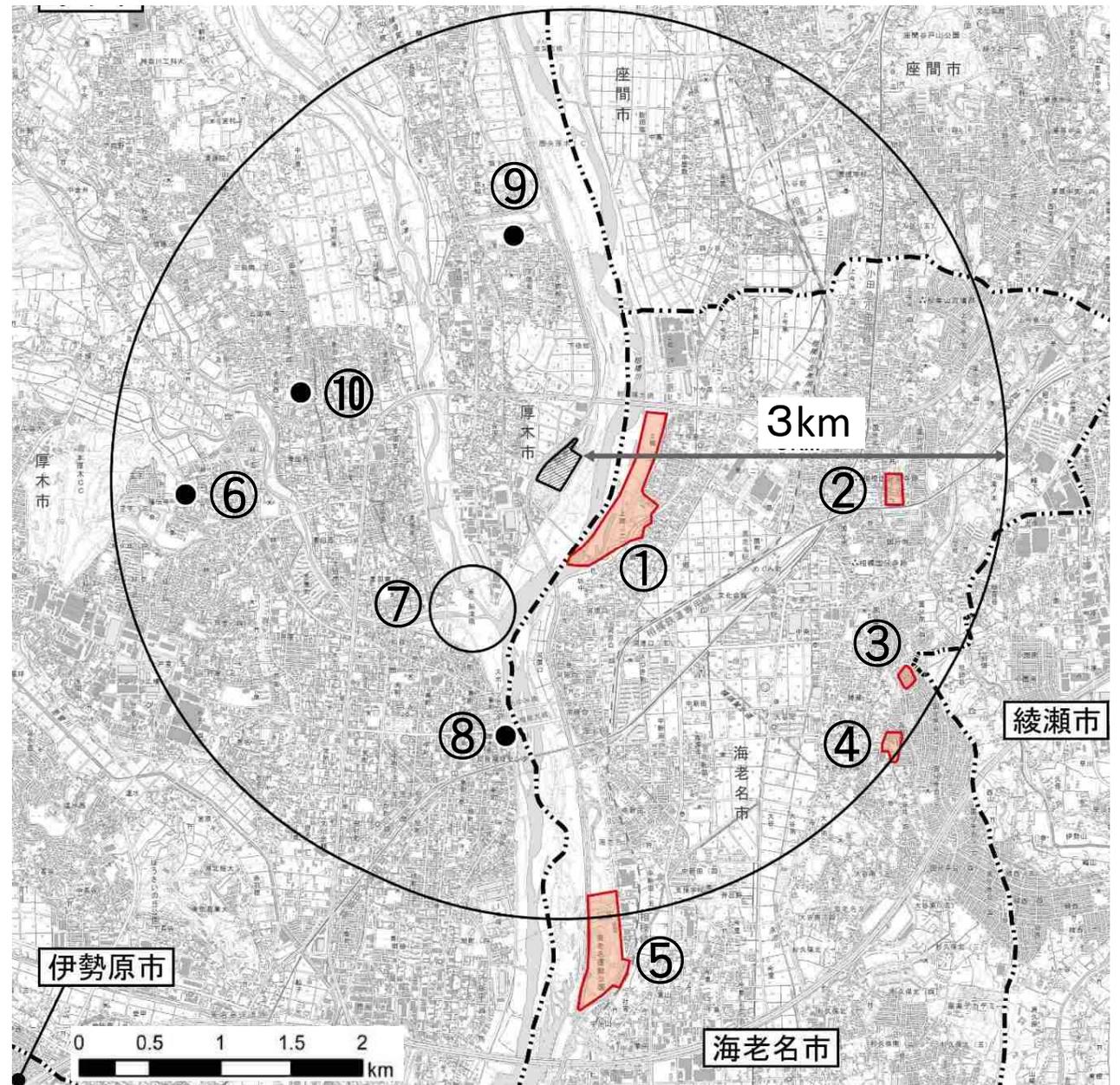
⑧-18 レクリエーション資源 ー現地調査概要ー

●○● 調査地点（10地点）

- ① 県立相模三川公園
- ② 清水寺公園
- ③ ひさご塚公園
- ④ 浜田歴史公園
- ⑤ 海老名運動公園
- ⑥ 牧歌牧場
- ⑦ 相模川・中津川・小鮎川
- ⑧ 烏山藩厚木役所跡
- ⑨ 浅間神社(中依知)銅鐘
- ⑩ 妻田薬師(妻田西)薬師堂

調査内容：利用状況

時期等：平日休日の計2回
(9:00～17:00)



⑧-18 レクリエーション資源 ー現地調査結果ー

【レクリエーション資源の利用状況】

調査地点	利用状況		調査地点	利用状況	
	平日	休日		平日	休日
①県立相模三川公園	○	○	⑥牧歌牧場	×	×
②清水寺公園	×	○	⑦相模川・中津川・小鮎川	○	○
③ひさご塚公園	×	○	⑧烏山藩厚木役所跡	×	×
④浜田歴史公園	×	×	⑨浅間神社(中依知)銅鐘	×	×
⑤海老名運動公園	○	○	⑩妻田薬師(妻田西)薬師堂	○	×

○：利用者が確認された
 ×：利用者が確認されなかった

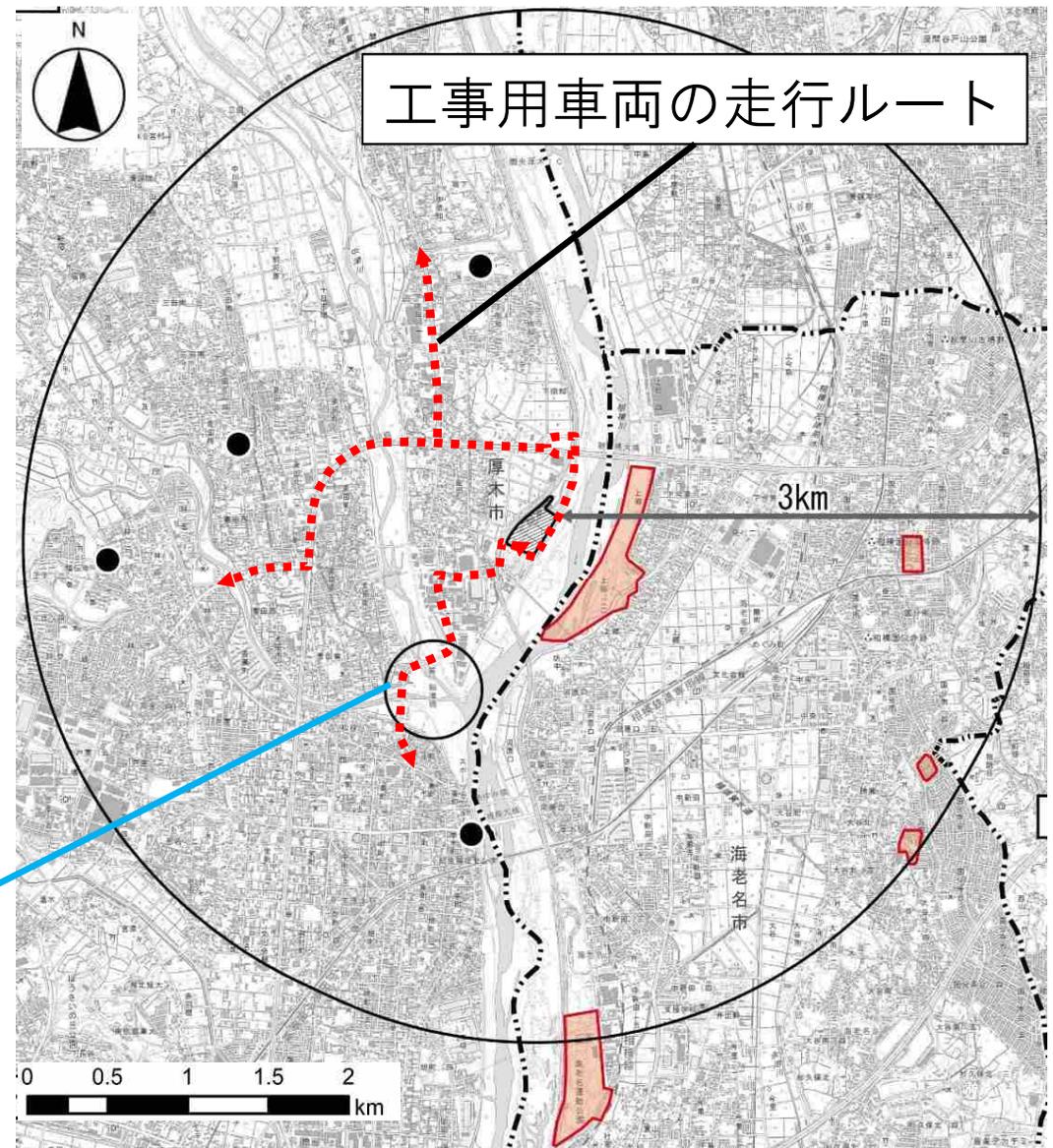
・ 平日、休日ともに利用者が確認されたのは3地点でした。
 ・ 実施区域に近い「県立相模三川公園」や「相模川・中津川・小鮎川」では、特に休日の利用者が多くなっていました。

⑧-18 レクリエーション資源 ー予測・評価結果ー

【工事用車両の走行に伴うレクリエーション資源への影響】

- ・ 利用経路が重なると想定される道路の交通量増加率は、**最大で約3.6%と予測**されます。
- ・ 作業量の平準化を行い、工事用車両の走行時期や時間の分散に努めます。

「相模川・中津川・小鮎川」と工事用車両の走行経路が重なると想定されます。

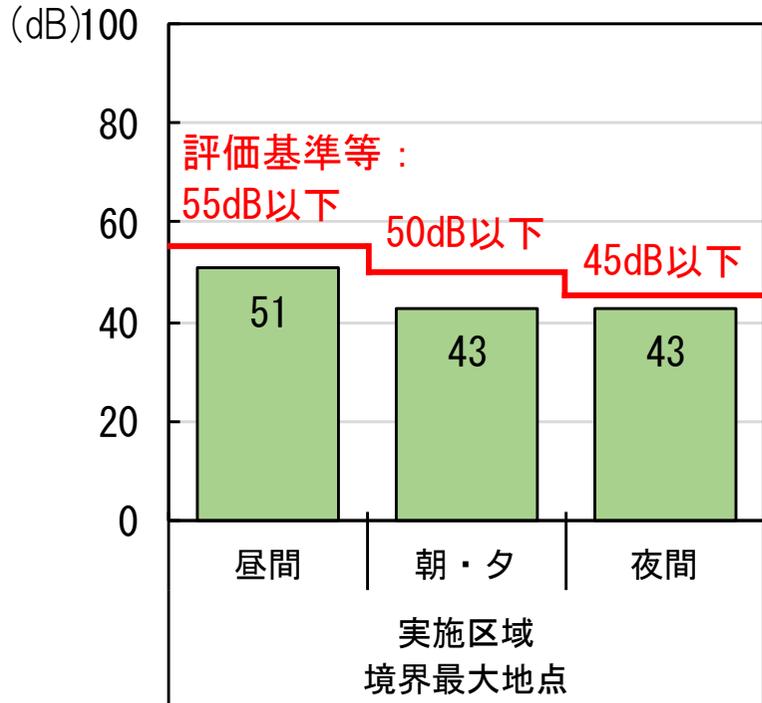


⑧-18 レクリエーション資源 ー予測結果ー

【施設の稼働に伴うレクリエーション資源への影響】

●騒音予測結果(施設の稼働)

●悪臭予測結果(施設の稼働)



項目	予測結果
臭気指数	10未満
アンモニア	0.1未満
メチルメルカプタン	0.0005未満
硫化水素	0.0005未満
硫化メチル	0.0005未満
二硫化メチル	0.0005未満

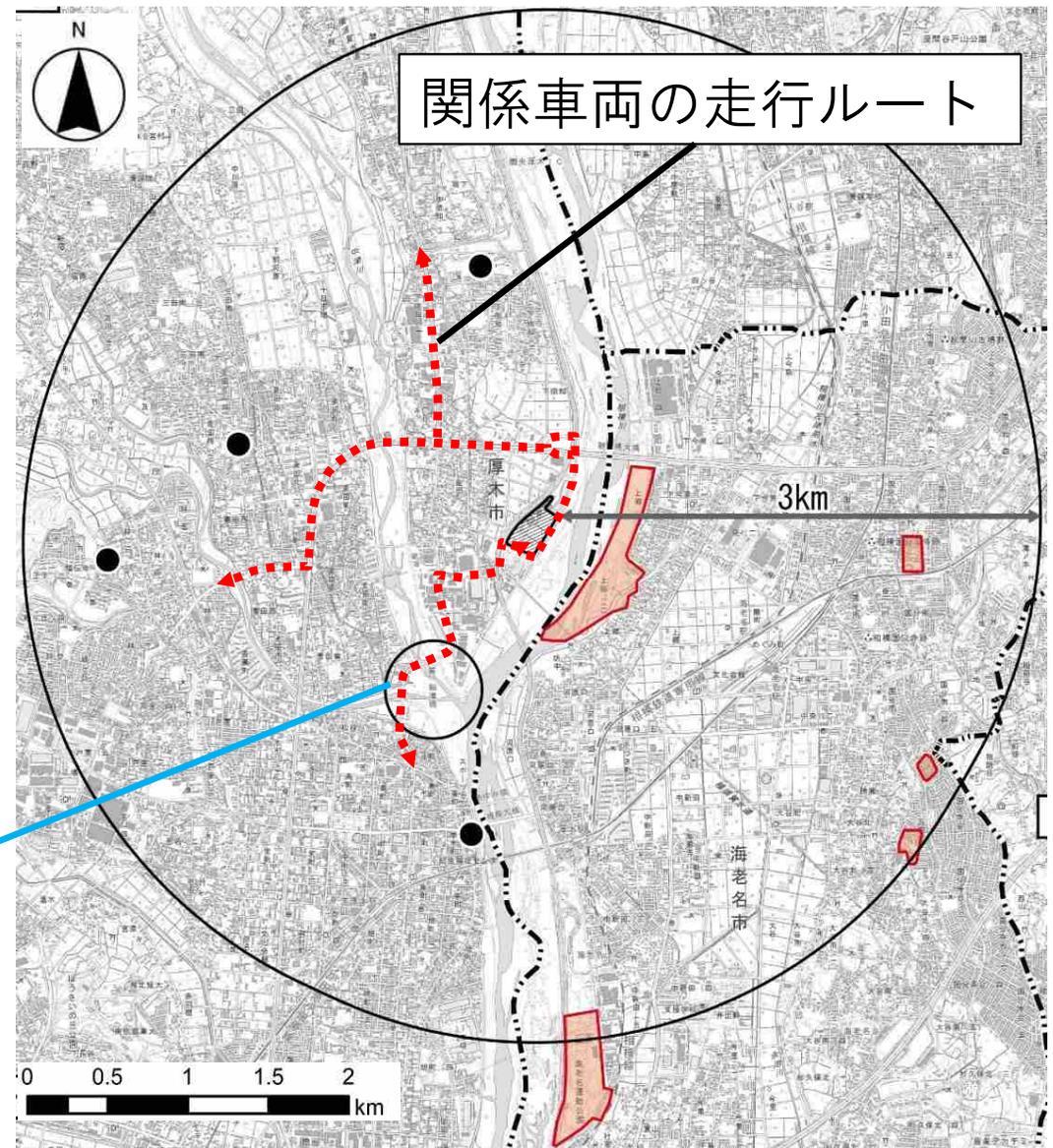
- ・ 本事業により、レクリエーション資源が**直接改変されることはありません。**
- ・ 騒音及び悪臭の項目は、前述の予測結果が**全て基準値等と整合が図られています。**
- ・ 騒音の発生源強度を極力低減するよう、低騒音型設備機器の採用に努めます。
- ・ 建築設備の密閉化、エアカーテン等の設置により悪臭の漏洩を防止します。

⑧-18 レクリエーション資源 ー予測結果ー

【関係車両の走行に伴うレクリエーション資源への影響】

- ・ 利用経路が重なると想定される道路の交通量増加率は、**最大で約5.0%と予測**されます。
- ・ 地元車両や歩行者等の優先に配慮し、トラブルや交通事故を防止します

「相模川・中津川・小鮎川」と関係車両の走行経路が重なると想定されます。



⑧-19 温室効果ガス ー予測・評価結果ー

【建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴う温室効果ガス排出量】

項目	予測結果 (温室効果ガス排出量)
建設機械の稼働	3,667
工事用車両の走行	2,659

- ・ 建設機械の稼働による温室効果ガス排出量は3,667t-CO₂、工事用車両の走行による温室効果ガス排出量は2,659t-CO₂と予測されます。
- ・ 建設機械の集中稼働を避け、工事用車両のアイドリングストップ・エコドライブの徹底等を実施します。

⑧-19 温室効果ガス ー予測・評価結果ー

【施設の稼働及び関係車両の走行に伴う温室効果ガス排出量】

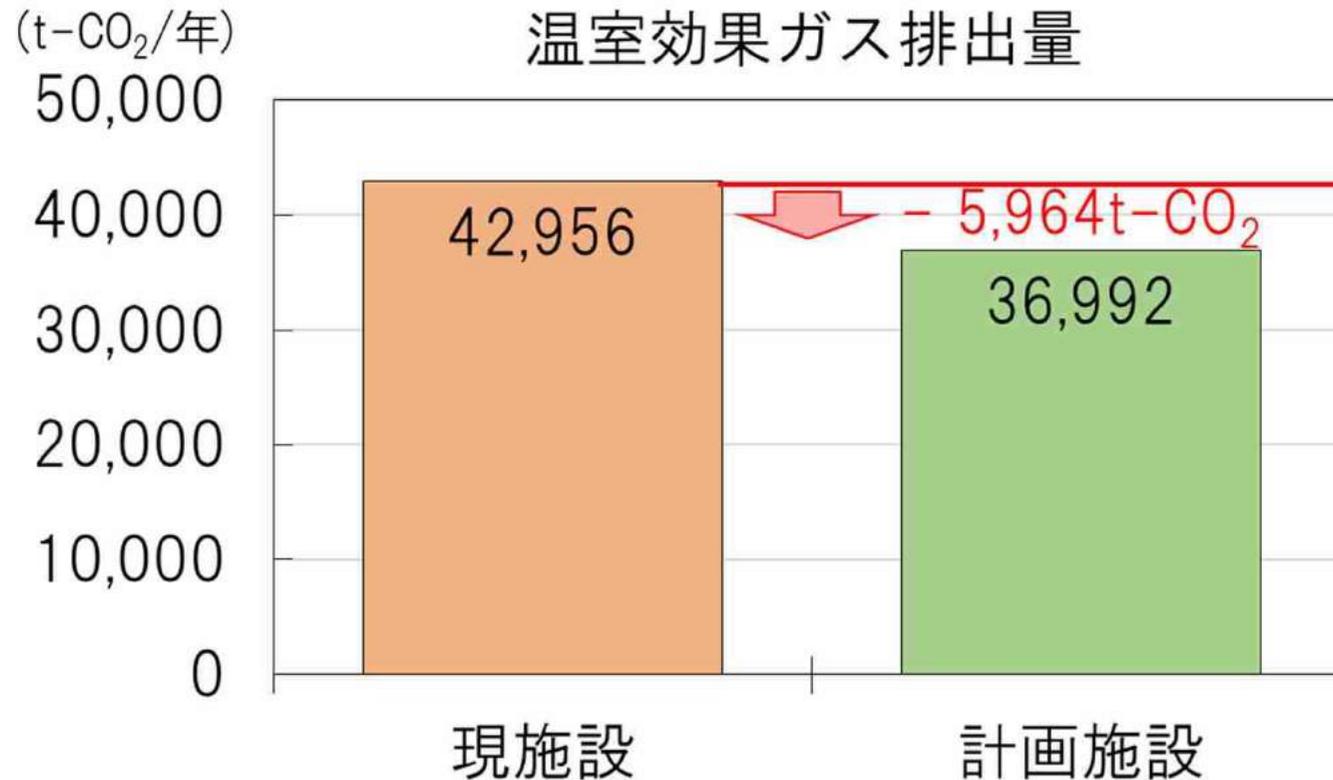
項目	予測結果 (温室効果ガス排出量)
施設の稼働	36,992 ※
関係車両の走行	16

※発電及び余熱利用による温室効果ガスの削減量を考慮した数値

- ・ 施設の稼働による温室効果ガス排出量は36,992t-CO₂、関係車両の走行による温室効果ガス排出量は16t-CO₂と予測されます。
- ・ エネルギー効率の高い設備機器を導入します。

⑧-19 温室効果ガス ー予測・評価結果ー

【施設の稼働に伴う温室効果ガス排出量】 現施設との比較



- ・ 計画施設の方が厚木市環境センター（現施設）よりも少ない量（約86%）となります。
- ・ 施工方法や工程等を十分に検討して建設機械の集中稼働を避け、効率的な稼働に努めます。

⑧-20 安全(危険物等) 一予測・評価結果一

【施設の稼働に伴う危険物等】

類似施設名	災害件数
厚木市環境センター	0 件

- ・ 類似施設として厚木環境センター（現施設）においても、危険物等による災害は発生していないことから、**安全性は確保されると予測**されます。
- ・ 危険物等の取扱い、貯蔵にあたっては、「消防法」（昭和23年、法律第186号）等を遵守し、消防署等、関係機関と協議の上、実施します。

⑧-21 安全(交通) ー現地調査概要ー

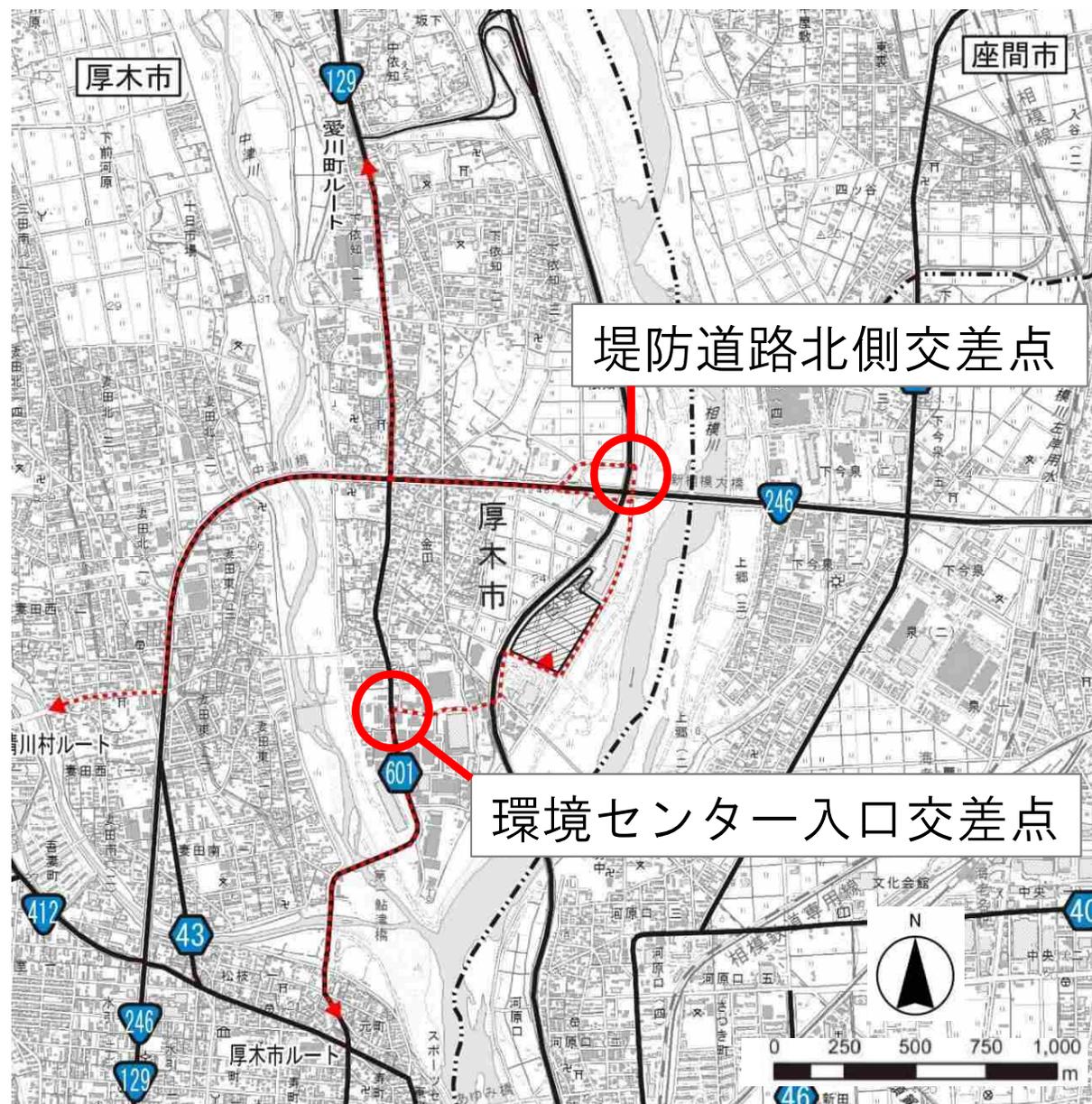
○ 安全(交通)の調査地点

調査内容：交差点の交通量

地点数：2地点

時期等：平日1回

(7:00～19:00の12時間)



⑧-21 安全(交通) ー現地調査結果ー

【交差点の交通量】

区分		堤防道路北側交差点	環境センター入口交差点
12時間 交通量 (台/12h)	大型車	4,482	2,681
	小型車	8,936	6,481
	廃棄物運搬車	224	202
	自動車計	13,642	9,364
	二輪車	423	393
ピーク時 交通量 (台/時)	大型車	362	262
	小型車	1,093	610
	廃棄物運搬車	10	29
	自動車計	1,465	901
	二輪車	80	29
ピーク時間帯	7～8時	15～16時	

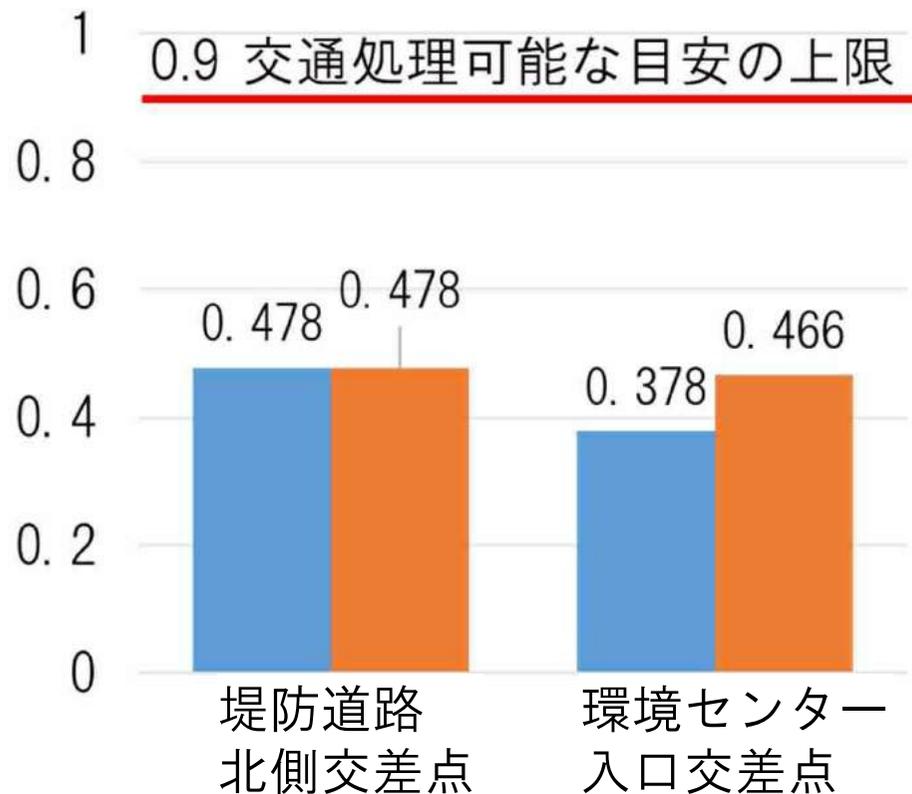
- ・ 交差点合計交通量は、12時間交通量は9,364～13,642台、ピーク時交通量は901～1,465台でした。
- ・ ピーク時間帯は、No.1で7～8時、No.2で15～16時でした。

⑧-21 安全(交通) ー予測・評価結果ー

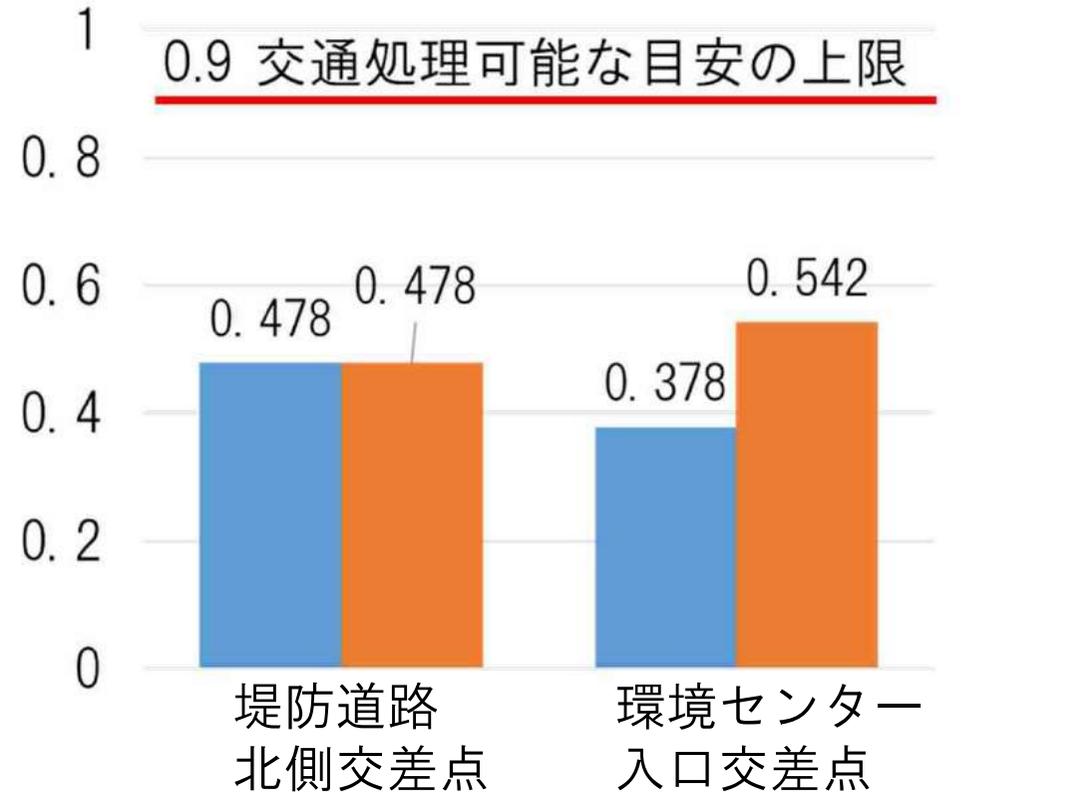
【工事用車両及び関係車両の走行に伴う交通の安全】

■ : 現況
■ : 予測結果

●工事用車両の走行



●関係車両の走行



- ・ 全ての地点で0.9を下回っていました。
- ・ 朝・夕の時間帯には、児童・生徒の登下校の安全を確保するため、車両の走行台数及び走行ルート等に配慮します。

⑨ 事後調査計画の概要

評価項目	区分	事後調査項目
大気汚染	工事中	建設機械の稼働に伴う大気汚染物質
		工事用車両の走行に伴う大気汚染物質
		造成工事等、建設機械の稼働、工事用車両の走行に伴うふんじん
	供用時	施設の稼働に伴う大気汚染物質
水質汚濁	工事中	造成工事等に伴う浮遊物質量
土壌汚染	供用時	施設の稼働に伴うダイオキシン類
騒音・低周波音	工事中	建設機械の稼働に伴う騒音
		工事用車両の走行に伴う騒音
	供用時	施設の稼働に伴う騒音・低周波音
振動	工事中	建設機械の稼働に伴う振動
		工事用車両の走行に伴う振動
	供用時	施設の稼働に伴う振動
地盤沈下・水象(地下水)	工事中	工事中の地下水位
悪臭	供用時	施設の稼働に伴う特定悪臭物質及び臭気指数
廃棄物・発生土	工事中	造成工事等に伴い発生する廃棄物及び建設発生土の発生量及び処理・処分の方法
レクリエーション資源	工事中	工事用車両の走行によるレクリエーション資源までの経路が受ける影響の内容及び程度
温室効果ガス	工事中	建設機械の稼働及び工事用車両の走行に伴い発生する温室効果ガスの排出量及び削減の程度
安全(交通)	工事中	工事用車両の走行に伴う自動車交通量

⑩ 今後の予定

○ 予測評価書案の縦覧期間等

- ・ 縦覧期間：平成30年11月16日（金）～平成31年1月4日（金）
- ・ 縦覧日等：縦覧場所によりご覧いただける曜日や時間が異なります。

※実施計画書の全文はこちらのURLにてご覧いただけます。

<http://www.atsugi-aiko.com/>

厚木市環境アセスメント

検索



○ 環境の保全上の見地からの予測評価書案意見書の提出

- ・ 提出期限：平成31年1月4日（金）必着
- ・ 提出方法：縦覧場所に備え付けの意見書用紙にご記入の上、お問合せ先にある事業者まで郵送又は持参してください。電子メールやFAXでの受付はしてありません。